705
32

0030484004

0030484-004

７０５－３２

明治大正財政史

大蔵省・編

財政経済学会

第１－２０巻

昭１１至１５

AEA

3Q-99

大藏省編纂

明治大正財政史

第四卷

發行元 東京 財政經濟學會

705
32

明治大正財政史　第四卷　目次

第四編　歳計（中）

第二章　一般會計……一
第十六節　大正六年度歳計……一
第一款　豫算……一
第一項　豫算案の大綱……一
第二項　豫算不成立及實行豫算の編成……七
第二款　追加豫算……一三
第三款　豫備金及豫備金外支出……四一
第四款　決算……四二
第十七節　大正七年度歳計……六〇
第一款　豫算……六〇
第一項　豫算案の大綱……六〇
第二項　豫算の成立及公布……六七

第二款　追加豫算……一〇一
第三款　豫備金及豫備金外支出……一一三
第四款　決　算……一一四
第十八節　大正八年度歳計……一一四
第一款　豫　算……一一四
第一項　豫算案の大綱……一一四
第二項　豫算の成立及公布……一一四
第二款　追加豫算……一一四
第三款　豫備金及豫備金外支出……一一四
第四款　決　算……一一四
第十九節　大正九年度歳計……一一四
第一款　豫　算……一一四
第一項　豫算案の大綱……一一四
第二項　豫算不成立及實行豫算の編成……一一五
第二款　追加豫算……一二九
第三款　豫備金及豫備金外支出……一二四
第四款　決　算……一二五

第二十節　大正十年度歳計……一八七
第一款　豫　算……一八七
第一項　豫算案の大綱……一八七
第二項　豫算の成立及公布……一八七
第二款　追加豫算……一八七
第三款　豫備金及豫備金外支出……一八七
第四款　決　算……一八七
第二十一節　大正十一年度歳計……一八七
第一款　豫　算……一八七
第一項　豫算案の大綱……一八七
第二項　豫算の成立及公布……一八七
第二款　追加豫算……一八七
第三款　豫備金及豫備金外支出……一八七
第四款　決　算……一八七
第二十二節　大正十二年度歳計……一八七
第一款　豫　算……一八七
第一項　豫算案の大綱……一八七

第二項　豫算の成立及公布……四四五
第三項　實行豫算の編成……四七六
第二款　追加豫算……四七七
第三款　豫備金及豫備金外支出……五〇二
第四款　決　算……五〇四
第二十三節　大正十三年度歳計……五二四
第一款　豫　算……五二四
第一項　豫算案の大綱……五二四
第二項　豫算不成立及實行豫算の編成……五二八
第二款　追加豫算……五三一
第三款　豫備金及豫備金外支出……五六二
第四款　決　算……五六五
第二十四節　大正十四年度歳計……五八六
第一款　豫　算……五八六
第一項　豫算案の大綱……五八七
第二項　豫算の成立及公布……五九七
第二款　追加豫算……六三六

第三款　豫備金及豫備金外支出……六五四
第四款　決　算……六五五
第二十五節　大正十五昭和元年度歳計……六七六
第一款　豫　算……六七六
第一項　豫算案の大綱……六七六
第二項　豫算の成立及公布……六七六
第二款　追加豫算……六七六
第三款　豫備金支出……七四七
第四款　決　算……七四八
第二章附表　一般會計歳入歳出決算額累年一覧表……七七八—七七九
第三章　特別會計……七七九
第一節　明治三十五年度歳計……七七九
第一款　豫　算……七七九
第二款　追加豫算……七九九
第三款　豫備金及豫備金外支出……八〇八
第四款　決　算……八一〇

第二節　明治三十六年度歳計……八二九
第一款　豫　算……八二九
第二款　追加豫算……八三〇
第三款　豫備金及豫備金外支出……八三九
第四款　決　算……八四二
第三節　明治三十七年度歳計……八六四
第一款　豫　算……八六四
第二款　追加豫算……八六四
第三款　豫備金及豫備金外支出……八六五
第四款　決　算……八六九
第四節　明治三十八年度歳計……八七四
第一款　豫　算……八九六
第二款　追加豫算……八九六
第三款　豫備金及豫備金外支出……九二〇
第四款　決　算……九二二
第五節　明治三十九年度歳計……九二六
第一款　豫　算……九四五
第二款　追加豫算……九七一
第三款　豫備金及豫備金外支出……九七三
第四款　決　算……九七六
第六節　明治四十年度歳計……九九六
第一款　豫　算……九九六
第二款　追加豫算……一〇〇六
第三款　豫備金及豫備金外支出……一〇一五
第四款　決　算……一〇一九
第七節　明治四十一年度歳計……一〇三〇
第一款　豫　算……一〇三一
第二款　追加豫算……一〇四七
第三款　豫備金及豫備金外支出……一〇四七
第四款　決　算……一〇五一
第八節　明治四十二年度歳計……一〇六一
第一款　豫　算……一〇六一

第四編　歲　計（中）

第二款　追加豫算……一〇七八
第三款　豫備金及豫備金外支出……一〇八一
第四款　決　算……一〇八四
第九節　明治四十三年度歲計……一〇九五
第一款　豫　算……一〇九五
第二款　追加豫算……一一一三
第三款　豫備金及豫備金外支出……一一一七
第四款　決　算……一一二二
第五款　舊韓國政府豫算襲用各特別會計決算……一一三五
第十節　明治四十四年度歲計……一一五七
第一款　豫　算……一一五七
第二款　追加豫算……一一五九
第三款　豫備金及豫備金外支出……一一六二
第四款　決　算……一一六五—一一八〇

明治大正財政史　第四卷　目次　終

第四編　歲　計（中）

第二章　一般會計

第十六節　大正六年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

世界大戰勃發の爲め一時我國經濟界の受けたる打擊は爾後漸次之が緩和を見るに至れるのみならず、其の影響は我國經濟界の一部に對しては寧ろ良好の成績を擧げたりと雖も、國庫の歳入は頓に激增するに至らざりしを以て、大正六年度豫算の編成に當りては依然緊縮の方針を持續したり。然るに右豫算編成中會〻大正五年十月內閣の更迭あり、大隈內閣に代りて寺內內閣成立せしが、新內閣は成立匆々新に國家政務の各方面に亙りて審査攻究を遂げ、之に依りて諸般計畫の實行を期するの逸を有せざりしを以て、大體に於て前內閣の決定に基き大正六年度豫算の編成を終了したり。

右方針に基き編成せられたる大正六年度歳入歳出總豫算の數額は歳入歳出各六億四百五萬九千八百六十八圓にして、內歳入經常部五億四千九百八十萬五千三百九十二圓、同臨時部五千四百二十五萬四千四百七十六圓、歳出經常部四億三千九百三十一萬八千六百七十三圓、同臨時部一億六千四百七十四萬千百九十五圓なり。今之を前年度豫算總額に比較すれば左の如し。

區分	大正六年度豫算額	大正五年度豫算額	比較 増	比較 減
歳入				
經常部	五四九、八〇五、三九二円	五三一、七九三、一五二円	一八、〇一二、二四〇円	〇円
臨時部	五四、二五四、四七六	六九、一四五、二四五	〇	一四、八九〇、七六九
合計	六〇四、〇五九、八六八	六〇〇、九三八、三九七	三、一二一、四七一	〇
歳出				
經常部	四三九、三一八、六七三	三九七、七五六、六〇九	四一、五六二、〇六四	〇
臨時部	一六四、七四一、一九五	二〇四、五〇六、三六三	〇	三九、七六五、一六八
合計	六〇四、〇五九、八六八	六〇二、二六二、九七二	一、七九六、八九六	〇

（備　考）前年度豫算額中經常部と臨時部との間に組替掲記せるものあるを以て該年度決定金額と符合せず。

大正六年度歳入豫算中前年度に比して増加したるものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

經常部

所得税の増加	三、四四二、四五四円
營業税の増加	二、一六六、一二三
相續税の増加	五四三、六六三
織物消費税の増加	二、三一五、二二六
取引所税の増加	一、一四八、七二一
印紙收入の増加	一、八三一、二二九円
郵便電信及電話收入の増加	五、〇七六、九〇七
森林收入の増加	五七一、七一八
預金利子及手數料繰入の増加	四、〇九〇、〇三二

臨時部

地所拂下代の増加	六一五、二一六
利子收入の増加	四、一一六、七二五
地方分擔納付金の増加	一、二六七、五三四
港灣修築費納付金	一、一〇八、七〇〇

大正六年度歳出豫算中新規要求に係るもの及前年度に比して増額したるものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

所管省	事項	金額 經常部	金額 臨時部	金額 計	備考
外務省	支那成都及雲南領事館新設に關する經費		一六、〇〇〇円	一六、〇〇〇円	
	商工事務官設置に關する經費	五〇、一五二	〇	五〇、一五二	
	在外公館修築費の増加	〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
内務省	官國幣社費の増加	六八、〇〇〇円		六八、〇〇〇円	
	警察特別施設に關する經費	三九、〇七五	〇	三九、〇七五	
	視學官設置に關する經費	七八、四四八	〇	七八、四四八	
	奈良外三市水道費補助	四〇、〇〇〇	〇	四〇、〇〇〇	
	江合鳴瀬兩川改修費補助	一五〇、〇〇〇	〇	一五〇、〇〇〇	
	鹽釜港修築費	七五六、〇〇〇	〇	七五六、〇〇〇	
	新潟港修築費	三五二、七〇〇	〇	三五二、七〇〇	
	國立感化院建設費	一五一、〇一九	〇	一五一、〇一九	
	北海道拓殖費の増加	一、〇九三、〇一八	〇	一、〇九三、〇一八	
	朝鮮事業費公債及繰替借入金	一三、〇七〇、九六三	八〇、〇〇〇	八四、〇四四円	總額八三二、〇〇〇圓にして、大正六年度以降九箇年度間に補助するものなり。
	臺灣事業費公債及繰替借入金の増加	一、八一〇、〇〇〇	三九、〇七五	五〇、一五二	總額二、九七二、〇〇〇圓にして、大正六年度以降五箇年度間の繼續費なり。
			三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	總額一、一六二、七〇〇圓にして、大正六年度以降五箇年度間の繼續費なり。

所管省	事項	金額 計	金額 臨時部	金額 経常部	備考
	熱田神宮境域擴張に關する經費	三萬七千円	三萬七千円	〇円	
大藏省	瓦斯利子及手數料の增加	四百〇萬三千圓	〇	四百〇萬三千圓	
	諸拂戻金の增加	一千六百萬圓	〇	一千六百萬圓	
	鑄貨引換證增加額增加の爲要する國債整理基金	三千〇萬圓	〇	三千〇萬圓	
	國庫豫備金の增加	五千萬圓	〇	五千萬圓	
	神戸稅關防波堤築造費の追加	三萬五千萬圓	五千萬圓	〇	廢止總額に總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
	門司稅關設備費	二千萬圓	二千萬圓	〇	廢止總額以降六箇年度間の繼續にして、大正六年度に於ては五箇年度總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
陸軍省	軍備充實及二年現役に關する經費の增加	五千七百萬圓	〇	五千七百萬圓	
	朝鮮常設師團に關する經費の增加	五千二百萬圓	〇	五千二百萬圓	
	航空隊及無線電信隊に關する經費の增加	一千萬圓	〇	一千萬圓	
	上級幹部要員補充の爲要する經費	一千三百六萬圓	〇	一千三百六萬圓	
	士官補充方法改正の爲要する經費	八百〇萬圓	〇	八百〇萬圓	
	機關銃隊充備費	三百六萬五千圓	三百六萬五千圓	〇	廢止總額以降六箇年度間に於ける總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
	山砲兵隊充備費	一千九百萬圓	一千九百萬圓	〇	
	航空隊設備費	一千八百萬圓	一千八百萬圓	〇	
	自動車研究費の增加	一千萬圓	一千萬圓	〇	
	兵器製造所新設費	二千萬圓	二千萬圓	〇	廢止總額七年度に於ては、大正六年度以降は、總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
海軍省	艦船修理費	一千六百萬圓	一千六百萬圓	〇	廢止總額
	軍艦製造費の追加	四千三百六萬圓	四千三百六萬圓	〇	
	造船造兵用機械費の增加	一千萬圓	一千萬圓	〇	
	艦船製造費の增加	一千萬圓	一千萬圓	〇	
	新艦船に要する經費	二千萬圓	二千萬圓	〇	
司法省	地方裁判所支部二十一箇所擴張に關する經費	一千六百萬圓	〇	一千六百萬圓	
	區裁判所四十六箇所增設に關する經費	四千六百萬圓	〇	四千六百萬圓	
	區裁判所職員增加に關する經費	五千六百萬圓	〇	五千六百萬圓	
	名古屋控訴院地方裁判所區裁判所建築費	八百萬圓	八百萬圓	〇	廢止總額に總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
	松山監獄建築費	四百萬圓	四百萬圓	〇	
文部省	府縣各大學及高等學校創立費等增加に伴ふ政府支出金の增加	一千七百三萬圓	〇	一千七百三萬圓	同以內總額で繼續して、大正六年度以降は、總額に對する追加二千〇〇〇萬圓なり。
	第九高等工業學校創立費	一千萬圓	一千萬圓	〇	
	第十高等工業學校創立費	一千萬圓	一千萬圓	〇	
	東京大阪京都及名古屋各高等工業學校設備費	八百〇三萬圓	八百〇三萬圓	〇	
	東京及神戸各高等商業學校生徒增募に伴ふ政府支出金の九州帝國大學外新設等に伴ふ政府支出金の北海道帝國大學外新設等に伴ふ政府支出金の增加	一千九百五萬圓	一千〇三萬五千圓	八百萬圓	
農商工省	農業倉庫建設奬勵に關する經費	五千萬圓	五千萬圓	〇	
	海洋測量に關する經費	一千八百萬圓	一千七百萬圓	一百萬圓	
	商工局分割の爲要する經費	一千六百〇萬圓	〇	一千六百〇萬圓	

所管省	事項	金額			備考
		經常部	臨時部	計	
		円	円	円	
農商務省	蠶絲業同業組合中央會補助	0	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	製鐵所擴張費既定年限短縮の爲要する經費	0	一、三八五、四五〇	一、三八五、四五〇	
	海洋調査に伴ふ新營費	0	六五、〇〇〇	六五、〇〇〇	
	生絲檢査所試繰部設置に伴ふ新營費	0	九六、三一〇	九六、三一〇	
	生絲檢査所廳舍改築費	0	一二三、八三五	一二三、八三五	
遞信省	海外信支拂金の增加	一、四一三、七一四	0	一、四一三、七一四	
	電話交換擴張に伴ふ維持費	六四一、四四七	0	六四一、四四七	
	通信事業の增進及擴張に伴ふ經費	三三一、七四三	0	三三一、七四三	
	通信事業に從事する雇傭人給料定率改定の爲要する經費	四四三、〇〇三	0	四四三、〇〇三	
	恩給の增加	一、〇五四、七一九	0	一、〇五四、七一九	
	造船奬勵費の增加	0	三、四〇九、二八〇	三、四〇九、二八〇	
	長崎郵便局新營費	0	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
	電話交換擴張費の追加	0	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	

大正六年度に於て新に要求に係る繼續費は千四百九十一萬四千二百二十九圓、既定繼續費に對し新に追加を要するもの二億六千九百四十九萬七千六百四十四圓、合計二億八千四百四十一萬千八百七十三圓にして、之を大正六年度以降の既定繼續費總額三億五千三百七十七萬三千三百七圓に加ふるときは、大正六年度以降の繼續費の總額は六億三千八百十八萬五千百八十圓となるの計算なり。

大正六年度に於て國庫豫備金は第一豫備金三百萬圓、第二豫備金五百萬圓なり。

大正六年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は五千萬圓なり。

第二項　豫算不成立及實行豫算の編成

大正六年度歳入歳出豫算案は大正六年一月二十三日第三十八回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計豫算案と共に衆議院に提出せられ、同日大藏大臣勝田主計は大正六年度歳計豫算及財政計畫に關し、衆議院に於て左の演說を爲したり。

『本大臣は玆に大正六年度歳計豫算を紹介するの光榮を有す。大正六年度總豫算に計上せる歳入は經常部に屬するもの五億四千九百八十萬五千三百九十二圓、臨時部に屬するもの五千四百二十五萬四千四百七十六圓、合計六億四百五萬九千八百六十八圓なり。其歳出に屬するものの中、經常部に屬するもの四億三千九百三十一萬八千六百七十三圓にして、臨時部に屬するもの一億六千四百七十四萬千百九十五圓、合計六億四百五萬九千八百六十八圓なり。故に經常部に於ける歳入歳出を比較せば一億千四十八萬六千七百十九圓の歳入超過なり。大正六年度及前年度の歳入を比較せば、經常部に於て酒稅、關稅及砂糖消費稅等に於て收入減少せるも、曩に時局の爲め受けたる一般經濟界の打擊は漸次緩和を見るに至り、所得稅、營業稅、織物消費稅、取引所稅及印紙收入等に於て增加したる爲め、租稅及印紙收入に於て差引九百二十七萬二千五百五十八圓を增加し、官業及官有財產收入に於て砲兵工廠益金及製鐵所益金の減少ありしが、郵便電信電話收入及森林收入等に於て增加の結果、差引三百五十六萬八千五百四十圓を增加し、又預金特別會

計繰入・朝鮮總督府竝臺灣總督府各特別會計繰入及雜收入に於て合計五百十七萬千百四十二圓を增加し、經常部全體に於て千八百一萬二千二百四十圓を增加せり。臨時部に於ては朝鮮總督府公債支辨事業費に對し、前年度に於ては其資金を一般會計より貸付けたるが、本年度は之を公債支辨に移し、又臺灣總督府公債支辨事業費增加の爲め公債募集金に於て千四百八十八萬九百六十三圓を增加し、地方分擔納付金・港灣修築費納付金・森林資金繰入及利子收入等に於て七百萬七千四百九十二圓を增加せるが、山東鐵道收入及軍需品受託製造收入は時局の關係に基くものなれば、追加豫算に計上せる爲め千八百六十萬二千九百五十圓を減少せり。特別會計資金繰入及借入金に於て八百萬圓を減少し、前年度繰入金及官有物拂下代等の減少の爲め千十七萬六千二百七十四圓を減少せるを以て、差引臨時歳入全體に於て千四百八十九萬七百六十九圓を減少せり。結局經常臨時歳入合計三百十二萬千四百七十一圓を增加せり。次に歳出を比較せば、大正六年度及前年度の經常部に於て貨幣交換差金及年金等三百三十九萬七千六百三十圓を減少せるが、國債の償還額は其借換に屬するものを除き之を五千萬圓に復舊せると、朝鮮・臺灣兩總督府各特別會計の負擔に屬する繰入額增加の爲め、國債整理基金繰入に於て二千九十四萬七千二百五十八圓を增加し、又新艦艇の建造に伴ひ海軍軍事費三百萬圓を增加せり。外に預金利子及手數料に於て四百十萬二千三百四圓、諸拂戻金に於て百八十二萬八千二圓、海外信支拂金に於て百四十一萬三千七百十四圓、恩給に於て百五萬四千七百十九圓を增加せり。其他支那に於ける領事館の增設・內地產業の指導奬勵・軍備の充實・裁判所の復舊・教育機關の完備及通信事業の整備等に於て七百六十一萬三千六百九十七圓を增加し、差引四千百五十六萬二千六十四圓を增加せり。臨時部にありては海軍軍備補充費に於て、本年度以降七箇年度に亙り總額二億六千六十四萬千七百九十三圓を追加するの計畫を定め、本年度に於て千四百三十二萬九千二百八圓を追加せり。又朝鮮總督府公債支辨事業費財源を公債募集金に移したる爲め、朝鮮事業公債金繰入に於て千三百七萬九百六十三圓を增加し、製鐵所第三期擴張完成年限短縮の爲め年割額百三十八萬五千四百五十圓を增加し、朝鮮に於て兵器製造所新設の爲め、總額四百萬圓中本年度三百萬圓を增加せり。此外北海道拓殖費百九萬三千十八圓、電話交換擴張費追加二百五十萬圓、造船奬勵費三百四十萬九千二百八十圓を增加せり。其他國運の伸張、經濟の發展に資すべき諸般の施設の爲め千百八萬七千七百八十一圓を增加せり。然れども繼續事業費の既定年割額減少に依り九百八十六萬千八百六十二圓を減少せると、時局に關する諸般の經費を追加豫算を以て要求することに依り、其前年要求金額三千九百二十八萬四千三百七十七圓の全部を減少したると、帝國鐵道建設改良費及朝鮮總督府公債支辨事業費財源を公債募集に移したる爲め、一般會計貸付に於て三千五十八萬五千圓を減少せり。其他朝鮮總督府經費補充金・海軍臨時兵器補充費に於て九百九十萬九千六百二十九圓を減少し、結局經常及臨時を合せ歳出總額百七十九萬六千八百九十六圓を增加せり。時局に關する經費に就ては、歐洲戰亂の終熄を豫想し能はざるを以て、大正六年度に於ても之を計上する必要を認めたり。卽ち青島の守備・俘虜の取締・支那及印度洋方面の警備に關する經費等、臨時軍事費に於て千五百四十萬三千四百九十圓を、時局に關する內政外交上の施設・山東鐵道の經營・兵器受託製造・戰時海上保險補償等に要する經費に充つる爲め、臨時事件豫

備費として五千三百萬圓を追加豫算に計上せり。而して此財源として、臨事軍事費に對しては青島に於ける事業收入及官有物拂下代等を以て之に充て、不足分に對し一般會計より千三百十九萬二千五百九十四圓を繰入れたり。臨時事件豫備費に對しては軍需品受託製造收入及山東鐵道收入を以て之に充て、其不足分五百二萬七千九十三圓は前年度剩餘金を以て之に充てたり。尙大正六年三月迄に要する臨時軍事費竝大正五年度臨時事件豫備費の不足に對しては別に追加要求することとせり。

以上大正六年度歳入歳出の大體を說明したるが、更に進んで豫算編成に付一言せんと欲す。政府は大正六年度豫算中二三改正を加へたるの外、大體に於て前內閣の決定せる豫算を踏襲せり。唯國債償還額に於て前年は三千萬圓なりしを五千萬圓償還の主義を執ることとし、曩に國債償還金の一部を帝國鐵道建設改良費に充てたるを廢して之を公債に求めんとす。次に國債募集に於ては、鐵道公債の外朝鮮總督府公債支辨事業費に千三百七萬餘圓、臺灣總督府公債支辨事業費財源に三百三十六萬圓を募集し、朝鮮國庫債券三千萬圓は借換の計畫を立てたり。其他膨脹せる正貨の利用、內地金融の調節竝對外債務の輕減等の目的を以て、內地市場に於て大正五年法律第三十四號に依り外國債借換償還の爲め三千萬圓、又帝國鐵道特別會計に於て國庫預金部よりの借入金返濟の爲め四千萬圓の公債募集を見込めり。而して時局の推移に伴ひ金融市場の狀況も變化を免れざれば、政府は公債募集に付市場に適應すべき機宜の處置を採らんとす。海軍軍備補充費追加は既に前年度に於て其經費の一部を要求せるが、本年度に於て其全部計畫に要する金額を要求するを相當と認め、大正六年度以降大正十二年度迄の繼續費として二億六千

餘萬圓を計上せり。

次に我經濟界の狀況を一言せんに、時局の影響に依り我經濟界の趨勢は對外貿易に於て全く其面目を一新し、既往の輸入超過は多大の輸出超過となり、軍需品の歐洲輸出は多額に達せる外、支那、印度、南洋に對する綿絲及綿製品の輸出著しく增進せり。又米國市場の繁榮に伴ひ生絲其他の輸出旺盛となりし爲め、曾に貿易額の增加のみならず、輸出超過の趨勢亦一層の好況を呈せり。卽ち昨年中の輸入總額七億五千六百餘萬圓、輸出總額十一億二千七百餘萬圓、合計十八億八千三百餘萬圓にして、結局三億七千百餘萬圓の輸出超過を見たり。加之船舶の收入其他貿易外の收入等ありて、國際貸借關係は益〻順調に赴き、正貨の增加、資金の潤澤を示し、正貨の在高は開戰當時三億五千餘萬圓なりしが、大正四年末五億千六百萬圓、昨年末七億千四百萬圓に上れり。時局の關係上國際貸借關係は今後尙暫くは現狀を以て推移すべし。正貨の蓄積利用に就ては政府は最善の處置を爲し、機宜に應じて誤らざらんことを期せり。又時勢に伴ひ諸種の工業の新企畫又は擴張は資金の需要を增加し、開戰以來昨年十一月迄に於て銀行諸會社の新規拂込資本金は約四億六千八百萬圓に達し、國債、地方債、外國政府證券の發行、短期外國借入金の返濟及銀行諸會社社債券の發行の如きを推定加算せば、合計九億圓以上に達す。此の如き資金需要の增額せるに拘らず、一面に於ては國際貸借關係の順調なりし結果、資金の流入は續々として止らず、金融市場は常に緩慢を保持し來れり。然れども之れ常態に非すして變態に屬するが故に、其影響の不利なるを節制し、其利なるを助長し、機運に乘じ時宜に處し、以て國力の充實を圖らざるべからず。殊に金融界をして弛張其度を失せず、穩健の狀態を以て進ましめ、資金を善用して產業の進步發

達を圖るの緊要なるは言を俟たず。今や內は產業の勃興躍如たり、外は貿易の發展駸々たり、官民の一致協力を要するや論なし。諸君愼重審議豫算案に協贊を與へられんことを切望す。」

衆議院に於ては翌二十四日より豫算委員會を開き豫算案の審議に著手せしが、翌二十五日衆議院本會議に於て內閣不信任に關する決議案の討議中、衆議院の解散を命ぜられしを以て、大正六年度豫算案は遂に不成立に歸し、同年二月二十日勅令第二十三號を以て、大正六年度に於ては憲法第七十一條に依り前年度の豫算を施行する旨を公布せられたり。玆に於て政府は右施行豫算の範圍內に於て實行豫算を編成せしが、其の計數は歳入經常部五億三千九百二十四萬千五十二圓、同臨時部六千九百二十八萬八千五百九十圓、計六億八百五十二萬九千六百四十二圓、歳出經常部三億九千四百七十六萬七千百十二圓、同臨時部一億五千六百三十三萬八千四百九十八圓、計五億五千百十萬五千六百十圓にして、差引歳入超過五千七百四十二萬四千三十二圓となるの計算なり。今之を施行豫算及不成立豫算と比較すれば左の如し。

區分	施行豫算額	不成立豫算額	實行豫算額	施行豫算額に比し增減（△）	不成立豫算額に比し增減（△）
歳入					
經常部	五三一、七九三、一五二円	五四九、八〇五、三九二円	五三九、二四一、〇五二円	七、四四七、九〇〇円	△一〇、五六四、三四〇円
臨時部	六九、一四五、二四五	五四、二五四、四七六	六九、二八八、五九〇	一四三、三四五	一五、〇三四、一一四
合計	六〇〇、九三八、三九七	六〇四、〇五九、八六八	六〇八、五二九、六四二	七、五九一、二四五	四、四六九、七七四
歳出					
經常部	三九七、七五六、六〇九	四三九、三一八、六七三	三九四、七六七、一一二	△二、九八九、四九七	△四四、五五一、五六一
臨時部	二〇四、五〇六、三六三	一六四、七四一、一九五	一五六、三三八、四九八	△四八、一六七、八六五	△八、四〇二、六九七
合計	六〇二、二六二、九七二	六〇四、〇五九、八六八	五五一、一〇五、六一〇	△五一、一五七、三六二	△五二、九五四、二五八

第二款　追加豫算

大正六年度總豫算に對する追加豫算は、第三十九回（特別）帝國議會に於て四件、第四十回帝國議會に於て二件提出せられたり。今其の內容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第三十九回帝國議會提出追加豫算

大正六年度豫算は前述の如く議會解散の爲め成立に至らざりしを以て、政府は其の政策の實行上一日も緩うすべからざる事項、竝に時局の推移に伴ひ又は國運の進步に應じ緊急措き難き諸般の施設に對し必要なる經費に關して、追加豫算を編成し、之を解散後召集せられたる第三十九回（特別）帝國議會に提出せしが、右追加豫算案は合計四件にして其の總額一億六千百九十餘萬圓に達せり。今其の編成に當りて採用せられし方針を揭ぐれば左の如し。

（一）公債五千萬圓償還の計畫を立てたること。

（二）政府の事業にして一般の歳入又は借入金を以て支辨し來りしものの中、帝國鐵道の建設改良費二千百餘萬圓、朝鮮事業費千三百萬圓、電話交換擴張費三百萬圓等は、其の性質上公債支辨を以て適當の財源とするのみならず、我國一般經濟界の狀況に照し事業費の一部を公債支辨に改むることを以て機宜に適せるものと認め、之を公債支辨に移せしこと。

（三）國防の充實を圖り、海軍に於ては所謂八四艦隊編成の基礎を完うすることを得しめ、陸軍に於て

は機關銃隊の充備其の他諸部隊の編成改正若くは增設を行ふこと。

(四)產業の發達及敎育の振興に資する爲め、製鐵所擴張費の繰上、各種產業に對する改善、治水事業の速成、電話事業の擴張、工科大學及實業學校の擴張竝に增設を行ふこと。

(五)區裁別所の增設、地方裁判所支部權限の擴張、警察制度の改善、國立感化院の新設、其の他從來の懸案にして急施を要する問題に就き、之が解決を圖ること。

(六)臨時事件に關する經費に就ては臨時軍事費特別會計上せる臨時事件豫備費五千三百餘萬圓、合計一億四百餘萬圓を追加要求し、以て我が軍事的行動竝に時局に關聯せる諸般の施設を講ずるに當り、機宜を失はしめざるの途を講ずること。

今追加豫算案各號の內容を擧ぐれば左の如し。

(一)第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入三千三百八十五萬四千三百二十八圓、歳出八千百二十八萬四千五百二十一圓にして、歳入歳出差引不足額五千四百四十三萬百九十三圓は大正六年度實行豫算に於ける歳入超過額の內を以て之を支辨するの計畫なり。今其の追加を要する事項金額の重なるものを擧ぐれば左の如し。

歳入經常部

森林收入の增加	五七〇、九九七圓
印刷局益金の增加	二一八、二五三
大阪砲兵工廠益金の增加	一、七二三、七八二
製鐵所益金の增加	八、〇八一、六九四
預金利子及手數料繰入の增加	四、六一五、九四八圓
朝鮮事業公債及借入金償却繰入の增加	四五八、九〇二
臺灣事業公債及借入金償却繰入の增加	四八〇、七一四

歳入臨時部

地方分擔納付金の增加	八五一、〇〇〇
臺灣事業費繰替借入金の增加	一〇〇、〇〇〇
朝鮮事業公債金	一三、〇七〇、九六三
臺灣事業公債金	二、〇〇〇、〇〇〇
森林資金繰入の增加	二九八、五五〇
高等工業學校創立費獻納金	一六七、四〇〇
鹽釜港及新潟港修築費納付金	一、〇六七、六六二

歳出經常部

外務省所管

赤峰領事館外五領事館分館經費月割差額	二〇、三三九

內務省所管

警察特別施設に關する經費	五三、五一八
國立感化院設置に關する經費	三、三九六
臺灣關稅諸收入繰入の增加	三六九、四〇五

大藏省所管

預金利子及手數料の增加	四、六一五、九四八
諸拂戻金の增加	一、八二八、〇〇二
國債整理基金繰入の增加	二〇、九四七、二五八
國庫豫備金の增加	三、〇〇〇、〇〇〇

陸軍省所管

軍備充實及二年現役に係る經費の增加	五五四、三六六
朝鮮常設師團に關する經費の增加	六〇五、二三一
航空隊及無線電信隊に關する經費の增加	九七、〇四九
獨立守備隊經費の增加	六一、三二四

海軍省所管

新艦船に要する經費	二、三一八、五三七
雜船製造費の增加	五〇〇、〇〇〇
造船造兵用器械費の增加	五〇〇、〇〇〇

司法省所管

地方裁判所支部權限擴張に關する經費	一五六、三三〇
區裁判所設置に關する經費	三〇二、一〇一

文部省所管

大學及學校圖書館政府支出金の增加	一一〇、〇五四

農商務省所管

特許局審查事務に關する經費の增加	一一、七五二

研伐作業に關する經費の增加　二八〇、一七二圓
造林事業に關する經費の增加　九四、八〇九

遞信省所管

電話交換擴張に伴ふ維持費　五八二、四二五
通信事業の增進及擴張に伴ふ經費　三七一、七四三
通信事業に從事する雇傭人給料定率改定に伴ふ經費　四四三、〇〇三
諸拂戻金の增加　一、五九六、六九五
恩給の增加　一、〇五四、七一九

歳出臨時部

内務省所管

國立感化院設置に關する經費　一五一、〇一九
江合鳴瀬兩川改修費補助　一五〇、〇〇〇
但し總額二、八四六、〇〇〇圓にして、大正六年度以降十二箇年度間に補助するものなり。
雄物川及最上川改修繰上起工に依る經費　四一二、〇〇〇
荒川改修工事繰上に依る經費　四三九、〇〇〇
北海道拓殖費の增加　九六八、八二九
但し内二二五、二五三圓は北海道港灣費に屬するものにして、右經費は總額二、九七九、〇四一圓を既定繼續費に追加し、大正六年度以降十箇年度間の繼續費なり。
鹽釜港修築費　七一七、〇〇〇圓
國に於て直接工事を施行し、其の費用は之を地方より納付せしむるものにして、總額二、九三三、〇〇〇圓、大正六年度以降五箇年度間の繼續費なり。
新潟港修築費　三五〇、六六三
但し總額一、一六〇、六六三圓にして、大正六年度以降五箇年度間の繼續費なり。
臺灣事業公債金繰入の增加　一、八一〇、〇〇〇
朝鮮事業公債金繰入　一三、〇七〇、九六三

大藏省所管

神戸稅關防波堤築造費の追加　二五〇、〇〇〇
但し總額二、〇〇〇、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、大正六年度以降五箇年度間に支出するものなり。
大阪稅關火災復舊其他新營費　三〇三、三九三
但し總額六四六、八八二圓にして、大正七年度に亙る繼續費なり。
海外駐劄財務官增置に關する經費　一三〇、七四六

陸軍省所管

航空隊設備費の追加　一八八、二〇八
但し總額一、三二六、八一〇圓を既定繼續費に追加し、大正六年度以降六箇年度間に支出するものなり。
自動車研究費の增加　一四六、三五六
機關銃隊充備費　三二八、五一一
但し總額三、二二九、六四〇圓にして、大正六年度以降十箇年度間の繼續費なり。
山砲兵隊充備費　一九九、六七六
但し總額六二〇、一四八圓にして、大正六年度以降四箇年度間の繼續費なり。
兵器製造所新設費　二、〇〇〇、〇〇〇
但し總額四、〇〇〇、〇〇〇圓にして、大正七年度に亙る繼續費なり。

海軍省所管

軍艦製造費の追加　一五、二〇八、五七五
但し總額二六一、五二一、一六〇圓を既定繼續費に追加し、大正六年度以降七箇年度間に支出するものなり。
臨時艦艇修理費　一、五〇八、一一二

司法省所管

名古屋控訴院地方裁判所區裁判所建築費　八〇、〇〇〇
但し總額三二〇、〇〇〇圓にして、大正六年度以降四箇年度間の繼續費なり。
松山監獄建築費　四〇、〇〇〇
但し總額二〇〇、〇〇〇圓にして、大正六年度以降五箇年度間の繼續費なり。

文部省所管

熊本高等工業學校電氣科新設費　五二、四〇〇
但し總額一一八、九八一圓にして、大正七年度に亙る繼續費なり。
第九高等工業學校創立費　五三、七〇〇
但し總額七五〇、〇〇〇圓にして、大正六年度以降四箇年度間の繼續費にして、寄附金を以て支辨するものなり。
第十高等工業學校創立費　五三、七〇〇
但し總額七五〇、〇〇〇圓、大正六年度以降四箇年度間の繼續費にして、寄附金を以て支辨するものなり。
高等工業學校敷地購入費　六〇、〇〇〇
但し寄附金を以て支辨するものなり。
工科大學擴張に伴ふ政府支出金の增加　四一四、一一一

製鐵所擴張工事繰上に依る年割額の增加	五九、五〇〇円
油田調査に關する經費	一、三八五、四五〇円
	二三、四九七
遞信省所管	
造船奬勵費の增加	二〇五、二〇〇
風雪被害復舊其他に依る電信電話營繕費の增加	七五、〇〇〇
簡易生命保險特別會計繰入金の增加	五〇、〇〇〇
	三〇、二二五
農商務省所管	
農業倉庫建設奬勵に關する經費	七五、〇〇〇
蠶絲業同業組合中央會補助	五〇、〇〇〇
發明奬勵に關する經費	三〇、二二五

(二)第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入六千六百三十六萬三百四十五圓、歳出六千九百三十五萬四千百八十四圓にして、歳入歳出差引不足額二百九十九萬三千八百三十九圓は大正六年度實行豫算に於ける歳入超過額の內を以て之を支辨するの計畫なり。今其の追加を要する事項金額を擧ぐれば左の如し。

歳入經常部	
露國行小包郵便物料金の收入	一、三〇四、八七〇円
歳入臨時部	
兵器類拂下代	八〇五、六三八
山東鐵道收入	八五、九一四
臨時受託造修收入	七、八四三、一〇〇
戰時海上再保險收入	四、八一四、三五二円
前年度繰入金	五一、五〇六、四七一
歳出臨時部	
大藏省所管	
臨時軍事費特別會計繰入	一五、八五四、一八四
大正三年臨時事件豫備費	五三、五〇〇、〇〇〇

(三)第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入三百十九萬五千七百九十八圓、歳出三百五十六圓にして、其の追加を要する事項金額左の如し。

遞信省所管	
電話事業擴張に伴ふ維持費	三一、三四三円
歳出臨時部	
遞信省所管	
電話交換擴張費	三、〇〇〇、〇〇〇
但し電話需用の現況に鑑み總額八千九百萬圓を定額繼續費に追加し、大正六年度以降八箇年度間に支出するものなり。	
電話事業公債及繰替借入金	三、〇〇〇、〇〇〇
歳出經常部	
大藏省所管	
電話事業公債の發行に伴ふ利子及手數料	九九、〇一三

(四)第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入百十九萬四千八百八十五圓、歳出百二十五萬九千三百二十七圓にして、歳入歳出差引不足額六萬四千四百四十二圓は大正六年度歳入歳出總豫算追加第三號に於ける歳入超過額を以て之を支辨するの計畫なり。其の追加を要する事項金額は左の如し。

歳入臨時部	
海軍受託造修收入	五六三、〇〇〇円
前年度繰入金	五九一、八八五
學校及圖書館資金繰入	四〇、〇〇〇
歳出經常部	
內務省所管	
軍事救護法施行に關する經費	三二、八〇八円
大藏省所管	
產業組合監督に關する經費	四、四四四
拓殖局設置に關する經費	四五、五七三
農商務省所管	
產業組合監督に關する經費	八、〇七〇

歳出臨時部

大藏省所管

臨時教育會議設置費	二〇、六三〇円
未決稅務署廳舍新營及土地臺帳其他火災復舊費	五五、三四三
日本興業銀行補助	五〇、〇〇〇

海軍省所管

受託造修費の增加	五六三、〇〇〇

文部省所管

米澤高等工業學校寄宿舍新營費	四三、〇〇〇円
大阪高等工業學校校舍新營費	四〇、〇〇〇

但し總額百十萬圓にして、大正六年度以降四箇年度間の繼續費なり。

遞信省所管

米澤郵便局舍及官舍火災復舊費	二六、六一二

但し總額六萬二百八十七圓にして、大正六・七兩年度間の繼續費なり。

米澤市內電信電話其他火災復舊費	七九、八四七

以上大正六年度一般會計追加豫算案四件の內、前三件は大正六年六月二十五日、後一件は同月三十日衆議院に提出せられしが、六月二十六日大藏大臣勝田主計は大正六年度追加豫算及財政計畫に關し衆議院に於て大要左の如き演說を爲せり。

『本大臣は玆に大正六年度歳計豫算追加案を紹介し、併せて財政經濟に關する政府施設の一端を述ぶるの光榮を荷ふ。抑帝國政府財政經濟の施設に關する大體の方針は曾て宣明せる所なり。政府は時局の趨勢に鑑み財政の基礎を鞏固ならしむると共に、時局の進展に順應すべき諸般の施設を講じ、內は生產事業の發達を促進し、外は海外經濟の伸張を圖り、戰爭終局に伴ふ一般財界の變動に備へ、尙財界の好況より來る影響を取捨し、著々進行せんと欲す。若夫れ日支の經濟的提携に至りては最も重要視し、著々其計畫を進行せしめつつあり。又聯合各國と親誼協力の關係を助長する爲め財政上能ふ限りの援助を與へんと努力しつつあり。豫算に於ては不幸不成

立に終りしを以て、今年度當初より施行豫算の範圍內に於て實行豫算を編成し、之を施行しつつあるが、此實行豫算の歳入總額六億八百餘萬圓、歳出總額五億五千百餘萬圓にして、差引歳入に於て五千七百餘萬圓の超過を示せり。是等實行豫算は前年度豫算の制限を受け、各般の施設に關し急切の必要を充す能はず。是れ今回追加豫算を提出せる所以にして、政府は努めて緊縮の方針を執り、既定の計畫若くは政策上又は時局に伴ひ國力發展に必要なる經費を計上せり。其中豫算第一號追加は普通經費の豫算なるが、其歳入は經常部に於て千六百餘萬圓、臨時部に於て千七百餘萬圓、合計三千三百餘萬圓にして、歳出は經常部に於て四千百餘萬圓、臨時部に於て四千七百餘萬圓、合計八千八百餘萬圓なり。是等の歳入歳出を差引けば歳入に於て五千四百餘萬圓の不足にして、之は實行豫算に現はれたる歳入超過五千七百餘萬圓中より補塡するの計畫なり。又追加第二號は一般會計に屬する所謂臨時事件費にして、此歳出は臨時軍事費特別會計に繰入るべき千五百萬圓、臨時事件豫備費五千三百餘萬圓、合計六千九百餘萬圓なり。其歳入は總額六千六百餘萬圓にして、是等歳入歳出を差引き二百九十餘萬圓の不足を生ず。此不足額は實行豫算上五千七百餘萬圓の過剩額中、追加第一號の不足額補塡に使用したる剩餘額を以て補塡せんとす。追加第三號は電話擴張に關する豫算にして、其歳入三百十九萬餘圓、歳出三百十三萬餘圓にして、歳入歳出差引六萬餘圓の剩餘を生ず。次に進みて是等追加豫算の內容を述べん。追加第一號の歳入の主なるは經常部に於て官業及官有財產收入の增加千餘萬圓、預金部特別會計より繰入金の增加約四百餘萬圓、臨時部に於て朝鮮及臺灣事業費公債及借入金に於て千五百餘萬圓、港灣修築費納付金百餘萬圓、地方分擔納付金八十五萬圓にして、歳出の主なるものは經常部に

於て國債整理基金繰入金增加二千餘萬圓、國庫豫備金增加三百萬圓、預金利子及預金利子の支拂手數料增加四百餘萬圓、新艦船に要する經費二百餘萬圓にして、臨時部に於て軍艦製造費追加千五百餘萬圓、造船奬勵費增加三百餘萬圓、兵器製造所新設費二百萬圓、製鐵所擴張工事繰上に依る年割額の增加百餘萬圓なり。右の內軍艦製造費は總額二億六千百五十二萬餘圓にして、此計畫に依り八四艦隊編成の基礎を完成し得るなり。臨時軍事費特別會計追加豫算に於て臨時軍事費三千百六十三萬餘圓、豫備費二千萬圓、合計五千百六十三萬餘圓にして、之に對する歲入は一般會計の繰入金及事業收入等二千百餘萬圓の外は、借入金及公債募集金に依り支辨するの計畫なり。臨時事件に關する經費は一般會計及特別會計に屬するもの合計一億五百餘萬圓なり。序に臨時事件費の財源等に付簡單に附言せんとす。靑島の戰役以來我軍事的關係は頗る廣汎に亙り、我交通貿易の保護及與國作戰上の援助等に依り、政府の臨時支出漸次增大するは亦已を得ざることにして、開戰當初よりの合計三億二千九百餘萬圓の巨額に達す。此巨額の財源は開戰當時の國庫剩餘金及年々歲入の好況とに依り支障なきを得たるが、戰局の前途は益〻擴大し終熄の時期を豫測し能はざる狀態なれば、政府は戰時財政の基礎を鞏固ならしめん爲十分なる考慮を須ひ、臨時軍事費に豫備費を存し不時の用に供すると共に、大正五年法律第四號に修正を加へ以て臨時事件に對する財源調達に便せんとせり。又電話擴張の事業は特別の財源を以て經營するの計畫を立てたり。本年度分に於て一般會計支辨に屬する四百五十萬圓の外新に三百萬圓を追加し、尙後年度に於ける既定及追加額九千九百五十萬圓と共に、是等の財源を公債又は借入金に依り調達するの計畫なり。大正六年度追加豫算中國債發行の主なるものは、朝鮮事業費

の財源に充つべき千三百餘萬圓、臺灣事業費の財源に充つべき二百萬圓、電話交換擴張に要するもの三百萬圓、帝國鐵道改良の追加豫算の財源に充つべき百餘萬圓、其他大正五年法律第三十四號に依り內債募集に依り外債を償還する額千萬圓及朝鮮國庫債券借換額三千萬圓なり。

次に經濟關係に就き一言せんとす。我經濟狀況は頗る好況を呈し、輸出超過又は外國貿易以外の正貨の收入超過の合計約八億六千萬圓に上れり。此好況は本年一層顯著なる狀況を呈し、本年一月より五月末に至る外國貿易の輸出超過額二億三千百餘萬圓にして、之を昨年の同期に比較せば約三倍に達せり。此趨勢にして若し持續せば、本年の輸出超過額竝貿易外の收入超過は八億圓に達すべく、是等の潤澤豐富なる資金をいかにして消化すべきやは一の問題なるも、惟ふに財政の整理竝民間の生產事業に必要なる資金に使用し、其他海外に放資する等に歸着すべし。內地生產事業の發展は、時局發生以來本年五月迄に於ける會社銀行等の新設又は增加の計畫資本金八十四億餘萬圓に上り、本年一月より五月末迄に於て四億三千九百餘萬圓に達し、昨年に比し二倍の增加なり。此時運を利用して勃興を要すべき生產工業を奬勵し、戰時及戰後の經濟的活躍に資するは極めて必要なるを信ずるなり。又支那に對する投資に就ては、對支金融機關の統一整備の要あると共に、合辨事業の必要なる亦言を俟たず。對支政治借款に關しては帝國は列國と協同して是が成立に盡力せしが、經濟借款に關しても亦銳意考慮を費し、殊に近時日米兩國の資本家の支那に對する投資上意思の疏通を來せるは誠に慶ぶべきことなり。歐米に對する投資として、與國軍需品の製造に關する代金調達に應ずるは相當の處置なるのみならず、國際金融の現狀に於て、外國に於ける正貨の蓄積は巨額に達し、爲に爲替は片爲替となる結果、我貿易

全般に不良なる影響を來すの虞あり。是等の見地より外國投資の必要を生じ、政府は國際金融を調節せん爲め今回臨時國庫證券法案を議會に提出せり。如上我經濟界の好況の反面には又省慮警戒を要することあり。就中一般の氣風奢侈に流れ勤儉の美風を失ふの傾向あり。殊に勞働階級に於ける賃銀收入の激增を將來有利なる方面に使用せしむる爲め貯蓄せしむるは必要なる措置なり。戰時貯金券法案は其の主旨に出でたるものなり。生產發達及海外經濟伸張の手段方法として金融機關の改善及完備に付政府は深く考慮し、第一小農工業者に關する金融機關の未だ備らざるを以て、產業組合法の改正を圖りて、所謂庶民銀行の機能を認め、又一般信用組合の活動範圍を擴張し、同時に勸業銀行・農工銀行・興業銀行・北海道拓殖銀行法等に改正を加へ其他普通の工業資金に就て其供給を一層圓滑ならしめん爲め興業銀行法の改正法案を本議會に提出せり。船舶の金融に就ては時局に鑑み急施の要あるを認め、興業銀行をして船舶金融を兼營せしめんとす。又滿蒙に關する金融に就ては從來の橫濱正金銀行の特別貸にては需要に應ずる能はざるを認め、東洋拓殖會社をして不動產金融を營ましむる方法を採り、東洋拓殖會社法の改正案を提出せり。右の外支那に對する金融機關に就ては政府は主義として日支合辨銀行の設立を希望せるも、今日の狀況に於て未だ其の成立を見ざるは寔に遺憾なるが、政府は決して等閑に付せず、臨機の處置として在來の特殊銀行を利用し、又普通銀行の支那に於ける發展を助長するの方針を執れり。日露の金融に就ては兩國の經濟關係を益〻密接にし、且國際の親善を圖る上に於て、之れ亦等閑に付すべからず。現に橫濱正金銀行或は朝鮮銀行の如き既設機關を利用せるが、世間の問題となれる日露合辨銀行の設立は大に研究を重ぬるの要ありと信ず。

以上は政府の財政經濟政策に關係せる施設の一斑を述べたるに過ぎず。其の他にも大に講究考慮を要すべきこと多々あり。例へば金融機關に就て云ふも、廣く海外貿易の助長に關する金融施設に關する點、或は中央銀行の基礎をして益〻鞏固ならしめ一般金融界と密接なる連絡を保持增進せしむる點等なり。斯の如く政府は各般の問題に付鋭意調査研究を重ね、戰時竝に戰後に於ける財政經濟の發展に順應すべき素地を作らんことを期するものなり。諸君愼重審議速に協贊を與へられむことを切望す。』

衆議院に於ては翌二十七日より豫算委員會を開きて愼重審議の末、修正案出でたるも、結局豫算案全部原案の通可決すべきものと決定し、七月七日豫算委員長山本悌二郎は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『一般會計に於て追加要求したるものの內、第一號案八千八百二十八萬圓及第四號案百二十六萬圓は各省に亙る經費の追加にして、第三號案三百萬圓は電話擴張費の追加なり。此の外臨時事件費として一般會計より支出すべきもの第二號六千九百三十五萬圓中、臨時軍事費財源の一部として臨時軍事費特別會計へ繰入るべきもの千五百八十五萬圓、殘餘の五千三百五十萬圓は臨時事件豫備費なり。上記の歳出に對する歳入の財源を見るに、一般租稅收入・官業收入・其他零細の財源を除けば、主として公債及借入金竝實行豫算に於ける歳入超過額五千四百四十萬圓、及前年度繰入金五千百五十萬圓に依る。此の追加豫算に對し二個の修正案提出せられたり。其一は國民黨の鈴木梅四郎君に依り、他の一は憲政會の加藤政之助君に依り提出せられたり。鈴木君修正案の內容は歳出經常部に於て二千二十六萬四千五百七十圓、臨時部に於て三百六十七萬

八千六百五十五圓、其他拓殖局新設費四萬三千九百九十八萬七千二百七圓を削除するものなり。修正を加へたる費目に就て之を見れば、歳出經常部内務省所管に於て警察特別施設費及圖書檢閲費七萬三千百十六圓、大藏省所管に於て二千萬圓の國債整理基金繰入、陸軍省所管に於て士官補充方法の改正・機關銃隊の設置・騎砲兵大隊編制改正及山砲兵隊編制改正に要する經費、馬政局經費の增加を削除せり。又歳出臨時部内務省所管に於て北海道拓殖費九十六萬八千八百二十九圓、大藏省所管に於て鹽專賣局用倉庫に關する費用十二萬五千六圓、陸軍省所管に於て馬政事業設備費・機關銃隊の充備費・山砲兵隊充備費・兵器製造所新設費を一括して其經費二百五十六萬千三百二十三圓、農商務省所管に於て油田調査費二萬三千四百九十七圓を削除せり。又加藤君提出の修正案に依れば、歳出經常部大藏省所管に於て國債整理基金繰入中二千萬圓を削除して九十四萬七千二百五十八圓となし、又追加豫算第三號歳入臨時部第四款に於て公債募集金を公債募集金借入金に改め、乙號の電話擴張費は本年度分三百萬圓のみを認め他の繼續費は全部削除し、更に臨時事件費豫算に於ては歳入中借入金及公債募集金三千萬圓を全部削除し、之に代ふるに一般會計繰入に於て二千萬圓を增加するの方法を以てし、結局千萬圓を減額して四千百六十三萬四千三百六十七圓と變更し、歳出中豫備費二千萬圓を一千萬圓に減額し、因て收支の適合を得せしめ、尚拓殖局設置を認めざる結果、總豫算追加案第四號の甲號歳出經常部大藏省所管に於て、第一款大藏本省六千四十二圓を四千四百九十四圓となし、第三款内閣四萬三千九百七十五圓を全部削除し、臨時部に於ては臨時教育會議經費二萬六百三十圓を全部削除せんとするにあり。以上憲政會竝國民黨の兩修正案に於ては、國債整理基金二千萬圓の繰入及拓殖局の新設に反對なる點に就ては共通せるを以て、先づ之に就きて採決したるに少數を以て否決せられ、最後に原案の採決を爲したるに多數を以て可決せり。此原案採決の際に於て堀切君及三土君より、日本興業銀行法中改正法律案と戰時貯金券法案とは現に委員會に於て審議中にして、之に就ては多少の意見あるを以て、法案にして萬一否決となることありとせば其結果豫算は自然不用に歸することありと雖も、現在は先づ豫算のみは原案通り通過せしめ置くべしとの附言あり。次に將に原案を採決せんとするに當り三土忠造君は、曩に二箇師團問題の起りたるとき、歐洲現下の狀勢に鑑みて兵器の改良・特科隊の新設若くは增設の如きも亦急を要すべしと考ふ。當局の所見如何と訊したるに、陸軍當局者は其必要を認めざる旨言明せり。然るに僅少の年月を經過したる今日、此追加豫算に於て以上の施設に關する經費の要求を見る。是れ實に陸軍當局の無責任無定見と云はざるべからず。斯の如くんば國民は政府當局者の議會に於て爲す言明に信を措く能はざるに至るべしと云ふ意味に於て警告を述べたり。又武藤金吉君は官有財産の管理に就き從來種々の放漫不當の措置を耳にせり。例へば製鐵所より松昌洋行に貸付けたる影島丸・惠山丸の二船につき、其賃貸料の著しく廉なること、又製鐵所より臺灣總督府に貸付けられ、總督府より更に南洋開發組合に轉貸せられたる潮首丸の賃貸料に就ても、同樣に其不當を認むべしとて、一々事實を指摘し警告を述べたり。次に堀切善兵衞君は教育年限短縮及高等教育機關增設に關する希望を述べたり。次で加藤政之助は憲政會を代表し、鈴木梅四郎は國民黨を代表して、各修正案を提出せしが、採決の

結果兩修正案は孰れも少數にて否決せられ、追加豫算案は全部原案の通可決せられたり。

貴族院に於ては七月八日より豫算委員會を開きて愼重審議を遂げたる結果、第四號追加豫算中歳出臨時部大藏省所管第十九款銀行補助第一項日本興業銀行補助五萬圓を削除し、之に對應して歳入臨時部第十一款前年度繰入金の內より五萬圓を削減し、其の他は全部衆議院議決案の通可決すべきものと決定し、尙希望條件として左の三案を可決したり。

一、今回提出の追加豫算は會計法第五條第二項の明文に照し穩當を闕くものありと認む。將來に於ては右明文の範圍を脫せざる樣政府に於て嚴重に注意ありたし。

二、電話事業公債支辨案の如き重要の問題を追加豫算として提出せらるる場合には、其の將來一般會計に及ぼす影響等に關して計畫を具備して明示ある樣注意ありたし。

三、軍事上に要する兵器機械の審査研究は陸海軍各其機關ありと雖も、歐洲戰亂の實蹟に鑑みるに各國競ふて科學の應用に熱中し、其效果を收めんと企圖しつつあり。我陸海軍に於ても其審査研究は之を部內官吏に委するに止めず、廣く學識經驗ある者を招致して之に諮り、以て科學の應用に努力せられんことを望む。

七月十四日豫算委員長淺田德則は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『委員會に於ける審査の結果は追加案第四號を除くの外は全部衆議院議決の通可決せり。唯追加案第三號卽ち電話事業擴張の件に就ては審査中頗る議論あり、大藏大臣の說明せる如く一般の財政計畫は七年度豫算編製の場合に至らざれば之を立つること能はずとせば、電話事業擴張の如く長年月に涉り而も一億圓以上の公債を以て支辨せんとするものは、一般の財政に伴ひて之を計畫すべきものにあらざるやとの疑問起り、斯案の通過を困難ならしめんとせり。然るに大藏大臣は之に對し大正七年度以降財政上の主要問題は國防問題にして、之に關する經費を公債を以て支辨するが如きは策の得たるものにあらずして、必ず的確の財源を以てせざるべからず。之に反し電話事業の如き急を要し而も收益を擧げ得るものは之を公債支辨に移し、其擴張に依り生ずる收益は之を一般歳入に繰入れ、或は國防經費の財源と爲し、或は其他國家必要の事業に充當し得べし。故に本案は大正七年度の財政計畫の前驅として本議會に提出したる次第にして、決して今後の財政計畫に扞格する所なしと辯明せり。斯くて委員會は此大藏大臣の說明に信賴し、第三號案を認むるに決したり。次に委員會は第四號豫算追加案中大藏省所管歳出臨時部第十九款銀行補助第一項日本興業銀行補助金五萬圓を削除したり。其理由は日本興業銀行法中改正法律案は目下衆議院に繫屬中にして、此豫算案議決の當時本院に送付せられざりしのみならず、衆議院に於ても未だ付議せられざるを以て、參照調査すること能はずと云ふにあり。其結果合計の金額に於て異動を生ずることとなれり。』

斯くて採決の結果異議なく全部委員長報告の通可決し、其の修正に係る第四號追加豫算案は之を衆議院に回付せしが、衆議院は同月十四日異議なく貴族院の修正に同意せしを以て、玆に追加豫算案全部は兩院を通過し、孰れも裁可を經て同月十九日公布せられたり。今之を一括表揭すれば左の如し。

大正六年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額
歳入	
經常部	
印紙收入	四二、一三八円
印紙收入	四二、一三八
官業及官有財産收入	三、一六一、五二五
郵便電信及電話收入	一、五六六、七九九
森林收入	五七〇、九九七
印刷局益金	二八、二五三
大阪砲兵工廠益金	一、七二三、七八二
製鐵所益金	八、〇八一、六九四
雜收入	三三、〇三三
税關雜收入	二九、七〇〇
雜入	三、三三三
預金特別會計ヨリ繰入	四、六一五、九四八
預金利子繰入	四、六〇二、五一三
利子拂手數料繰入	一三、四三五
朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	四五八、九〇三
朝鮮事業公債及借入金償却繰入	四五八、九〇三
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	四八〇、七一四
臺灣事業公債及借入金償却繰入	四八〇、七一四円
經常部合計	一七、七九二、三六〇
臨時部	
官有物拂下代	八二三、七九八
物品拂下代	八二三、七九八
雜收入	一三、三〇六、三六六
海軍受託造修收入	五六三、〇〇〇
山東鐵道收入	八五、九一四
臨時受託造修收入	七、八四三、一〇〇
戰時海上再保險收入	四、八一四、三五二
地方分擔納付金	八五一、〇〇〇
地方分擔納付金	八五一、〇〇〇
公債募集金	一八、一七〇、九六三
臺灣事業費繰替借入金	一〇〇、〇〇〇
朝鮮事業費公債及繰替借入金	一三、〇七〇、九六三
臺灣事業費公債金	二、〇〇〇、〇〇〇
電話事業公債及繰替借入金	三、〇〇〇、〇〇〇
森林資金繰入	二九八、五五〇
森林資金繰入	二九八、五五〇
獻納金	一六七、四〇〇円
學校建築費獻納金	一六七、四〇〇
前年度繰入金	五三、〇四八、三五六
前年度繰入金	五三、〇四八、三五六
特別會計資金繰入	四〇、〇〇〇
學校及圖書館資金繰入	四〇、〇〇〇
港灣修築費納付金	一、〇六七、六六三
港灣修築費納付金	一、〇六七、六六三
臨時部合計	八六、七六三、〇九六
歳入總計	一〇四、五五五、三五六
歳出	
經常部	
外務省所管	
外務本省	三、九〇〇
廳費及修繕費	一五〇
傭外國人諸給	三、七五〇
在外公館	三一、六二四
俸給	一一、四三六
館費	二、九二四

科目	金額
傭外國人諸給	二、九〇三
在外國居留民取締費	一三、四三八
地所家屋借料	一、九三三
合計	三五、五二四
內務省所管	
神社費及國幣社例祭幣帛料	一三〇
國幣社例祭幣帛料	一三〇
內務本省	五五、八五五
俸給	一八、五三〇
廳費及修繕費	七、一一四
雜給及雜費	一〇、三三一
機密費	二〇、〇〇〇
地方廳	五〇、一七九
俸給	二三、七八八
廳費及修繕費	五、七五七
雜給及雜費	一九、七七〇
小笠原島地方費	八六四
補助費	九、五七〇
地方費補給	九、五七〇
臺灣關税諸收入繰入	三六九、四〇五
臺灣關税諸收入繰入	三六九、四〇五
國立感化院費	三、三九六
國立感化院費	三、三九六
軍事救護費	二八一、一八四
軍事救護費	二八一、一八四
合計	七六九、七〇九
大藏省所管	
大藏本省	六、〇四二
俸給	二、四三〇
廳費及修繕費	一、五九八
雜給及雜費	二、〇一四
預金利子及手數料	四、六一五、九四八
預金利子	四、六〇二、五一三
利子拂手數料	一三、四三五
內閣	五〇、〇四二
俸給	一六、八五三
事務費	三三、一八九
會計檢査院	一、六五五
事務費	一、六五五
稅關	九三、一七〇
俸給	一〇、四六五
廳費及修繕費	一八、六一五
雜給及雜費	一九、九六〇
特派官吏費	四四、一三〇
橫濱港維持費	四、二六八
橫濱港維持費	九六八
俸給	三、三〇〇
諸拂戻及缺損補塡金	一、八二八、〇〇三
諸拂戻金	一、八二八、〇〇三
國債整理基金繰入	二一、〇四六、二七一
國債整理基金繰入	二一、〇四六、二七一
國庫豫備金	三、〇〇〇、〇〇〇
第一豫備金	一、〇〇〇、〇〇〇
第二豫備金	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	三〇、六四五、三九八
陸軍省所管	
軍事費	一、五五一、八〇六
俸給	三〇一、五三〇
廳費	一四、四一七
修繕費	一五、一四三

科目	金額
旅費	三五七、七〇七円
雜給及雜費	四一、一二四
諸手當	二一一、七五四
糧秣費	一九七、五一七
被服費	一五一、〇三八
兵器彈藥費	一七〇、四八五
馬匹費	九三、四九一
演習費	七〇、九一六
患者費	六、四〇三
軍隊需品費	二一、三〇三
憲兵費	二七〇
馬匹費	二七〇
馬政局	八九、二六四
俸給	六、八九〇
廳費及修繕費	一、四三八
雜給及雜費	一三、七七〇
事業費	三〇、九八〇
去勢費	三七、一八六
合計	一、六四一、三四〇
海軍省所管	
軍事費	三、三三〇、三三一円
俸給	四一三、四六九
雜給及雜費	二一、五八五
諸手當	四、三三一
衣糧費	二三五、八八一
造船造兵及修理費	二、〇一一、七六三
患者費	一一、二七八
艦營費	六三〇、二三〇
傭外國人諸給	一、七九四
司法省所管	
裁判所	四四一、九七一
俸給	二八八、六〇五
廳費及修繕費	八四、四〇五
雜給及雜費	六八、九六一
監獄	一六、四六〇
廳費及修繕費	三、〇六八
雜給及雜費	一三、三九三
合計	四五八、四三一
文部省所管	
醫術及藥劑師試驗費	一五、〇一三円
齒科療院費	六、三四六
醫師試驗用患者費交付金	八、六六六
大學及學校圖書館支出金	一一〇、〇五四
東北帝國大學	四四、二〇九
九州帝國大學	六、九六四
學校及圖書館	五八、八八一
合計	二二五、〇六六
農商務省所管	
農商務本省	一三、三二一
俸給	八、〇七五
廳費及修繕費	七五〇
雜給及雜費	二、四六〇
度量衡費	二、〇二六
特許局	一一、七五三
俸給	一一、一五三
事務費	六〇〇
森林費	三七四、九八一

科目	金額
俸給	四、四〇三
事業費	三七〇、五七八
水産講習所	九、八三七
事業費	九、八三七
生絲檢査所	九、八〇〇
俸給	一、九九五
事業費	七、八〇五
合計	四一九、六八一
遞信省所管	
遞信本省	三〇、九六九
俸給	一〇、六五〇
廳費及修繕費	一三、四一九
雜給及雜費	六、九〇〇
遞信費	三、一八五、〇七〇
俸給	一〇九、六七七
遞信事業費	一、四七八、六九八
諸拂戻金	一、五九六、六九五
航路標識費	六、五〇四
俸給	二、三五八
航路標識事業費	四、一四六
年金及恩給	一、〇五四、七一九
恩給	一、〇五四、七一九
諸支出金	一、〇九七
諸支出金	一、〇九七
合計	四、二七八、三五九
經常部合計	四一、六九三、八三九
臨時部	
內務省所管	
補助費	一五〇、〇〇〇
河川改修費補助	一五〇、〇〇〇
治水事業費	八五一、〇〇〇
河川費	八五一、〇〇〇
營繕費	一五一、〇一九
國立感化院建設費	一五一、〇一九
北海道拓殖費	九六八、八二九
殖民費	三四、二四三
產業費	四七、〇六七
道路橋梁費	三三五、六四八
土地改良費	六九、六二六
河川費	二三〇、八六八
港灣費	三三五、三五五
拓殖鐵道公債利子支出金	三六、一三五
港灣改良費	一、〇七七、六六三
港灣修築費補助	一〇、〇〇〇
鹽釜港修築費	七七、〇〇〇
新潟港修築費	三五〇、六六三
醫藥品製造獎勵費	二三、一一九
醫藥品製造獎勵費	二三、一一九
特別會計事業公債金繰入	一四、八八〇、九六三
臺灣事業公債金繰入	一、八二〇、〇〇〇
朝鮮事業公債金繰入	一三、〇六〇、九六三
特別會計經費補充金	三〇、〇〇〇
樺太廳經費補充金	三〇、〇〇〇
明治神宮外苑工事施行費	二四、七三三
明治神宮外苑工事施行費	二四、七三三
合計	一八、三四六、三三六
大藏省所管	
營繕費	七四〇、九六九
神戸稅關防波堤築造費	二五〇、〇〇〇
新營費	一三五、〇〇六

科目	金額
修繕費	二六、八七〇円
大阪税關火災復舊其他新營費	三〇三、三九三
印刷局機械增設費	三五、七〇〇
海外駐箚財務官費	一三〇、七四六
事務費	一〇四、四九六
機密費	二六、二五〇
臨時軍事費特別會計繰入	一五、八五四、一八四
臨時軍事費特別會計繰入	一五、八五四、一八四
大正三年臨時事件豫備費	五三、五〇〇、〇〇〇
大正三年臨時事件豫備費	五三、五〇〇、〇〇〇
議院建築調査費	一四、九五六
議院建築調査費	一四、九五六
臨時教育會議諸費	二〇、六三〇
臨時教育會議諸費	二〇、六三〇
米澤税務署廳舍新營及土地臺帳其他火災復舊費	五五、三四三
米澤税務署廳舍新營及土地臺帳其他火災復舊費	五五、三四三
合計	七〇、三二六、八二八
陸軍省所管	
航空隊設備費	一八八、二〇八
營繕及初度調辦費	一八八、二〇八円
自動車研究費	一四六、三五六
自動車研究費	一四六、三五六
馬政事業設備費	三三、一三六
馬政事業設備費	三三、一三六
軍需品臨時補塡費	六〇九、〇五六
軍需品臨時補塡費	六〇九、〇五六
機關銃隊充備費	三二八、五一一
營繕及初度調辦費	三二八、五一一
山砲兵隊充備費	一九九、六七六
營繕及初度調辦費	一九九、六七六
騎兵實施學校充備費	一八、八六六
營繕及初度調辦費	一八、八六六
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	三、五三三、八〇九
海軍省所管	
營繕費	四、八五〇
横須賀工廠印刷所及物置火災復舊費	四、八五〇
受託造修費	五六三、〇〇〇円
受託造修費	五六三、〇〇〇
拂下圖誌製造費	六、〇〇〇
拂下圖誌製造費	六、〇〇〇
軍備補充費	一五、二〇八、五七五
軍艦製造費	一五、二〇八、五七五
臨時艦艇修理費	一、五〇八、一一三
臨時艦艇修理費	一、五〇八、一一三
艦船救難及復舊費	一九一、〇〇〇
軍艦筑波引揚費	一九一、〇〇〇
合計	一七、四八一、五三七
司法省所管	
營繕費	一二〇、〇〇〇
名古屋控訴院地方裁判所區裁判所建築費	八〇、〇〇〇
松山監獄建築費	四〇、〇〇〇
文部省所管	
營繕費	四四〇、三八九
新營費	四三、〇〇〇
高等商業學校擴張費	一〇一、九二五

科目	金額
熊本高等工業學校電氣科新設費	五三、四〇〇
高等工業學校擴張費	九〇、二〇三
直轄學校校舍改築費	一一一、八七三
大阪高等工業學校校舍新營費	四〇、〇〇〇
大學及學校圖書館臨時支出金	五三〇、三三一
東北帝國大學	五九、五〇〇
九州帝國大學	九六、二三五
東京帝國大學	二一一、七四〇
京都帝國大學	一五三、七六六
高等工業學校創立費	一六七、四〇〇
第九高等工業學校創立費	五三、七〇〇
第十高等工業學校創立費	五三、七〇〇
高等工業學校敷地購入費	六〇、〇〇〇
補助費	二〇五、二〇〇
師範學校及中學校臨時設備費補助	二〇五、二〇〇
合計	一、三三三、三三〇
農商務省所管	
産業奬勵費	二〇三、四八八
農事改良奬勵費	七五、〇〇〇
蠶絲業改良奬勵費	七〇、〇〇〇
副業奬勵費	二七、二六三
發明奬勵費	三〇、二二五
製鐵所擴張費	一、三八五、四五〇
事務費	三〇、四五〇
工場費	一、三五五、〇〇〇
營繕費	一〇、八五一
新營費	一〇、八五一
國有林野經營費	二九八、五五〇
俸給	五、二五〇
事業費	二九三、三〇〇
臨時調査費	四七、二九〇
炭坑爆發豫防調査費	二、八九三
米穀貯藏研究費	二〇、九〇〇
油田調査費	二三、四九七
合計	一、九四四、六二九
遞信省所管	
補助費	三、四〇九、二八〇
造船奬勵費	三、四〇九、二八〇
電信電話營繕費	五五五、八九五
電信電話營繕費	五五五、八九五
營繕費	五九、一七三
新營費	五九、一七三
電話交換擴張費	三、〇〇〇、〇〇〇
俸給	四四、四五三
事業費	二、九五五、五四七
簡易生命保險特別會計繰入	八八、三九四
簡易生命保險特別會計繰入	八八、三九四
災害費	一〇六、四五九
米澤郵便局舍及官舍火災復舊費	二六、六一二
米澤市内電信電話其他火災復舊費	七九、八四七
合計	七、二一九、二〇〇
臨時部合計	一二〇、二八五、五四九
歲出總計	一六一、九七九、三八八

新規繼續費表

事項	總額	大正六年度	同七年度	同八年度	同九年度	同十年度	自同十一年度至同十五年度
鹽釜港修築費	二、九三三、〇〇〇円	七一七、〇〇〇円	五五〇、〇〇〇円	五五〇、〇〇〇円	五五〇、〇〇〇円	五六六、〇〇〇円	〇円
新潟港修築費	一、一六〇、六六三	三五〇、六六三	二〇五、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一九四、〇〇〇	二一六、〇〇〇	〇
大阪稅關火災復舊其他新營費	六四六、八八二	三〇三、三九三	三四三、四八九	〇	〇	〇	〇
機關銃隊充備費	三、二三九、六四〇	三二八、五一一	三〇二、三四九	三三〇、一八二	三一一、〇八四	三一一、八九〇	一、六五五、六二四
山砲兵隊充備費	六三〇、一四八	一九九、六七六	二〇一、一二四	一八五、六六六	三三、六八二	〇	〇
兵器製造所新設費	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
名古屋控訴院地方裁判所區裁判所建築費	三二〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	〇	〇
松山監獄建築費	二〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	〇
熊本高等工業學校電氣科新設費	一一八、九八一	五二、四〇〇	六六、五八一	〇	〇	〇	〇
第九高等工業學校創立費	七五〇、〇〇〇	五三、七〇〇	一九三、三〇〇	三四四、〇〇〇	一五九、〇〇〇	〇	〇
第十高等工業學校創立費	七五〇、〇〇〇	五三、七〇〇	一九三、三〇〇	三四九、〇〇〇	一五四、〇〇〇	〇	〇
大阪高等工業學校校舍新營費	一、一〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	三九〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	〇	〇
米澤郵便局舍及官舍火災復舊費	六〇、二八七	二六、六一二	三三、六七五	〇	〇	〇	〇
合計	一五、八八九、六〇一	四、二四五、六五五	四、五七八、八一八	二、四五三、八四八	一、八二一、七六六	一、一三三、八九〇	一、六五五、六二四

第二　第四十回帝國議會提出追加豫算

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入千三百六十九萬五十二圓、歳出千三百二十五萬七千六百七十四圓にして、其の追加を要する事項金額の主なるものを擧ぐれば左の如し。

歳入經常部

煙草定價引上に依る專賣局益金の增加　二、四三八、五五一円

製作增加等に依る大阪砲兵工廠益金の增加　三、五〇〇、〇〇〇

歳入臨時部

米價調節の爲購入保有せる米穀の拂下代　二、三二三、〇八四

在外正貨の運用に依る利子收入の增加　四、四二八、一二八

國防費獻納金　一、〇〇〇、二八九

歳出經常部

外務省所管

在外公館電信料の增加　六〇、〇〇〇

內務省所管

警察費連帶支辨金の增加　五九二、三六八

大藏省所管

臨時議會開會等の爲貴衆兩院經費の增加　二四三、九九二

稅關臨時勤勞手當及處分費の增加　五五、一三四

市町村交付金の增加　一、二二三、六二九

陸軍省所管

物價騰貴に伴ふ糧秣費の增加　二、三一三、二七三円

下士退營賜金の增加　五四、六六〇

海軍省所管

定期職工滿期賜金及下士卒家族扶助金の增加　三二、二二四

司法省所管

裁判及登記諸費竝在監人費の增加　二三二、八七〇

歳出臨時部

內務省所管

京都府外一府三縣災害土木費補助　八〇九、〇〇〇

府縣風水害旅費　一八、九三二

大藏省所管

公債端金の增加　九、九六七

陸軍省所管

航空隊設備費の追加　五〇〇、〇〇〇

軍隊官衙學校風水害復舊費　二七五、二二四

海軍省所管

軍艦製造材料價格騰貴に依る軍艦製造費の增加　六、三二二、六八二

航空隊設備費の追加　五〇〇、二八九

右追加豫算案は大正七年三月四日衆議院に提出せられしが、衆議院に於ては同月九日、貴族院に於ては同月十五日何れも異議なく原案の通可決確定せしを以て、裁可を經て同月十九日公布せられたり。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入千百七十四萬五千六百六十七圓、歳出千二百十七萬八千四十五圓にして、差引不足額四十三萬二千三百七十八圓は、追加豫算第一號に於ける歳入超過額を以て之を支辨するの計畫なり。右は時局の進展に伴ふ臨時軍事費の增加に應ずる爲め、前年度剩餘金繰入を財源と爲し、大藏省所管歳出臨時部に於て臨時軍事費特別會計繰入額を計上せるものなり。本追加豫算案は大正七年三月十三日衆議院に提出せられしが、衆議院に於ては同月十九日、貴族院に於ては同月二十六日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十八日公布せられたり。

以上第四十回帝國議會を通過せる一般會計追加豫算二件を一括表揭すれば左の如し。

大正六年度歳入歳出總豫算追加（二）

科目	金額	科目	金額	科目	金額
歳入		**臨時部**		獻納金	一、〇〇〇、二八九円
經常部		官有物拂下代	二、三二三、〇八四円	國防費獻納金	一、〇〇〇、二八九
官業及官有財産收入	五、九三八、五五一円	物品拂下代	二、三二三、〇八四	前年度繰入金	二、七四五、六六七
專賣局益金	二、四三八、五五一	雜收入	四、四二八、一二八	前年度繰入金	二、七四五、六六七
大阪砲兵工廠益金	三、五〇〇、〇〇〇	利子收入	四、四二八、一二八	**臨時部合計**	一九、四九七、一六八

歳入總計	二五、四三五、七一九	**合計**	一、五二二、七五五	縣債利子補給	四、七九一
歳出		**陸軍省所管**		土木費借入金利子補給	四、七九一
經常部		軍事費	二、三一三、二七三	災害費	八二七、九三二
外務省所管		糧秣費	二、三一三、二七三	府縣風水害旅費	一八、九三二
在外公館	六〇、〇〇〇	諸支出金	五四、六六〇	京都府災害土木費補助	一四四、〇〇〇
電信料	六〇、〇〇〇	諸支出金	五四、六六〇	大阪府災害土木費補助	一四六、〇〇〇
內務省所管		**合計**	二、三六七、九三三	神奈川縣災害土木費補助	一〇五、〇〇〇
地方廳	五九二、三六八	**海軍省所管**		奈良縣災害土木費補助	一一〇、〇〇〇
警察費連帶支辨金	五九二、三六八	軍事費	三二、二二四	和歌山縣災害土木費補助	三〇四、〇〇〇
大藏省所管		造船造兵及修理費	二八、一三五	**合計**	八三二、七二三
貴族院	一八、七六六	扶助金	四、〇八九	**大藏省所管**	
事務費	一八、七六六	**司法省所管**		臨時軍事費特別會計繰入	一二、一七八、〇四五
衆議院	二二五、二二六	裁判所	三七、一五五	臨時軍事費特別會計繰入	一二、一七八、〇四五
議員諸費	二〇二、〇四六	裁判及登記諸費	三七、一五五	軍人恩給更正諸費	八、六三九
事務費	二三、一八〇	監獄	一九五、七一五	軍人恩給更正諸費	八、六三九
稅關	五五、一三四	在監人費	一九五、七一五	公債端金	九、九六七
雜給及雜費	四〇、〇二九	**合計**	二三二、八七〇	公債端金	九、九六七
處分費	一五、一〇五	**經常部合計**	四、八〇八、一五〇	**合計**	一二、一九六、六五一
內國稅徵收費	一、二二三、六二九	**臨時部**		**陸軍省所管**	
市町村交付金	一、二二三、六二九	**內務省所管**		航空隊設備費	五〇〇、〇〇〇

科目	金額	科目	金額	科目	金額
營繕及初度調辨費	五〇〇、〇〇〇円	海軍省所管		航空隊設備費	五〇〇、二八九円
災害費	二七五、二二四	軍備補充費	六、三二二、六八二円	合計	六、八二二、九七一
軍隊官衙學校風水害復舊費	二七五、二二四	軍艦製造費	六、三二二、六八二	臨時部合計	二〇、六二七、五六九
合計	七七五、二二四	航空隊設備費	五〇〇、二八九	歳出總計	二五、四三五、七一九

以上第三十九・四十兩議會の協贊を經たる追加豫算額を、夫々大正六年度施行豫算額又は實行豫算額に加算して、大正六年度歳入歳出總豫算の總額を示せば左の如し。

大正六年度歳入歳出總豫算總計表

區分	施行豫算額	實行豫算額	追加豫算額 第三十九議會通過	追加豫算額 第四十議會通過	施行豫算額及追加豫算額總計	實行豫算額及追加豫算額總計
歳入						
經常部	五三一、七九三、一五二円	五三九、五八七、四二四円	一七、七九二、二六〇円	五、九三八、五五一円	五五五、五二三、九六三円	五六三、三一八、二三五円
臨時部	六九、一四五、二四五	七一、二五四、一六二	八六、七六三、〇九六	一九、四九七、一六八	一七五、四〇五、五〇九	一七七、五一四、四二六
合計	六〇〇、九三八、三九七	六一〇、八四一、五八六	一〇四、五五五、三五六	二五、四三五、七一九	七三〇、九二九、四七二	七四〇、八三二、六六一
歳出						
經常部	三九七、七五五、六〇九	三九六、三七六、六〇八	四一、六九三、八三九	四、八〇八、一五〇	四四四、二五七、五九八	四四二、八七八、五九七
臨時部	一九四、九九九、七一九	一五七、〇四〇、九四六	一二〇、二八五、五四九	二〇、六二七、五六九	三三五、九一二、八三七	二九七、九五四、〇六四
合計	五九二、七五五、三二八	五五三、四一七、五五四	一六一、九七九、三八八	二五、四三五、七一九	七八〇、一七〇、四三五	七四〇、八三二、六六一

（備考）實行豫算額中には實行豫算增額を包含す。

第三款　豫備金及豫備金外支出

大正六年度第一豫備金の豫算額は二百萬圓にして、大正六年勅令第四十三號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、衞生試驗所阿片費・檢丁及新兵旅費・傳染病豫防檢疫諸費・稅關臨時勤勞手當・印紙類諸費・輸出交付金・染料及火藥爆藥原料製造奬勵金・諸拂戻金・遞信事業用證票及式紙類費等なり。

大正六年度第二豫備金の豫算額は四百萬圓にして、豫算外に生じたる必要の費途に豫算全額を支出せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、在天津居留民團水害復舊費補助・內務大臣官舍外圍其他築造費・衆議院議員臨時總選擧取締費・馬匹去勢諸費・軍艦筑波引揚費・軍艦音羽救難費・米國派遣軍艦費・衆議院議員臨時總選擧檢察費・火災及風水害復舊費等なり。

大正六年度大正三年臨時事件豫備費の豫算額は八千二百萬圓にして、之を大正三年臨時事件に關する各費途に充用したる金額は七千六百二十二萬千八百二圓なり。

大正六年度第一豫備金及第二豫備金豫算拂切となりたるに付き、豫備金外に於て國庫剩餘金を以て豫算超過及豫算外の支出を爲したる金額は七百四萬千四十三圓二十四錢にして、內豫算超過支出額は六百十四萬九千三百三十八圓十二錢、豫算外支出額は八十九萬千七百五圓十二錢なり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、豫算超過支出に屬するものは衞生試驗所阿片費・傳染病豫防檢疫諸費・陸軍糧秣費・陸軍一年志願兵及幼年學校自費生諸費・陸軍退營賜金・在監人費・染料及火藥爆藥原料製造奬勵金・諸拂戻金等にして豫算外支出に屬するものは火災及風水害復舊費なり。

右大正六年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は大正八年三月一日第四十一回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、之が總計算書を衆議院に提出せしが、衆議院は同月十三日、貴族院は同月二十六日、何れも全部承諾を與ふることに決定したり。

第四款　決　算

大正六年度の歳入歳出總決算に計上する所の經常部歳入額は七億六千三百七十六萬百四十二圓八十一錢七厘、臨時部歳入額は三億二千百十九萬八千二百四十四圓六十錢二厘、歳入合計十億八千四百九十五萬八千三百八十七圓四十一錢九厘にして、之に對する經常部歳出額は四億三千七百八十二萬千四百八十二圓五十七錢、臨時部歳出額は二億九千七百二十萬二千七百六十九圓四十錢九厘、歳出合計七億三千五百二萬四千二百五十一圓九十七錢九厘なり。故に歳入歳出差引三億四千九百九十三萬四千百三十五圓四十四錢の剩餘を生じたり。該剩餘金は會計法第二十條に依り之を大正七年度の歳入に繰入れたり。今右歳入歳出決算を豫算に比較して其の大要を說明すれば左の如し。尙大正六年度に於ては總豫算不成立の爲め憲法の條規に依り前年度豫算を施行したるも、歳計の實際に於ては右施行豫算の外別に實行豫算を編成實施したるを以て、該施行豫算は同年度歳計の實情と相距ること遠きものあり。依て以下の說明に於ては施行豫算との比較の外、別に實行豫算との比較をも示すこととせり。

第一　歳　入

大正六年度歳入の決算額十億八千四百九十五萬八千三百八十七圓四十一錢九厘を以て、其の豫算額七億三千九十二萬九千四百七十二圓に對比すれば、三億五千四百二萬八千九百十五圓四十一錢九厘を增加せり。今之を經常臨時に區分すれば、經常部歳入の決算額は七億六千三百七十六萬百四十二圓八十一錢七厘にして、之を其の豫算額五億五千五百五十二萬三千九百六十三圓に對比すれば、二億八百二十三萬六千百七十九圓八十一錢七厘を增加し、臨時部歳入の決算額は三億二千百十九萬八千二百四十四圓六十錢二厘にして、之を其の豫算額一億七千五百四十萬五千五百九圓に對比すれば一億四千五百七十九萬二千七百三十五圓六十錢二厘を增加せり。但し右は同年度施行豫算に對する比較にして、更に之を同年度に於て別に編成實施したる實行豫算額に對比すれば、經常部に於て二億四十四萬千九百七圓八十一錢七厘、臨時部に於て一億四千三百六十八萬三千八百十八圓六十錢二厘、合計三億四千四百十二萬五千七百二十六圓四十一錢九厘を增加せり。今歳入の增減を生じたる重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）經常部

租稅は所得金額の多かりしが爲め所得稅の收入增加せしと、酒類造石高の多かりし等の爲め酒稅の收入增加せしと、有稅品の輸入多かりし等の爲め關稅の收入增加せしと、其の他取引所稅・營業稅・砂糖消費稅・繊物消費稅・鑛業稅及相續稅等の收入增加せしとに依り、一億千八百六十九萬三千七百十五圓十二錢二厘を增加せりと雖も、兌換銀行券發行稅・石油消費稅等の收入減少せしに依り、百八萬二千七百八十二圓四十七錢を減少せしを以て、差引一億千七百六十一萬九百三十二圓六十五錢二厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば一億千十六萬九千六百三圓六十五錢二厘を增加せり。

印紙收入は收入印紙賣捌代の收入多かりし等に依り二千三百七十二萬九千九百二十五圓六十四錢一厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二千百九十七萬三千四十四圓六十四錢一厘を增加せり。

官業及官有財產收入は、製鐵所に於ける製品販賣價格の昂騰せし等の爲め製鐵所益金の增加せしと、切手賣捌代、海外電報料及電話料の收入多かりし等の爲め郵便電信及電話收入の增加せしと、專賣品賣捌代金の收入多かりし等の爲め專賣局益金の增加せしと、其の他森林收入、囚徒工錢及製作收入、印刷局益金及海軍工廠資金益金等の增加せしとに依り、六千七百六十九萬三千三百三十八圓四十錢を增加せりと雖も、大阪砲兵工廠益金の減少せしに依り百四十二萬六千二百七十圓三十二錢八厘を減少せしを以て、差引六千六百二十六萬七千六十八圓七錢二厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば六千七百七十八萬四千四百二十八圓七錢二厘を增加せり。

雜收入は雜入、辨償及違約金等の收入增加せしに依り、二百八十六萬八千六十九圓九十六錢三厘を增加せりと雖も、免許及手數料の收入減少せしに依り一萬六千六百九十七圓三十四錢九厘を減少せしを以て、差引二百八十五萬千三百七十二圓六十一錢四厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二百七十三萬七千九百五十圓六十一錢四厘を增加せり。

預金特別會計より繰入は、郵便貯金に係る利子の仕拂に要する繰入少かりし等に依り、百四十萬五十二圓八十一錢三厘を減少せり。

朝鮮總督府特別會計より繰入は、事業公債及借入金利子の仕拂に要する繰入少かりし等に依り七十六萬四百七十三圓七十五錢六厘を減少せり。

臺灣總督府特別會計より繰入は、事業公債利子の仕拂に要する繰入少かりし等に依り、六萬二千五百九十二圓五十九錢三厘を減少せり。

（二）臨時部

官有物拂下代は、物品、船舶及地所拂下代等の收入增加せしに依り百七十三萬三千百三十三圓五十七錢四厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二百五十一萬千百十五圓五十七錢四厘を增加せり。

雜收入は受託兵器製造の收入多かりしが爲め臨時受託造修收入の增加せしと、利子收入、戰時海上再保險收入及山東鐵道收入等の增加せしとに依り、三千五百七十二萬四千三百五十七圓九十二錢一厘を增加せりと雖も、軍需品の受託製造に係る收入を臨時受託造修收入の科目に於て收入整理せしが爲め、軍需品受託製造收入のなかりし等に依り、千五百二十一萬二千五百二十八圓四十九錢六厘を減少せしを以て、差引二千五十一萬千八百二十九圓四十二錢五厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば千三百四萬七千九百六十一圓五十七錢五厘を減少せり。

地方分擔納付金は治水費に係る分擔納付金の收入多かりしに依り、八十三萬九千六百十圓を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば一萬五千九百二十四圓を減少せり。

公債募集金は臺灣事業費繰替借入金、朝鮮事業費公債金、電話事業公債及繰替借入金、臺灣事業費公債金、電話事業公債及繰替借入金の少かりしに依り、二百七十三萬六千七百四十九圓十七錢を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二百四十四萬六千七百四十九圓十七錢を減少せり。

森林資金繰入は國有林野經營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り

千二百六十圓五十八錢六厘を減少せり。

陸軍營繕費補充資金繰入は修繕費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりし等に依り、二十一萬四千九百三十八圓四十一錢を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば四千九百三十八圓四十一錢を減少せり。

帝國學士院學術研究奬勵金受入は寄付金の少かりしに依り、九萬三千圓を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば四萬三千圓を減少せり。

造幣局資金繰入は造幣局設備擴張の財源に充つべき資金の繰入を要すること少かりし等に依り一萬四千三十二圓八十七錢を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二千八百七十二圓十三錢を皆增せり。

獻納金は學校創立費及學校費獻納金竝裁判所及監獄建築費獻納金のなかりし等に依り、二十三萬千三百四十六圓七十錢を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば二萬四千圓七十錢を減少せり。

特別會計資金殘額繰入は軍艦水雷艇補充基金及治水費資金殘額の繰入なかりしに依り、二十八萬千九百八十八圓を皆減せり。但し本項に就ては實行豫算に於て計上したる金額なし。

前年度繰入金は歳計剩餘金の繰入多かりしに依り、一億三千四百二十八萬千四百七十八圓三十三錢九厘を增加せり。但し之を實行豫算額に對比すれば一億五千六百七十五萬三千六百六十五圓三十三錢九厘を增加せり。

特別會計資金繰入は造幣局資金及森林資金の繰入なかりしに依り、七百萬圓を減少せり。但し之を實行豫算額に對比すれば增減なし。

借入金は借入の金額なかりしに依り百萬圓を皆減せり。但し本項に就ては實行豫算に於て計上したる金額なし。

港灣修築費納付金は增減なし。

第二　歳　出

大正六年度歳出の決算額七億三千五百二萬四千二百五十一圓九十七錢九厘を以て、其の豫算額七億八千十七萬四百三十五圓に對比すれば、四千五百十四萬六千百八十三圓二錢一厘を減少せり。今之を經常臨時に區分すれば經常部歳出の決算額は四億三千七百八十二萬千四百八十二圓五十七錢にして、之を其の豫算額四億四千四百二十五萬七千五百九十八圓に對比すれば、六百四十三萬六千百十五圓四十三錢を減少し、臨時部歳出の決算額は二億九千七百二十萬二千七百六十九圓四十錢九厘にして、之を其の豫算額三億三千五百九十一萬二千八百三十七圓に對比すれば三千八百七十一萬六十七圓五十九錢一厘を減少せり。但し右は同年度施行豫算に對する比較にして、之を同年度に於て別に編成實施したる實行豫算額に對比すれば、經常部に於て五百五萬七千百十四圓四十三錢、臨時部に於て七十五萬千二百九十四圓五十九錢一厘、合計五百八十萬八千四百九圓二錢一厘を減少せり。

大正六年度歳出豫算額は七億八千十七萬四百三十五圓なるも、豫算決定後に於て會計法第二十一條、第二十二條及明治四十四年法律第二號に依り、前年度の殘額を本年度に繰越したるが爲め五千七百五十七萬九千八百六十五圓五十七錢二厘、國庫豫備金外に臨時支出を爲したるものありしが爲め七百四萬千四十三圓二十四錢を增加せり。依て右歳出豫算額及豫算決定後增加額を合計すれば八

億四千四百七十九萬千三百四十三圓八十一錢二厘にして、同年度支出濟額は七億三千五百二萬四千二百五十一圓九十七錢九厘、同年度に於て支出を終らずして翌年度に繰越したる金額は四千九百五十三萬四千二百三十五圓九十八錢三厘なるを以て、差引六千二十三萬二千八百五十五圓八十五錢の不用額を生ぜり。但し右は前記施行豫算に對する計算にして、其の實行豫算に於ける不用額は二千八十九萬五千八十一圓八十五錢なり。今翌年度繰越及豫算不用に係る重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）翌年度繰越

艦船及兵器の製造修理營繕土木の工事、航海の補助、陸海軍の演習、其の他林野の經營等に關し、時局の影響に依り物品の供給意の如くならざりしと、天候不良其の他避くべからざる事故に依り事業を遲延し、又は豫定の計畫を遂行すること能はざるものありし等との爲め、年度內支出を終らざりし經費にして、會計法第二十一條に依り翌年度に繰越したる金額は二千百七十七萬四千八百四十七圓十二錢九厘なり。

軍艦及兵器の製造、河川及港灣の修築、其の他營繕工事等の繼續事業にして、時局の影響に依り物品の供給意の如くならざりしと、天候不良其の他の事故に依り豫定の如く事業進行せざるものありしとの爲め、會計法第二十二條に依り翌年度に繰越したる金額は二千六百五萬六千二百八十六圓二十六錢四厘なり。

公共團體の經營に係る工事の經費に對する補助にして、年度內支出を終らざりし爲め、明治四十四年法律第二號に依り翌年度に繰越したる金額は百七十萬三千百二圓五十九錢なり。

以上翌年度繰越額の合計は四千九百五十三萬四千二百三十五圓九十八錢三厘なり。

（二）豫算不用

俸給及電信料等の支出少かりしが爲め、在外公館の經費に於て不用に歸したる金額は二十二萬五千四十圓六十七錢九厘、傷病兵其の他の救護に要する經費の支出少かりしが爲め、軍事救護費に於て不用に歸したる金額は二十三萬八千百七十四圓、預金利子の支出少かりしが爲め、預金利子及手數料に於て不用に歸したる金額は百四十萬五十二圓八十一錢三厘、大藏省證券の發行を要せざりし等の爲め、國債整理基金繰入に於て不用に歸したる金額は三百六十七萬三千七百九十圓二十三錢一厘、帝國鐵道特別會計に對する事業費資金貸付金の支出を要せざりしに依り、帝國鐵道特別會計貸付金に於て不用に歸したる金額は二千萬圓、朝鮮總督府特別會計に對する事業費資金貸付金の支出を要せざりしに依り、朝鮮總督府特別會計貸付金に於て不用に歸したる金額は千五十八萬五千圓、朝鮮總督府特別會計に對する經費補充金の支出を要すること少かりしが爲め、特別會計經費補充金に於て不用に歸したる金額は二百萬圓、俸給及艦營費等の支出少かりしが爲め、陸海軍軍事費及憲兵費に於て不用に歸したる金額は二百四十八萬四千六百六圓二十四錢三厘、海軍臨時兵器補充に關する經費の支出少かりしが爲め、臨時兵器補充費に於て不用に歸したる金額は二百三十二萬百九十一圓、年金及恩給の支出少かりしが爲め、年金及恩給に於て不用に歸したる金額は百四十一萬八千二百二十二圓四十五錢、造船奬勵及航路擴張に關する補助金の支出少かりしが爲め、補助費に於て不用に歸したる金額は二百三十三萬九千百五十一圓七十三錢、臨時事件費の支出を要すること少かりしが爲め、大正三年臨時事件豫備費に於て不用に歸したる金額は五百七十七

萬八千百九十八圓其の他諸般の經費に於て不用に歸したる金額は七百七十七萬四百二十八圓七十錢四厘にして、以上豫算不用額の合計は六千二十三萬二千八百五十五圓八十五錢なりとす。

大正六年度に於て大藏省證券發行最高額は五千萬圓の豫定なりしも、實際之が發行を爲さず。

今大正六年度決算額を其の豫算額と對照すれば左の如し（圓位以下切捨）。

大正六年度歳入歳出決算額豫算額對照表

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
歳入			
經常部			
租税	四三〇、六〇四、〇九二円	三一二、九九三、一六〇円	一一七、六一〇、九三二円
地税	七三、四七八、五三六	七二、五九二、三五〇	八八六、一七六
所得税	九四、六四九、一三四	三三、四三八、一八六	六一、二一〇、九四八
營業税	二六、三九四、七〇〇	二〇、〇九〇、八七七	六、三〇三、八二三
相續税	四、五九七、六〇二	二、八五三、三〇二	一、七四四、三〇〇
通行税	六、二七三、〇八七	四、八六九、九五四	一、四〇三、一三三
鑛業税	五、九一七、四九二	二、九五八、七八一	二、九五八、七一一
兌換銀行券發行税	三九九、七六七	一、〇六〇、一三八	△六六〇、三七一
酒税	一〇六、七三八、四九六	九一、七一九、〇九一	一五、〇一九、四〇五
醬油税	五、二八九、九九七	四、九〇八、四三二	三八一、五六五
砂糖消費税	二九、八一二、九六七	二五、三三九、三五七	四、四七三、六一〇
織物消費税	一九、一五五、三五一円	一五、一四四、一一五円	四、〇一一、二三六円
石油消費税	一、〇三九、四三八	一、四五七、〇二一	△四一七、五八三
賣藥營業税	二四三、九一〇	二四七、七三九	△四、八二九
取引所税	一〇、八一九、四六五	三、七一六、四八三	七、一〇三、九八二
關税	四五、一八六、八七三	三二、〇二四、四一五	一三、一六二、四五八
噸税	六〇八、二八一	五七三、九一九	三四、三六二
印紙收入	五三、七六三、七六二	二九、〇三三、八三七	二三、七二九、九二五
印紙收入	五三、七六三、七六二	二九、〇三三、八三七	二三、七二九、九二五
官業及官有財産收入	二三〇、〇六九、六三八	一八三、八〇二、五七〇	四六、二六七、〇六八
郵便電信及電話收入	九〇、六八九、九一八	六五、三四二、〇九九	二五、三四七、八一九
森林收入	一七、五三七、四三九	一一、三三〇、二四三	六、二〇七、一九六
配當金收入	二、八八五、五四七	二、七六四、〇〇〇	一二一、五四七
因徒工錢及製作收入	二、〇三七、〇九九	一、四三一、四九二	六〇五、六〇七

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
官有物貸下料	四〇七、四二三	三二三、六一三	八三、八一〇
印刷局益金	一、二〇二、五七六	七三二、五三七	四七〇、〇三九
專賣局益金	七七、五九二、六六〇	七〇、二四一、八八一	七、三五〇、七七九
東京砲兵工廠益金	一、六〇七、九一〇	一、三六〇、五九六	二四七、三一四
大阪砲兵工廠益金	九、五一八、二二七	一〇、九四四、四九八	△一、四二六、二七一
千住製絨所益金	二一、二九一	五、二〇〇	一六、〇九一
海軍採炭所益金	一〇八、八八五	八四、三三一	二四、五五四
海軍工廠資金益金	八二三、七二〇	四二九、四〇五	三九四、三一五
製鐵所益金	四五、六四六、九三七	一八、九一二、六七五	二六、七三四、二六二
雜收入	五、九八〇、三四〇	三、一二八、九六八	二、八五一、三七二
免許及手數料	二二七、六九九	二四四、三九七	△一六、六九八
懲罰及沒收金	一、二九七、三八六	八五九、三一八	四三八、〇六八
辨償及違約金	一、二三四、六一一	三七四、一二九	八六〇、四八二
税關雜收入	三〇四、一八一	一八三、二〇一	一二〇、九八〇
雜入	一、七三九、一七三	四七一、一七〇	一、二六八、〇〇三
官吏遺族扶助法納金	三九三、五一一	三七三、九七三	二〇、五三八
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	二〇〇、九三八	一八六、八五七	一四、〇八一
一年志願兵及幼年學校自費生納金	五七九、五一三	四三四、二三三	一四五、二八〇
小笠原島地方收入	三、三二五	二、六九一	六三四
預金特別會計ヨリ繰入	一五、一四三、七五四	一六、五四三、八〇七	△一、四〇〇、〇五三
預金利子繰入	一五、〇九九、四三八	一六、四九五、二八七	△一、三九五、八四九
利子拂手數料繰入	四三、三一五	四七、五二〇	△四、二〇五
朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	四、七一〇、〇三四	五、四七〇、五〇八	△七六〇、四七四
朝鮮事業公債及借入金償却繰入	四、七一〇、〇三四	五、四七〇、五〇八	△七六〇、四七四
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	四、四八九、五三〇	四、五五三、一一三	△六三、五八三
臺灣事業公債及借入金償却繰入	四、四八九、五三〇	四、五五三、一一三	△六三、五八三
經常部合計	**七六三、七六〇、一四三**	**五五五、五三三、九六四**	**二〇八、二二六、一七九**
臨時部			
官有物拂下代	八、六〇九、二一六	六、八七六、〇八三	一、七三三、一三三
鑛山拂下代	三、〇〇〇	三、〇〇〇	〇
地所拂下代	九四七、七七二	六五四、五六〇	二九三、二一二
建物拂下代	七九、四〇二	二六、〇六六	五三、三三六
工場拂下代	一四、三〇〇	一四、三〇〇	〇
物品拂下代	六、八九五、七七九	五、九三六、三六七	九五九、四一二
船舶拂下代	三六二、五七三	一七、一九一	三四五、三八二
家畜拂下代	三〇六、三八八	二二四、五九九	八一、七八九
雜收入	六三、一七八、五五六	四三、六六六、七二七	二〇、五一一、八二九
海軍受託造修收入	五四一、八一〇	七九五、二五八	△二五三、四四八
返納金	七〇九、〇三〇	四二二、八七三	二八六、一五七
支那償還金收入	一、九八六、五八五	二、六三三、一七七	△六四六、五九二

科目	決算額	予算額	比較増減（△）	科目
	千円	千円	千円	
利子収入	七四六	七四六		寄附金
軍需品売記製造収入	〇			造幣局資金繰入
東鉄道収入	七八二	一四〇〇	△六一八	雑収入
臨時受託建修収入	三七七	七八〇	△四〇三	償還金
雑時海上再保険収入	六六三	四八二	一八一	学校建築費繰入
臨時国庫分補助金	一〇〇〇	〇	一〇〇〇	救助所建築費繰入
地方分納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
入金	〇	一〇七四	△一〇七四	学校創立費繰入
歳入総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
歳出総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
第四編　歳計（中）				学校創立費繰入

科目	決算額	予算額	比較増減（△）	科目
	千円	千円	千円	
利子収入	七四六	七四六		寄附金
軍需品売記製造収入	〇			造幣局資金繰入
東鉄道収入	七八二	一四〇〇	△六一八	雑収入
臨時受託建修収入	三七七	七八〇	△四〇三	償還金
雑時海上再保険収入	六六三	四八二	一八一	学校建築費繰入
臨時国庫分補助金	一〇〇〇	〇	一〇〇〇	救助所建築費繰入
地方分納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
入金	〇	一〇七四	△一〇七四	学校創立費繰入
歳入総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
歳出総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入

科目	決算額	予算額	比較増減（△）	科目
	千円	千円	千円	
利子収入	七四六	七四六		寄附金
軍需品売記製造収入	〇			造幣局資金繰入
東鉄道収入	七八二	一四〇〇	△六一八	雑収入
臨時受託建修収入	三七七	七八〇	△四〇三	償還金
雑時海上再保険収入	六六三	四八二	一八一	学校建築費繰入
臨時国庫分補助金	一〇〇〇	〇	一〇〇〇	救助所建築費繰入
地方分納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
入金	〇	一〇七四	△一〇七四	学校創立費繰入
歳入総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
歳出総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入

科目	決算額	予算額	比較増減（△）	科目
	千円	千円	千円	
利子収入	七四六	七四六		寄附金
軍需品売記製造収入	〇			造幣局資金繰入
東鉄道収入	七八二	一四〇〇	△六一八	雑収入
臨時受託建修収入	三七七	七八〇	△四〇三	償還金
雑時海上再保険収入	六六三	四八二	一八一	学校建築費繰入
臨時国庫分補助金	一〇〇〇	〇	一〇〇〇	救助所建築費繰入
地方分納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
入金	〇	一〇七四	△一〇七四	学校創立費繰入
歳入総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
歳出総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入

科目	決算額	予算額	比較増減（△）	科目
	千円	千円	千円	
利子収入	七四六	七四六		寄附金
軍需品売記製造収入	〇			造幣局資金繰入
東鉄道収入	七八二	一四〇〇	△六一八	雑収入
臨時受託建修収入	三七七	七八〇	△四〇三	償還金
雑時海上再保険収入	六六三	四八二	一八一	学校建築費繰入
臨時国庫分補助金	一〇〇〇	〇	一〇〇〇	救助所建築費繰入
地方分納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
港湾修築費納付金	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
入金	〇	一〇七四	△一〇七四	学校創立費繰入
歳入総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入
歳出総計	一〇七四	一〇七四		学校創立費繰入

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
商船學校	一九一、一四一	一九一、三八五	△ 二四四
航路標識費	三九三、四七三	三九六、四七五	△ 三、〇〇二
遞信費	三五、五一九、四二四	三二、八六一、七六三	二、六五七、六六一
遞信本省	六六九、四九二	六八五、九一九	△ 一六、四二七
遞信省所管			
合計	七、四三八、二五〇	七、五五〇、一二一	△ 二二一、八七一
諸支出金	六三、八六七	六五、五五四	△ 一、六八七
補助費	二七八、八四九	二七八、九九四	△ 一四五
植物檢查所	三四、〇三一	三四、六九六	△ 六六五
牛疫血清製造所	八四、三六二	八四、六三三	△ 二六一
蠶業試驗場	三四二、六八四	三四四、八三一	△ 二、一四七
花莚檢查所	五三、〇六九	五五、一五六	△ 二、〇八七
工業試驗所	一八六、六六〇	一九五、八九八	△ 九、三八二
畜產改良費	二一四、八二一	二一八、一〇三	△ 三、二八二
生絲檢查所	九七、三九三	九七、六五一	△ 二五八
水產講習所	一三三、三六五	一三四、〇九三	△ 七六八
農事試驗場	一七一、八四九	一七四、〇七六	△ 二、二七一
鑛務署	三五九、六四〇	三六二、四四五	△ 二、八〇五
森林費	四、六九三、八七一	四、七六〇、〇五六	△ 六六、一八五
特許局	一六六、二四二	一七七、六一八	△ 一一、三七六
營繕費	三五九、五三八	三五九、四七五	△ 三四四
道路港灣調查費	四〇、一九九	三〇、〇〇〇	△ 一〇、一九九
治水事業費	七、九五三、八六六	九、〇三一、〇〇〇	△ 一、〇七七、一〇四
補助費	一、三五八、九二八	一、五五〇、〇〇〇	△ 一九一、〇七二
內務省所管			
合計	二、五五〇、二七九	二四六、六〇〇	二、三〇三、六七九
臨時外國行諸費	一一、二六五	〇	一一、二六五
支那治水情況調查費	二〇、四六五	〇	二〇、四六五
災害費	四〇八、四七九	〇	四〇八、四七九
大正三年臨時事件費	一、九〇二、二八八	〇	一、九〇二、二八八
在外公館創立費	八、〇三三	五八、〇〇〇	△ 四九、九六七
東亞同文會事業費補助	〇	二〇、〇〇〇	△ 二〇、〇〇〇
在外公館移轉費	九、九六五	一〇、〇〇〇	△ 三五
營繕費	一八、七八二	一五八、六〇〇	三一、一八二
外務省所管			
臨時部			
經常部合計	四三七、八一一、四八二	四四四、二五七、五九八	△ 六、四三六、一一六
合計	七三、〇一七、六二五	七一、八〇〇、二四七	一、二一七、三八八
諸支出金	四九、九二七	五二、三〇七	△ 二、三八〇
年金及恩給	三六、一九四、一六五	三七、六二二、三八八	△ 一、四一八、二三三

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
農商務本省	五四七、五四〇	五六六、三二七	△ 一八、七八七
農商務省所管			
合計	九、七七四、八一一	九、八九九、四九八	△ 一二四、六八七
諸支出金	一、四七九	二、八四五	△ 一、三六六
古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〇
實業教育費	三一四、六七七	三一八、〇〇〇	△ 三、三二三
普通教育費	二、四九九、九六五	二、五〇〇、〇〇〇	△ 三五
大學及學校圖書館支出金	六、〇五一、二四五	六、〇四三、〇〇五	八、二四〇
醫術及藥劑師試驗費	六七、二七六	九五、二八二	△ 二八、〇〇六
緯度觀測所	九、五一五	九、五一八	△ 三
中央氣象臺	七六、七一五	七六、七一七	△ 二
文部本省	六〇三、九三七	七〇四、一三一	△ 一〇〇、一九四
文部省所管			
合計	二一、五三三、一九五	二一、二七七、三〇一	二五三、八九四
諸支出金	四八、〇五三	六一、〇八七	△ 一三、〇三四
監獄	六、〇九七、九六二	五、八一五、五九二	二八二、三七〇
裁判所	六、二五三、三九四	六、二六八、五二一	△ 一五、二七一
司法本省	一三三、七八四	一三四、一〇一	△ 三七
司法省所管			
合計	一二、五三三、一九五	一二、二七七、三〇一	二五三、八九四
諸支出金	四八、〇五三	六一、〇八七	△ 一三、〇三四
監獄	六、〇九七、九六二	五、八一五、五九二	二八二、三七〇
裁判所	六、二五三、三九四	六、二六八、五二一	△ 一五、二七一
司法本省	一三三、七八四	一三四、一〇一	△ 三七

第四編 歲計(中)

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
諸支出金	七五、九二九	五八、二六四	一七、八〇五
國庫豫備金	〇	六、〇〇〇、〇〇〇	△ 六、〇〇〇、〇〇〇
陸軍省所管			
合計	一七六、三九〇、〇五四	一八八、二三九、九一八	△ 一一、七四九、八六四
臺灣關稅諸收入繰入(元內務省所管)	一、四二三、三五一	一、四二三、三五一	〇
陸軍本省	四〇二、八五二	三九六、二六五	六、五八七
軍事費	八二、三四七、九一四	七六、七八九、二一一	五、五八五、七〇三
憲兵費	三、三六六、四六六	三、三九九、八五三	△ 三三、三八七
兵費	三、三六六、四六六	三、三九九、八五三	△ 三三、三八七
院兵	三七、六〇八	二九、一九三	八、四一五
馬政局	一、五八二、〇九七	一、八一四、二一七	△ 二三二、一二〇
靖國神社寄付金	七、五五〇	七、五五〇	〇
諸支出金	五七二、〇三九	四二八、七四一	一四三、二九八
合計	八八、三四三、五二八	八二、八六五、〇三〇	五、四七八、四九八
海軍本省	三一三、一四二	三三三、〇五九	△ 一八、九一七
軍事費	四八、一九九、五三一	四九、四九三、七五〇	△ 一、二九四、二一九
諸支出金	一六、三〇八	二三、九一一	△ 六、六〇三
合計	四八、五二八、九八二	四九、八四八、七二〇	△ 一、三一九、七三八
海軍省所管			
農商務本省	五四七、五四〇	五六六、三二七	△ 一八、七八七
農商務省所管			
合計	九、七七四、八一一	九、八九九、四九八	△ 一二四、六八七
諸支出金	一、四七九	二、八四五	△ 一、三六六
古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〇
實業教育費	三一四、六七七	三一八、〇〇〇	△ 三、三二三
普通教育費	二、四九九、九六五	二、五〇〇、〇〇〇	△ 三五
大學及學校圖書館支出金	六、〇五一、二四五	六、〇四三、〇〇五	八、二四〇
醫術及藥劑師試驗費	六七、二七六	九五、二八二	△ 二八、〇〇六
緯度觀測所	九、五一五	九、五一八	△ 三
中央氣象臺	七六、七一五	七六、七一七	△ 二
文部本省	六〇三、九三七	七〇四、一三一	△ 一〇〇、一九四
文部省所管			
合計	二一、五三三、一九五	二一、二七七、三〇一	二五三、八九四
諸支出金	四八、〇五三	六一、〇八七	△ 一三、〇三四
監獄	六、〇九七、九六二	五、八一五、五九二	二八二、三七〇
裁判所	六、二五三、三九四	六、二六八、五二一	△ 一五、二七一
司法本省	一三三、七八四	一三四、一〇一	△ 三七
司法省所管			
合計	一二、五三三、一九五	一二、二七七、三〇一	二五三、八九四
諸支出金	四八、〇五三	六一、〇八七	△ 一三、〇三四
監獄	六、〇九七、九六二	五、八一五、五九二	二八二、三七〇
裁判所	六、二五三、三九四	六、二六八、五二一	△ 一五、二七一
司法本省	一三三、七八四	一三四、一〇一	△ 三七

科目	決算額	予算額	比較増(△)	摘要
歳入	円	円	円	
官業収入	三、六三〇	三、五〇〇	一三〇	
官有財産収入	四四、三五〇	四四、三五〇		
雑収入	三、六三〇	三、五〇〇	一三〇	
歳入合計	五二、二四〇	五二、三五〇	△一一〇	
歳出				
陸軍省所管				
地方費	三、五〇〇	三、五〇〇		
臨時費	四八、七四〇	四八、八五〇	△一一〇	
歳出合計	五二、二四〇	五二、三五〇	△一一〇	

科目	決算額	予算額	比較増減(△)	摘要
歳入	円	円	円	
官業収入	三、六三〇	三、五〇〇	一三〇	
官有財産収入	四四、三五〇	四四、三五〇		
雑収入	三、六三〇	三、五〇〇	一三〇	
歳入合計	五二、二四〇	五二、三五〇	△一一〇	
歳出				
陸軍省所管				
地方費	三、五〇〇	三、五〇〇		
臨時費	四八、七四〇	四八、八五〇	△一一〇	
歳出合計	五二、二四〇	五二、三五〇	△一一〇	

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
兵器製造所新設費	八六七、一四七円	二、〇〇〇、〇〇〇円	△一、一三二、八五三円
大正三年臨時事件費	一四、四二一、三〇一	〇	一四、四二一、三〇一
馬匹去勢諸費	六六、一一六	〇	六六、一一六
臨時滿洲派遣隊費	四、〇七〇	〇	四、〇七〇
傳染病豫防費	四、一〇〇	〇	四、一〇〇
合計	三五、〇九三、〇四六	二〇、六八五、八九五	一四、四〇七、一五一
海軍省所管			
營繕費	五六、二四四	一〇九、四四四	△五三、二〇〇
鎭海軍港第一期設備費	四三三、五三七	四〇〇、〇〇〇	三三、五三七
受託造修費	七七四、七五二	七七五、二八三	△五三一
臨時海軍建築部費	四二、九六六	四四、八七〇	△一、九〇四
拂下圖誌製造費	四七、〇〇〇	二六、〇〇〇	二一、〇〇〇
軍備補充費	七八、四一一、六二四	六〇、八〇六、七九二	一七、六〇四、八三二
艦艇火藥庫冷却裝置費	一〇〇、〇九六	二〇五、〇〇〇	△一〇四、九〇四
航空隊設備費	三八、五三六	六〇〇、二八九	△五六一、七五三
臨時兵器補充費	一、八二二、七一九	四、四〇〇、五四二	△二、五七七、八二三
臨時艦艇修理費	一、一四五、一七九	一、五〇八、一一三	△三六二、九三三
艦船救難及復舊費	二三八、七一八	一九一、〇〇〇	四七、七一八
大正三年臨時事件費	三〇、二三七、五九二	〇	三〇、二三七、五九二
外國派遣軍艦費	一八〇、七六六円	〇円	一八〇、七六六円
一時賜金	二、八四八	〇	二、八四八
災害費	三八四、五一八	〇	三八四、五一八
合計	一二三、九〇六、一〇一	六九、〇六七、三三一	五四、八三八、七七〇
司法省所管			
法律調査費	二八、三三〇	二八、三三五	△五
營繕費	八七三、五四四	一、一〇三、三三九	△二二九、七九五
衆議院議員臨時總選擧檢察費	七五、七七一	〇	七五、七七一
大正三年臨時事件費	三四〇、四四一	〇	三四〇、四四一
災害費	一五九、三一六	〇	一五九、三一六
合計	一、四七七、三九四	一、一三〇、六六四	三四六、七三〇
文部省所管			
營繕費	七一三、六八三	七八一、五三五	△六七、八五二
第八高等工業學校創立費	四一、二四七	九七、九五六	△五六、七〇九
大學及學校圖書館臨時支出金	八一七、七八九	八一七、七八九	〇
臨時調査費	一四、〇八八	二一、四二五	△七、三三七
臨時教員養成所費	一三、八八一	一三、八八四	△三
臨時維新史料編纂事務局費	四三、六二一	四三、七三九	△一一八
縣債利子補給	九、五四〇	一三、九七九	△四、四三九

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
臨時試驗費	三、六四七	一九、四〇〇	△一五、七五三
高等工業學校創立費	三七、〇〇六	一六七、四〇〇	△一三〇、三九四
補助費	二〇五、二〇〇	二〇五、二〇〇	〇
大正三年臨時事件費	二五三、〇八六	〇	二五三、〇八六
災害費	一二九、九二八	〇	一二九、九二八
合計	二、二八一、七一九	二、一八一、三〇七	一〇〇、四一二
農商務省所管			
產業獎勵費	一、六四六、九九五	一、五九五、三二一	五一、六七四
製鐵所擴張費	九、八八〇、一六六	八、九一八、一六〇	九六二、〇〇六
營繕費	四二〇、八七五	三三七、八七三	八三、〇〇二
國有林野經營費	二、九八九、三二六	二、九九〇、六六三	△一、三三七
治水事業費	六〇七、二六三	七〇三、六〇〇	△九六、三三七
巴奈馬太平洋萬國博覽會費	〇	二〇、〇〇〇	△二〇、〇〇〇
獸疫及害蟲費	八二、八六三	九〇、四〇〇	△七、五三七
膃肭獸保護費	四九、〇七七	五五、五一五	△六、四三八
漁業免許處分費	三、六六四	三、六八〇	△一六
臨時調査費	七五、六二八	九三、四〇六	△一七、七七八
特許局分類整理費	一三、二八一	一三、五六〇	△二七九
米價調節調査會費	〇	四〇、八六八	△四〇、八六八
大正三年臨時事件費	一七、二八一、六八〇	〇	一七、二八一、六八〇
災害費	三九二、一八二	〇	三九二、一八二
合計	三三、四四三、〇〇七	一四、八六三、〇四六	一八、五七九、九六一
遞信省所管			
補助費	一一、一四七、五五七	一三、六四六、二二六	△二、四九八、六六九
電信電話營繕費	八七三、五〇五	九〇一、八七九	△二八、三七四
航路標識營繕費	一一四、七一九	一四五、七七五	△三一、〇五六
營繕費	三五三、六一〇	四二六、四五二	△七二、八四二
電話交換擴張費	七、八二九、二六〇	七、五〇〇、〇〇〇	三二九、二六〇
船舶積量改測費	三四、六二三	三五、五二三	△九〇〇
電氣器具機械設備費	三八〇	五〇、〇〇〇	△四九、六二〇
電氣用器機材料受託試驗設備費	三四、三六九	六九、一二八	△三四、七五九
船用品檢査所設置費	三〇、九七一	一五三、八九〇	△一二二、九一九
簡易生命保險特別會計繰入	〇	二〇九、一九六	△二〇九、一九六
災害費	六六三、八九二	一〇六、四五九	五五七、四三三
大正三年臨時事件費	三、三三四、九二五	〇	三、三三四、九二五
合計	二四、四一七、八一六	二三、一九九、五二八	一、二一八、二八八
臨時部合計	二九七、二〇三、七六九	三三五、九一三、八三七	△三八、七一〇、〇六八
歲出總計	七三五、〇二四、二五一	七八〇、一七〇、四三五	△四五、一四六、一八四

右大正六年度歲入歲出總決算は、同年度各特別會計決算及會計檢査院の檢査報告と共に、大正九年

一月三十一日第四十二回帝國議會に提出せられしが、同議會に於ては衆議院解散の爲め之が審査を行ふこと能はざりしを以て、同年七月召集の第四十三回帝國議會に於て之が審査を行ふこととなり衆議院決算委員會に於ては審議の末、一般會計歳入に於て租稅の徴收不足に屬するもの二十六件、租稅の徴收過に屬するもの十一件、租稅を收入濟額に編入せざりしもの二件、其の他不當なるもの四件合計四十三件、同歳出に於て虚構の事實に對し支出を爲したるもの六件、物件を購入するに當り請託の爲め國庫に損失を及ぼしたるもの一件、合計七件を不當なるものと議決し、大正九年七月二十八日本會議に於て豫算目的外の支出を爲したるもの二件を不法なるものと議決し、又一般會計歳出に於て採決の結果多數を以て右委員會議決の通可決確定したり。

貴族院決算委員會に於ては審議の末、一般會計歳出に於て十件は政府の措置穩當を缺くものと認め、又一般會計歳入に於て五十四件、歳出に於て四十二件、合計九十六件は政府に對し將來の注意を促すべきものと認め、其の他は總て異議なきものと議決し、大正九年七月二十八日本會議に於て採決の結果、多數を以て右委員會議決の通可決確定したり。

第十七節　大正七年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

大正七年度豫算の編成に當りては、政府は時局に鑑み國防の充實を第一義として、能ふ限り之に必要なる計畫に應ずべき經費を計上すると共に、又時局に伴ひ將來に向つて國運の進展に資すべき施設、就中産業の發達、教育の振興、交通機關の整備等に必要なる經費を計上し、其の他一般普通の經費に就ては努めて之を節減するの方針を採りたり。

右方針に基き編成せられたる大正七年度歳入歳出總豫算の數額は、歳入歳出各七億二千百九十四萬千四百六圓にして、內歳入經常部六億四千五百五十七萬五千五百十六圓、同臨時部七千六百三十六萬五千八百九十圓、歳出經常部四億八千百萬六千五百二十二圓、同臨時部二億四千九十三萬四千八百八十六圓なり。今之を前年度豫算額に比較すれば左の如し。

區分		大正七年度豫算額	大正六年度豫算額 施行豫算額	大正六年度豫算額 實行豫算額	比較增減（△） 施行豫算額に比し	比較增減（△） 實行豫算額に比し
歳入	經常部	六四五、五七五、五一六円	五四九、五八五、四二三円	五五七、三九九、六八四円	九五、九九〇、一〇四円	八八、一九五、八三三円
	臨時部	七六、三六五、八九〇	一五五、九〇八、三四一	一七七、九〇三、三〇七	七九、五四二、四五一	一〇一、五三八、四六七
	合計	七二一、九四一、四〇六	七〇五、四五三、七五三	七三五、四九三、七五三	一六、四八七、六五三	一三、五五二、六五三
歳出	經常部	四八一、〇〇六、五一〇	四三九、〇五三、〇一八	四三八、〇六三、六〇一	四二、四八三、四九二	四三、九四三、九〇九
	臨時部	二四〇、九三四、八八六	三五、二一一、六八八	二七、二四七、四一〇	七四、二九六、八〇二	三六、三三、五三四
	合計	七二一、九四一、四〇六	七〇五、四五三、七五三	七三五、四九三、七五三	一六、四八七、六五三	一三、五五二、六五三

（備考）一、前年度豫算額中施行豫算額は本豫算額及第三十九議會追加額の合計、實行豫算額は大正六年十一月末日現在額なり。

二、前年度豫算額中經常部と臨時部との間に組替揭記せるものあるを以て、該年度決定金額と符合せず。

大正七年度歳入豫算中前年度に比して増加したるものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

經常部

所得税の増加	三三、〇二三、九〇九円
營業税の増加	六、一一六、三九一
鑛業税の増加	九〇一、四六五
酒税の増加	二、九七三、四二六
清涼飲料税	七七九、〇九八
砂糖消費税の増加	一、七一五、〇二四
織物消費税の増加	二、六七二、五六六
取引所税の増加	三、七七五、二一五
關税の増加	三、二一四、〇四五
印紙收入の増加	八、七四四、一五九
郵便電信及電話收入の増加	二九、五七三、五五五
森林收入の増加	一、五〇九、二四四

大正七年度歳出豫算中新規要求に係るもの及前年度に比し増額したるものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

所管省	事項	金額 經常部 円	金額 臨時部 円	金額 計 円	備考
外務省	成都總領事館外五領事館新設に關する經費	三二、一五七	〇	三二、一五七	
	在外公館職員增加に關する經費	四〇三、七二七	〇	四〇三、七二七	
	公使館及領事館創立費	〇	一〇七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	
	在哈爾賓總領事館新築費	〇	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	
	亞爾然丁公使館新設に關する經費	一〇六、五二〇	〇	一〇六、五二〇	總額二一〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。
内務省	官國幣社經費の増加	一三〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	三一〇、〇〇〇	
	島司郡長及府縣判任官等俸給平均額の增加	四一七、一〇〇	四一七、一〇〇	八三四、二〇〇	
	警察費連帶支辨金の増加	五七〇、三三一	五七〇、三三一	一、一四一、六六二	
	荒川上流外三川改修工事繰上に伴ふ年割額の増加	〇	三、〇三一、二四〇	三、〇三一、二四〇	
	千曲川改修費	〇	五五五、〇〇〇	五五五、〇〇〇	
	多摩川改修費	〇	四三五、〇〇〇	四三五、〇〇〇	總額九、〇五〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降十箇年度間の繼續費なり。
					總額五、八八〇、〇〇〇圓にして、同上。
大藏省	預金利子及手數料の増加	五、九五六、五三五	〇	五、九五六、五三五	
	砂糖消費税法及織物消費税法改正竝清涼飲料税法制定に伴ふ經費	三六四、四三〇	〇	三六四、四三〇	
	税務判任官俸給平均額の増加	一四七、六〇〇	〇	一四七、六〇〇	
	市町村交付金の増加	六七九、一六二	〇	六七九、一六二	
	國庫豫備金の増加	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
	門司稅關設備費	〇	三五三、〇〇〇	三五三、〇〇〇	總額六一三、〇〇〇圓にして、大正八年度に亙る繼續費なり。
	議院建築費	〇	三一〇、〇〇〇	三一〇、〇〇〇	總額七、五〇〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降十箇年度間の繼續費なり。
	專賣局東京試驗場新營費	〇	二三二、九三二	二三二、九三二	
	鹽專賣用倉庫新營費	〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	
	田畑地價調査費	〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	總額九三五、四〇一圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。

所管省	事項	金額 經常部	金額 臨時部	金額 計	備考
	森林資金返償	0円	二、一九三、八三〇円	二、一九三、八三〇円	
	朝鮮總督府特別會計繰入	0	六五〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	
陸軍省	幹部要員補足の爲要する經費	二三六、〇〇〇	0	二三六、〇〇〇	
	補充兵教育召集の爲要する經費	一〇八、〇〇〇	0	一〇八、〇〇〇	
	朝鮮常設師團豫定年割額の增加	六〇七、三九六	0	六〇七、三九六	
	軍備充實に關する經費	八六六、〇九三	七、九八八、七三二	八、八五四、八二五	臨時部總額五五、二六三、八五八圓にして、大正七年度以降十八箇年度間の繼續費なり。
	精米精麥及馬糧の價格騰貴に依る經費の增加	一、一六一、三六五	0	一、一六一、三六五	
	兵器庫及工場整備費	0	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	
	軍用氣球研究費の增加	0	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	
	特種兵器製造及試驗費	0	二九七、八六四	二九七、八六四	總額一、五〇〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降五箇年度間の繼續費なり。
海軍省	新艦船に要する經費	三、五〇〇、〇〇〇	0	三、五〇〇、〇〇〇	
	艦船行動用需品費の增加	四〇〇、〇〇〇	0	四〇〇、〇〇〇	
	航空隊增設に關する經費	五八〇、七二四	0	五八〇、七二四	
	軍艦製造費の追加	0	二五、四四八、五一〇	二五、四四八、五一〇	總額三〇〇、五四八、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、大正七年度以降六箇年度間に支出するものなり。
	水陸設備費の追加	0	六、五九三、五六八	六、五九三、五六八	總額二九、二一七、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、同上。
	準備軍需品費	0	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	造船造兵及修理費既定額三、四四七、〇〇〇圓を組替へ合併したる總額四、六四七、〇〇〇圓にして、大正七年度以降二箇年度間の繼續費なり。
	航空隊設備費の追加	0	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	總額五、八五〇、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、大正七年度以降五箇年度間に支出するものなり。

所管省	事項	金額 經常部	金額 臨時部	金額 計	備考
	臺灣豫備油田試掘費	0	三二六、六三八	三二六、六三八	總額三九九、九六八圓にして、大正七年度以降二箇年度間の繼續費なり。
	火藥廠設備費	0	二、四七四、〇四九	二、四七四、〇四九	總額二、六七九、五〇〇圓にして、同上。
	無線電信所設備費	0	三九八、七六五	三九八、七六五	總額一、一九六、二九五圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。
司法省	地方裁判所支部設置及權限擴張に關する經費	一三〇、六九七	0	一三〇、六九七	
	區裁判所設置に關する經費	二〇六、五七三	0	二〇六、五七三	
	判事檢事及書記俸給平均額の增加	四五七、七六六	0	四五七、七六六	
	宮城控訴院仙臺地方裁判所區裁判所建築費	0	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	總額四九〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降四箇年度間の繼續費なり。
	富山分監建築費	0	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	總額七〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降二箇年度間の繼續費なり。
文部省	航空研究所開始に伴ふ政府支出金	一一四、二六九	二四〇、〇〇〇	三五四、二六九	臨時部は總額二九四、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、大正七年度以降二箇年度間に支出するものなり。
	東京京都兩帝國大學政府支出金增加	三五〇、〇〇〇	0	三五〇、〇〇〇	
	市町村立小學校教員俸給分擔金	10,000,000	0	10,000,000	
	中央氣象臺移轉改築費	0	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	總額二三六、〇〇〇圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。
	第十一高等工業學校創立費	0	一三五、〇〇〇	一三五、〇〇〇	總額七二〇、〇〇〇圓にして、大正七年度以降四箇年度間の繼續費なり。
	第三高等農業學校創立費	0	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	總額六六〇、四〇〇圓にして、同上。
	第六高等商業學校創立費	0	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	總額六四二、〇〇〇圓にして、同上。
	東京貿易植民語學校創立費	0	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	總額五一二、五〇〇圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。
	第九高等學校創立費	0	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	總額五五六、二〇〇圓にして、大正七年度以降四箇年度間の繼續費なり。
	第十高等學校創立費	0	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	同上
	第十一高等學校創立費	0	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	同上
	第十二高等學校創立費	0	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	同上

所管省	事項	金額 経常部	金額 臨時部	金額 計	備考
		円	円	円	
文部省	藥學專門學校創立費	〇	九六、〇〇〇	九六、〇〇〇	總額四四二、〇〇〇圓にして、大正七年度以降三箇年度間の繼續費なり。
農商務省	大阪工業試驗所設置に關する經費	八〇、五七三	七〇〇、〇〇〇	七八〇、五七三	
	蠶病豫防費補助の增加	二六九、九〇三	〇	二六九、九〇三	
	土地利用に關する經費	〇	一二七、九四一	一二七、九四一	
	緬羊飼育奬勵に關する經費	〇	三〇三、六五八	三〇三、六五八	
	福島縣小名濱外五漁港修築費補助	〇	二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	
	製鐵所擴張費の追加	〇	二、五八一、〇〇〇	二、五八一、〇〇〇	總額二七、四七七、〇〇〇圓を既定繼續費に追加し、大正七年度以降三箇年度間に支出するものなり。
	窒素研究所設置に關する經費	〇	二六三、五四〇	二六三、五四〇	
遞信省	海外信支拂金の增加	四、〇一〇、五九八	〇	四、〇一〇、五九八	
	電話交換擴張に伴ふ維持費	九七〇、六九〇	〇	九七〇、六九〇	
	通信事業の增進及擴張に伴ふ經費	五五五、〇六三	〇	五五五、〇六三	
	郵便電信等現業事務整備に關する經費	五三八、六〇五	〇	五三八、六〇五	
	恩給の增加	一、三二八、六四六	〇	一、三二八、六四六	
	東京京城間電信線路增設費	〇	三三四、八六四	三三四、八六四	總額七一二、七九〇圓にして、大正七年度以降二箇年度間の繼續費なり。
	内地各地間電信線路增設費	〇	七五一、九七七	七五一、九七七	總額八三〇、六五七圓にして、大正七年度以降五箇年度間の繼續費なり。
	電氣工業用發電水力調査費	〇	一九五、五四四	一九五、五四四	總額七八一、二八〇圓にして、大正七年度以降二箇年度間の繼續費なり。
	無線電信局設置費	〇	一七一、二八〇	一七一、二八〇	

大正七年度に於て新に要求に係る繼續費は一億九十七萬五千六百七十圓、既定繼續費に對し新に追加を要するもの三億六千四百八十四萬四千百二十五圓、既定繼續費に對し減額を要するもの三百四十四萬七千圓にして、增減差引增加額四億六千二百三十七萬二千七百九十五圓を大正七年度以降の既定繼續費總額六億二千四百十二萬五十四圓に加ふるときは、大正七年度以降の繼續費の總額は十億八千六百四十九萬二千八百四十九圓となるの計算なり。

大正七年度に於て國庫豫備金は第一豫備金三百萬圓、第二豫備金五百萬圓なり。

大正七年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は五千萬圓なり。

第二項　豫算の成立及公布

大正七年度歳入歳出總豫算案は大正七年一月二十一日第四十回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計豫算案と共に衆議院に提出せられ、翌二十二日大藏大臣勝田主計は右豫算案竝に財政計畫に關し、衆議院に於て左の演說を爲したり。

『本大臣は玆に大正七年度歳計豫算を紹介し、併せて政府の財政經濟に關する施設の一班に就き所見を開陳するの光榮を有す。抑帝國政府の財政經濟に關する大體方針に就ては既に現内閣成立以來屢宣明せる所にして、玆に之を繰返すの必要なしと思考するも、今や内外の情勢に鑑み帝國の施設方策にして急施を要するもの頗る多く、殊に國防充實の如きは一日も忽にすべからざる所なりとす。依て大正七年度豫算の編製に當りて、政府は國防の充實に就ては出來得る限り必要なる計畫に應ずべき經費を計上し、次に時局に伴ひ將來に向て國運の進展に資すべき産業の發達教育の振興等に必要なる經費を計上し、其の他一般普通の經費に就ては努めて之を節

約するの方針を採りたり。以上の方針に依り編製したる大正七年度總豫算に計上する所の歳入は、經常部六億四千五百餘萬圓、臨時部七千六百餘萬圓、合計七億二千百餘萬圓にして、其の歳出は經常部四億八千百餘萬圓、臨時部二億四千餘萬圓、合計七億二千百餘萬圓にして、其の歳入歳出を編製するに當り、歳出合計七億二千百餘萬圓に對する既定の歳入は其の額合計六億八千餘萬圓にして、差引四千百餘萬圓の歳入不足を示したり。右歳入の不足を補塡せんが爲に前年度剰餘金中より二千六百六十餘萬圓を繰入れ、尙差引不足額千四百七十餘萬圓は、國防計畫遂行上後年度に亙り必要なる經費の恒久的財源を調達するの目的を以て、租稅收入・專賣局益金及通信收入に於て增收の計畫を樹て、其の大正七年度の歳入を以て之を補塡することとせり。大正七年度總豫算中歳出に就き其の主要の點に關し概言すれば、國防計畫に關しては國家自衞の保障を完うするの趣旨を以て、海軍軍備の補充を圖るの急務なるを惟ひ、大正七年度に於て軍艦製造費に二千五百四十四萬餘圓を、同年度以降大正十二年度に亙る六箇年度に於て總額三億五十四萬餘圓を追加要求し、既定豫算額と合して大正七年度以降總額五億八千四百餘萬圓を支出するの計畫を樹てたり。今回の計畫は歐洲戰爭の經驗に鑑み艦型其の他に變更を加ふるの要あるのみならず、更に艦艇增加の必要を認め、又物價の騰貴は既定經費を以てしては本年度に於て豫定の工程を遂げ難き虞あるを以て、是等に要する經費を追加計上したり。其の他大正七年度に於て水陸設備費の追加六百五十九萬餘圓、航空隊設備費の追加百萬圓、火藥廠設備費二百四十七萬餘圓、準備軍需品費・無線電信所設備費・臺灣豫備油田試掘費等を計上したり。陸軍軍備充實に關しては現在の兵力を充實するを以て主眼と爲し、大正七年度以降六箇年度を以て大體其の目的を達するの計畫にして、尙定規豫後備兵の完成には更に十二箇年を要すべく、從て本計畫は十八箇年度に亙り、其の臨時費總額は五千五百二十六萬餘圓、同期間に要する經常費總額一億二千八百七十三萬餘圓にして、經常費平年度分八百六十萬餘圓なり。而して大正七年度に於て經常臨時費合計八百八十五萬圓を計上せり。其の他幹部要員補足の爲め要する經費・特種兵器製造及試驗費・軍用氣球研究費の增加・自動車奬勵費等を計上したり。國防充實に關する經費の外、產業の發達を圖り我經濟的基礎の確立を期するの施設として、製鐵所擴張費の追加千百五十八萬餘圓、大阪工業試驗所設置費・綿羊飼育奬勵費・臨時窒素研究所設置費・遠洋漁業奬勵費の增加・土地利用費・漁港修築奬勵費・農業倉庫建設奬勵金の增加・絹業試驗所設置費・海外商品陳列館設置費・地方裁判所支部權限擴張に關する經費・區裁判所設置に關する市町村立小學校教員俸給は其の一部を國庫より支出するを以て機宜に適するものなりと認めたり。教育の振興に關しては之が爲め要する經費千萬圓を計上したり。其の他福岡農科大學・第十一高等工業學校・第三高等農業學校・第六高等商業學校・東京貿易植民語學校・第九乃至第十二高等學校・藥學專門學校等の創立、東北帝國大學機械工學科の設置・航空研究所の創設・科學研究奬勵費の支出等必要なる經費を計上したり。以上の外大正七年度豫算に計上せる歳出の重なるものは、諸河川改修工事繰上等に伴ふ年割額の增加・預金利子及利子拂手數料の增加・國庫豫備金の增加・議院建築費・田畑地價調査費・國勢調査費・官有財產調査費・地方裁判所支部權限擴張に關する經費・區裁判所設置に關する經費・海外信支拂金の增加・恩給の增加・內地各地間及東京京城間電信線路增設費・無線電信局設置費・電氣工業用發電水力調査費・商船學校擴張費等なりとす。

國防計畫の實行に當りては、其の經費の性質上後年度に亙りて恒久的財源を確保するの必要上既に述べたるが如き增收計畫の概要を述ぶれば、第一租稅に就ては之が增收計畫を實行するに當りて國民負擔の實狀を査覈し、其の餘力ありと認むるものに對しては之を增徵し、其の苛重なりと認むるものに對しては之を緩和し、尙現行租稅との權衡上必要ありと認むるものに就ては新に課稅を爲し、以て負擔の權衡宜しきを制し、特に時局の趨勢に鑑み小所得者の負擔を輕減し、主として下層社會の負擔する租稅を廢減し、國民生活の安固と産業の發展とを期するを以て要諦と爲せり。右の趣旨に依り所得稅・酒稅を增徵し、砂糖消費稅・繊物消費稅に改正を施して、砂糖消費稅中飴を課稅物件に加へ、又メリヤス及フエルトに繊物消費稅を課し、又清涼飲料稅を新設し、自家用醬油稅の制限石數を改正し、之と同時に一方通行稅及石油消費稅を全廢することとせり。所得稅に就ては本稅は比較的彈力に富み、特に中級以上に於て負擔の餘裕ありと認めたるを以て、第一種の所得に在りては二割、第二種の所得中社債に在りては稅率千分の十の引上を爲したり。又第三種の所得に在りては稅率に於て約二割の引上を爲すこととせり。然れども一方小所得者の負擔を輕減するの趣旨を以て、所得金額五百圓未滿のものを免稅し、且所得金額千圓以下のものの特別控除金を增加することとせるを以て、約一割三分の引上に止まれり。尙從來累進率の最高階級は法人に在りては二十萬圓、個人に在りては十萬圓なりしを、法人に在りては三十萬圓に、個人に在りては二十萬圓に引上ぐることとせり。酒稅に就ては酒造稅に於て現行一石の稅金二十圓を二十三圓に引上げ、一般に含有酒精分に基く稅率の種類を改訂し大體約一割五分の增率を行ひ、清酒貯藏減量に對する免稅を認め、現行法に於ける滓引減量百分の二と合せて百分の五を控除することとし、又酒精及酒精含有飮料稅の稅率を幾分引上げ、麥酒稅現行一石の稅金十圓を十二圓に引上ぐることとせり。繊物消費稅に就ては消費の趨勢に鑑み綿繊物の負擔を成る可く輕減し、絹繊物の負擔を幾分加重し、以て課稅の衡平を計る爲め、絹綿に依り其の稅率を區別し、現行稅率從價一割に對して綿繊物は二分を引下げて八分とし、絹繊物は三分を引上げて一割三分とし、其の他の繊物は現行稅率を据置くこととし、尙繊物と同一用途に使用せらるるメリヤス及フエルトを繊物と看做して之に繊物消費稅を課し、以て課稅の均衡を計り、且徵稅事務の補助を爲す繊物組合に對して交付金を下付することとせり。砂糖消費稅に就ては新に飴を課稅物件に加へ、毎百斤二圓の課稅を爲すこととせり。蓋し近來製菓業の發達に伴ひ砂糖の代用品として漸次飴の消費增加するの傾向顯著なるものあるに顧み、權衡上課稅の必要を認めたるに因るものなり。清涼飮料稅に就ては炭酸瓦斯を含有する飮料に對し一石に付五圓の割合を以て課稅することとせり。蓋し社會の進運に伴ひ清涼飮料の需要著しく增加し、酒類殊に麥酒と併せ消費せらるるの狀況なるを以て、其の權衡上補充稅として之を賦課するの必要を認めたり。通行稅に就ては本稅が主として短距離の通行に賦課せられ、殊に都會地に於ける下層階級の負擔に歸するもの殆んど其の大部分を占むるの狀態なるを以て、是等階級の負擔を輕減するの必要を認め本稅を廢止することとせり。或は長距離間の通行稅は之を存置するを以て可とするが如しと雖も、之を實際に徵するに五十哩未滿の通行稅は本稅收入の約八割七分を占め、長距離間の通行稅は國稅として之を存置するの價値極めて微々たるものと謂ふべく、寧ろ之を全廢するに如かずと信じ、此措置に出たるものなり。石

油消費稅に就ては今日石油消費者は殆んど農家又は山村僻地に住する者に屬し、而も近來電氣瓦斯事業の發達に伴ひ石油の消費減少し、本稅の收入は年を逐うて減少しつつあるの情勢なるのみならず、一方に於て電氣又は瓦斯等の課稅物件たらざるが如き狀態存する以上、是等との權衡上之を全廢することとせり。尙自家用醬油稅に就ては現行制限石數五石以下を改めて一石以下と爲し、且納期を一回に減ずる等の改正を加へたり。以上各稅の增減を通じ結局其の增收總額は大正七年度に於て三百四十三萬餘圓、平年度に於て千七百二十餘萬圓に上るの見込なり。

第二專賣收入に就ては近來物價騰貴に因り專賣事業に要する經費の增加を來し、之が爲め專賣局益金の收入減少すべきを以て、之を補塡すると共に一般財政上の必要に應じ財源を得る目的を以て、製造煙草の各品種を通じて其の定價に對し平均約一割七分の引上を行へり。之に依り大正七年度分四百十餘萬圓、平年度分八百三十餘萬圓の增收を得べき見込なり。第三通信收入に就ては一般經濟の發達に鑑み、電報料金は一音信に付五錢の引上を爲し、小包料金は普通小包二錢、書留小包三錢の引上を爲し、信書料金は一錢、葉書料金は五厘の引上を爲すこととせり。右引上に依て生ずべき收入は大正七年度分七百十餘萬圓、平年度分千百四十餘萬圓なり。右租稅竝官業收入の增收計畫實行の結果、大正七年度に於ては約千四百七十餘萬圓、平年度に於ては三千七百餘萬圓の增收を見るを得べし。以上增收計畫に要する經費を支辨する爲め、大正八年度以降國債償還額五千萬圓の內二千萬圓を國防充實の財源に供し、以て將來に亙り帝國財政の鞏固なる基礎を支持する所あらんとす。

臨時事件に關する經費に就ては臨時軍事費特別會計に於て歲出三千三百七十餘萬圓を計上し

官有物拂下代及雜收入百七十五萬餘圓、借入金及公債募集金三千百九十五萬餘圓を以て、之が財源に充つるの計畫なり。又一般會計に於て、大正七年度に於て臨時事件豫備費八千四百萬圓を計上せり。右豫備費中には判任官以下臨時手當千七百餘萬圓、物價騰貴に基く一般經費の增加額千七百萬餘圓等、特殊の經費を包含せり。而して之が財源としては山東鐵道收入、青島事業收入、臨時受託造修收入及戰時海上再保險收入二千三百五十餘萬圓、借入金二千二百萬圓及前年度繰入金千九百八十餘萬圓を以て充つるの外、時局の影響に依り增加したる利得に對して戰時利得稅を課し、之を以て其財源に充つるの計畫を樹てたり。戰時利得稅は法人に在りては開戰以前二年內に終了したる各事業年度の平均所得額に對し、戰時事業年度の所得金額が超過する場合に於て、其の超過額が平時事業年度の所得金額の二割を超過するときは其の超過額を戰時利得金額とし、個人に在りては其の所得金額が大正二年以前二箇年平均所得金額を超過する場合に於て、其の超過額が平均所得金額の二割を超過するときは其の超過額を戰時利得金額とし、法人に在りては利得金額の二割、個人に在りては利得金額の一割五分の割合を以て課稅せんとするものなり。本稅は大正七年度より實施し、平和克復の年限り廢止するものにして、本稅に依り生ずべき純收入は大正七年度分千七百九十餘萬圓、平年度分三千二百餘萬圓なり。開戰以降大正七年度に亙り臨時事件に關する經費は四億四千四千七百餘萬圓に達せり。而して時局の前途を達觀するに戰局は愈〻紛糾して其の終熄の時期未だ逆睹すべからず。之が推移に伴ひ更に之に對應すべき施設を要するに至るなきを保せず。依て財政の按排、經濟の調節等に深く考慮を盡すべきは論を俟たざるのみならず、豫め軍國の急に應ぜんが爲め特に彈力ある財政計畫を樹つ

るの必要を認めしなり。

次に政府の公債發行竝に償還計畫に付一言する所あらんとす。大正七年度に於て公債償還に充つべき金額は前年度と同じく之を五千萬圓とし、大正八年度以降に於ては之を三千萬圓に止むるの計畫なり。惟ふに不生產的國債は成る可く之を多額に償還し、以て財政の安固を圖るの要ありと雖も、大正八年度以降に於ては既に述べたる如く、國防計畫の實行上增收計畫に依る歳入と共に其の財源に充つるの必要あるを以て、之を三千萬圓に減額するの已むを得ざるに至りしなり。大正七年度に於ける公債發行計畫に關聯して大正六年度に於ける公債募集の狀況に付一言せんに、大正六年度政府募債計畫は臨時國庫證券二億圓を合して總計三億六千百八十六萬圓にして、實行未了のものは帝國鐵道特別會計に於て預金部よりの借入金返償の爲め發行するもの二千萬圓、外國債借換の爲め發行するもの三千萬圓、臨時事件豫備費に充つるもの二千萬圓等なり。右の內前二者に就ては金融調節上市場の狀況に依り必ずしも之を募集せざる可からざるものにあらず。而して一方に於て豫算に計上したる募債計畫の大體は實行したる外、豫算と關聯せざるものにして佛國圓國庫債券・同大藏省證券・英國圓大藏省證券等の發行せられたる額既に一億五千六百萬圓の多きに達して、金融の調節を完うすることを得たるを以て、是等公債の發行は之を打切ることとせり。又後者に就ても今日に至る迄之が發行を必要とする事件發生せざるが爲め是亦募集の必要を認むるに至らざるを以て、大正六年度に於ける政府募債計畫は大體に於て完了せるものと謂ふを得べし。大正七年度に於ける募債に就ては既に述べたる臨時事件費支辨の爲めに要する公債以外に、電話事業公債千萬圓、鐵道公債二千五百萬圓、朝鮮

事業公債千三百二十餘萬圓、臺灣事業公債二百萬圓、樺太事業公債百餘萬圓等、各種事業公債合計約五千百餘萬圓に上るの見込なり。尙臨時國庫證券の發行に就ては大正六年法律第七號に依りて、二億圓を以て其の限度としたるが、時局に伴ふ我經濟の發展及國際經濟の狀況に鑑み、爲替資金の疏通を圖り、軍需品代金の決濟を圓滑ならしむるの要一層大なるべきを以て、更に三億圓を增加するの見込なり。

飜て我國の經濟狀態を通觀するに、對外貿易は時局の影響を受けて其の面目を一新し、時局發生以來昨年末に至る迄輸入總額二十六億二千三百餘萬圓、輸出總額三十七億九千九百餘萬圓、合計六十四億餘萬圓にして、差引十一億七千五百餘萬圓の輸出超過を見たり。之に貿易外の收入超過額約七億圓を合算すれば國際貸借上正貨收入超過額は約十八億圓に達し、內聯合與國に對する財政上直接間接の援助に供せられたるもの約十三億圓の巨額に上れり。而して又內地正貨の充實と產業の勃興とに資したる所頗る大にして、時局發生當時我が內地正貨準備は一億三千二百萬圓に過ぎざりしもの今や四億六千餘萬圓に達し、又昨年末迄に銀行會社の新設又は增加の計畫資本金額二十五億六千餘萬圓に上り、殊に昨年中に於て十五億六千餘萬圓の多きを見たり。我經濟の進展を期し其の鞏固なる基礎を樹立せんとするに當りては、金融機關を整備改善し、其の機能を發揮せしむるが如きは最急務なるを認む。此趣旨に基き曩に第三十九議會に於て各種の法案を提出し大體之が通過を見るに至りたるが、爾來政府は本問題に關して愼重攻究を重ね、畫策實行する所ありたり。就中對支金融機關たる朝鮮銀行をして貨幣統一竝に一般金融の機關整備の最急務なるに顧み、旣に滿蒙に對しては朝鮮銀行をして貨幣統一竝に一般金融の機關たらしめ、又東洋拓殖株式會社をして長期金

融の機關たらしめ、以て滿鮮の經濟的連絡を圖るの方策を實現するを得たり。又支那本土に關しては內地銀行團を一層活動せしむる外、有力なる日支實業家の設立せる中華滙業銀行の活動に依り日支經濟提携の實を擧げ、以て彼我經濟上の發展に資するを得る、蓋し多大なるべしと信ず。又南洋及南米等に對しては橫濱正金銀行及臺灣銀行をして貿易金融の圓滑を圖らしむると共に、海外興業株式會社をして移民金融の便を圖らしむることとせり。其の他日米及日露金融の連絡に就ても亦目下攻究の步を進めつつあり。右の外內地金融機關に就ては現內閣成立以來幾多の改善を加へたるが、本議會に於ても亦事業資金の供給を潤澤にし一般金融の圓滑を期せんが爲め、之に必要なる提案を爲すの見込なり。熟〻歐洲戰局の現狀を觀るに米國の參戰に因りて戰局は愈〻擴大し、露國の頽勢に因りて益〻混亂の狀を呈し、戰禍の那邊に推移するや寔に逆睹すべからず。此の秋に當り聯合與國に對して益〻財政上の援助を爲すと共に、健全なる產業の發達を圖り經濟自給の基礎を確立し、以て戰後經濟の變動に對して備へざるべからず。既に政府は時局に適應せる戰時經濟施設を攻究する所ありしが、尙銳意之が攻究を怠らず機宜の畫策を施し、以て違算なきを期せんとす。而も能く其の實效を擧げ所期を完うせんが爲めには國民各自の努力に俟たざるべからず。終に臨み本大臣は諸君が愼重審議速に協贊を與へられんことを望む。』

然るに衆議院に於ては曩に政府提出に係る增稅及廢減稅法案に就き審議の末、其の中通行稅法及石油消費稅法廢止法案・淸凉飮料稅法案・郵便法中改正法律案（通信料引上案）を否決し、其の他の法案に二三の修正を加へたる爲め、其の結果として豫算に異動を生ずるに至りしを以て、政府は二月九日議院法第三十條に依り、大正七年度歲入歲出總豫算竝に大正七年度各特別會計歲入歲出豫算中修正案を衆議院に提出したり。今之を原案に比較すれば左の如し。

款項	修正案	原案	比較增減（△）
歲入			
經常部			
租稅	三六八、三六七、七五八円	三六四、一三三、七二三円	四、二三四、〇三五円
通行稅	五、二五四、一七五	四三七、八四八	四、八一六、三二七
酒稅	九四、六二一、五七八	九四、六九二、五一七	▲七〇、九三九
淸凉飮料稅	〇	七七九、〇九八	△七七九、〇九八
砂糖消費稅	二六、五〇九、四七三	二七、〇五四、三八一	△五四四、九〇八
織物消費稅	一七、九二三、五四一	一七、八一六、六八一	一〇五、八六〇
石油消費稅	九四二、三九一	二三五、五九八	七〇六、七九三
官業及官有財產收入	一九九、七一五、一六六	二〇六、八八三、二一七	△七、一六八、〇五一
郵便電信及電話收入	八七、七四七、六〇三	九四、九一五、六五四	△七、一六八、〇五一
經常部合計	六四二、六四一、五〇〇	六四五、五七五、五一六	▲二、九三四、〇一六
臨時部			
前年度繰入金	二七、一八六、五七一	二六、六一六、九八五	五六九、五八六
前年度繰入金	二七、一八六、五七一	二六、六一六、九八五	五六九、五八六
臨時部合計	七六、九三五、四七六	七六、三六五、八九〇	五六九、五八六
歲入總計	七一九、五七六、九七六円	七二一、九四一、四〇六円	△二、三六四、四三〇円
歲出			
經常部			
大藏省所管			
大藏本省	一、〇一五、一一七	一、〇一七、八三九	△二、七二二
俸給	一九八、一七〇	一九九、三三〇	△一、一六〇
廳費及修繕費	四五、二三六	四五、六二六	△三九〇
雜給及雜費	一一一、九三一	一一三、一〇三	△一、一七二
內國稅徵收費	一〇、〇六八、九六四	一〇、三九二、五四八	△三二三、五八四
俸給	二、五六七、四四〇	二、六七六、〇九〇	△一〇八、六五〇
廳費及修繕費	三六二、〇一九	三七九、一九四	△一七、一七五
雜給及雜費	一、五九一、三八二	一、六七九、二九一	△八七、九〇九
織物組合交付金	〇	一〇九、八五〇	△一〇九、八五〇
諸拂戾及缺損補塡金	八、〇四六、一六三	八、〇八四、二八七	△三八、一二四
諸拂戾及缺損補塡金	八、〇四六、一六三	八、〇八四、二八七	△三八、一二四
國庫豫備金	六、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	△二、〇〇〇、〇〇〇

款	項	修正案	原案	比較增減（△）
第一豫備金		三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	△一、〇〇〇、〇〇〇円
第二豫備金		四、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	△一、〇〇〇、〇〇〇
合計		一九三、〇七一、四三七	一九五、四三五、八五七	△二、三六四、四二〇
歲出總計	經常部合計	四七八、六四三、〇九〇円	四八一、〇〇六、五一〇円	△二、三六四、四二〇円
		二九七、五七六、九五六	二九九、九四一、四三六	△二、三六四、四八〇

衆議院に於ては一月二十四日より豫算委員會を開きて審議を遂げたる結果、總豫算案中に於て僅少の削除を爲したる外全部原案の通可決すべきものと決定し、二月十二日豫算委員長小川平吉は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算委員會に於ては內外各般の事項に亙り幾多質問應答あり。今一々之を報告するの要を認めざれども、唯一言述べ置く必要ありと思考するは、卽ち陸海軍備に關する點是なり。今回の豫算は軍備計畫を骨子として成れるものにして、各派の諸君より此點に關する質問續出したるが大體に於て政府の樹てたる陸海軍備の計畫は不徹底の感ありとの意味を以て質問せられたり。之に對し軍事當局の答辯は「陸軍に於ては二十五師團を以て既定の計畫とし之に向ひ進みつつあれども、今回要求する所は現在の二十一師團の戰鬪力を充實するを以て滿足するを至當と認むるも、將來に於ては漸次增加擴張を爲すべき希望を有せり」。「海軍に於ては大正十二年度迄に所謂八六艦隊を完成するの計畫を樹て、今回の豫算を要求したり。大正十年度に至れば更に新なる計畫を樹て豫算を要求せんとする希望を懷けり。今日は大正十二年度迄を限り八六艦隊の完成に努むる計畫なり」と。而して何故に大正十二年度以後に亙る所謂八八艦隊なるものを完成すべき計畫を樹てざるやとの質問に對しては「既定の計畫が大正十二年度を限りとせるを以て、先づ之に基き大正十二年度迄の計畫を立てたるなり。大正十三年に至れば水陸の設備も完成を告げ、製艦能力も十分となるべければ、其の時に及んで更に大戰艦二隻を製造し得る見込なれども、是は大正十年頃に至り新に計畫を樹てて要求すべき考なり。且又此場合には大戰艦二隻の外に補充費として他の艦艇の補充費をも共に、計畫を樹て要求すべき考なり」と答辯したり。此軍備計畫に對しては豫算委員會に於て更に希望を決議したるが、此は後段更に述ぶる所あるべし。稅制改廢に關する事項に就きては、先般本院に於て政府の計畫に對し變更の決議ありしが故に、此點に就ては更に開陳の必要なきものと認む。政府は本院に於て稅法案修正の結果として、去る九日を以て本豫算に對する修正案を提出せり。卽ち稅法案修正の結果として歲入二百五十六萬九千五百八十六圓の不足を生じたるに依り、歲出入の均衡を得んが爲め、歲出に於て第一豫備金增加額百萬圓、第二豫備金增加額百萬圓、併せて二百萬圓を削減し、歲入に於て前年度繰入金五十六萬九千五百八十六圓を增加したり。次に分科に於て決定せられ總會に於て之を是認したる所の總豫算削減の修正科目を陳述せんとす。卽ち㈠歲出經常部內務省所管第五款地方廳視學官設置に關する經費七萬八千四百四十八圓を削除す。其の理由は此視學官なるものは左まで其の必要を認めざる上に、行政の統一を缺くの虞ありと云ふに在り。㈡歲出臨時部外務省所管第一款營繕費第二項在哈爾賓總領事館新築費十二萬八千圓、竝に乙號繼續費を削除す。右は露國の形勢に鑑みて一時延期するを相當と認めたるに依る。㈢大藏省所管第二款營繕費第九項專賣局東京試驗場新營費二十三萬二千九百三十二圓を削除す。其の理由は從來專賣局に於て此種の試驗を實行し居れるを以て、今日遽に斯かる費用を要求して試驗場を新

築するの必要を認めずと云ふに在り。(四)遞信省所管第一款補助費第三項航路擴張費の中二十萬圓を削除す。右は此の程度の金額を削除する餘裕ありと認めたるに依る。以上削減總額は六十三萬九千三百八十圓なり。此他憲政會の早速整爾君竝に國民黨の鈴木梅四郎君よりも豫算に對する修正案を提出せしも共に少數を以て否決せられ、大正七年度歳入歳出總豫算案外二件は、總て前陳修正の部分を除くの外原案の通決定したり。尙右豫算を可決するに當り、委員會は幾多の條件若くは希望警告等を決議せり。卽ち臨時教育會議費に就ては、昨年の院議に於て臨時教育會議は一箇年を以て終了する事を希望する旨を附帶決議として右經費に對し協贊を與へたるものなるに、今回又更に一箇年の費用を要求し來れり。教育會議の未だ終了せざる今日之が經費を否決するが如きは委員會の敢てせざる所なれども、政府は昨年の院議に照し速に教育會議を終了すべしとの希望を以て附帶決議を爲したり。次に國防に關しては豫算總會に於て野田卯太郎君より、本年度の豫算に計上せられたる國防計畫の不徹底なる事は一般の定評の存する所なり。陸軍當局者は飛行機の充實・火藥の改良・其の他陸軍軍備の充足を圖る爲め、又海軍當局は造艦能力の增進及艦艇の充足等に付一層努力されんことを希望すとの動議を提出し、滿場一致を以て可決せり。之に對し陸海兩當局者よりは成るべく諸君の希望に副ふべく十分なる努力を爲すべしと答辯ありたり。次に農商務省所管に於て一の重要なる決議ありたり。今之を簡單に述べんに、大正五年二月衆議院に於て第三期製鐵所の擴張費を協贊するに當り、製鐵所に於て製造せる半製品卽ち鋼片を成るべく多量に民間に拂下ぐべきことを希望する旨を表明せしが、同年五月に至り岡崎久次郎外數名より製鐵所に對し右鋼片の拂下を願出でたるを以て、製鐵所長官は農商務大臣の指揮を受け、同年七月岡崎久次郎外數名の者と鋼片拂下の契約を爲したり。而して製鐵所第三期擴張後に於て民間に拂下を爲し得べき餘裕噸數は總計三萬噸にして、製鐵所は其の全部を擧げて前記の數名に對し大正六年末より向ふ十箇年間之を拂下ぐることとし、其の代價は製鐵所製品を他に販賣する價額を標準として、每年一回若くは數回に之を定むることと爲したり。豫算委員會は斯くの如く擴張後に於ける民間に拂下げ得べき餘裕の全數量を擧げて或る一部の人々にのみ拂下げ、之を獨占せしむるは甚だ不都合なるのみならず、十箇年と云ふが如き長期に亙る契約を締結したるは更に不都合なり。現內閣は前內閣の秕政を正すを以て其の存在の一意義となすものなるを以て、速に之に對し相當の處分を爲すべしと決議したり。』

次で鈴木梅四郎は國民黨を代表し、早速整爾は憲政會を代表して各修正案を提出せしが、採決の結果兩修正案とも少數を以て否決せられ、豫算案全部は委員長報告の通可決確定したり。今政府原案と衆議院議決額とを對照すれば左の如し。

區分	政府原案	衆議院議決額	差引削減額	備考
歳由				
經常部	四七八、六四二、〇九〇円	四七八、五六三、六四二円	七八、四四八円	地方觀學官設置費を削減す
臨時部	二四〇、九三四、八八六	二四〇、三七三、九五四	五六〇、九三二	(在哈爾賓總領事館新築費、專賣局東京試驗場新營費、航路擴張費の一部を削除す
合計	七一九、五七六、九七六	七一八、九三七、五九六	六三九、三八〇	

貴族院に於ては大正七年二月十二日衆議院より大正七年度歳計豫算案を受領し、同月十四日より

豫算委員會を開きて審議を遂げたる末、總豫算に就ては衆議院議決の通可決すべきものと決定し、三月十二日豫算委員長淺田德則は豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『豫算委員會總會の劈頭に於て一員より質問あり。其の大意は政府が豫算案を衆議院に提出し將に審査に付せられんとするに際し、或議員より本年度豫算に計上せられたる費額は之を削減する餘地ありや否やとの質問ありしに對し、政府は衆議院に於てより以上の案あらば必ずしも提案を固執せずと言明したるが、凡そ諸法案は兩院の協贊を待つて初めて成立すべきに拘らず政府は未だ其の議を經ざるに先ち既に削減の餘地あることを言明せしのみならず、其の結果政府が社會政策の意義を以て樹てたる稅制整理の計畫も容易に之を放棄したり。政府は今豫算案を貴族院に提出するに當り、若し貴族院に於てもより以上の案あらば之を如何せんとするかと云ふにあり。之に對し大藏大臣は政府今回提出の豫算は國防充實を以て根本義となし、唯此機を以て稅制の整理をなさんと欲したるなり。敢て社會政策を標榜したるにあらず。而して衆議院に於ける質問者の趣旨も亦、稅制整理を他日に讓り主要なる問題は之を容れんとするにありたれば、政府は之に同意したるに過ぎず。若し貴族院に於て其の根本義に觸れざる範圍に於て適當なる修正あらば、之を考慮するに吝ならずと辯明せられたり。次に財政問題に關する種々の質問中主なる四五點に就き報告せんとす。一委員より政府は國防の充實を主として增稅を行ひながら一方に廢減稅を行はんとし、又廢減稅は衆議院に於て修正せられしに拘らず別に町村の負擔輕減の法案あり。是れ明に首尾一貫せざるものに非ずやと質し、政府は之に對し稅制整理延期及小學校教育費補助の理由に就き辯明せられたり。尙他の一委員より政府は內地と朝鮮の關稅を統一する意思なきやとの質問に對し、政府は目下夫々調査中なる旨答辯あり。又戰爭勃發以來世界金融中心の移動東洋方面に於ける對爲替方策保證準備擴張問題等に對し大藏大臣より現在及將來に於ける財政經濟上の所見を詳說せられたり。其の他日支爲替減債基金等の問題に關し幾多の問答あり。又收入豫算を審査するに當り、政府は或種の收入は過多に、或種のものは過少に見積れり。例へば戰時利得稅製鐵所益金の如きは過少の見積と認むされば此後歲入調整上には政府に於て特に留意せられたしとの希望あり。尙露國の軍需品代金として日本に於て發行せる公債を我國庫證券を以て償還したる件に關し、大藏大臣より我經濟界の事情に鑑み臨機の處分を執りしものにして、露國政情の定まるを待ち適當に處分すべしとの答辯あり。又或委員より食料其の他原料品に關しては各國何れも勤儉貯蓄に努めつつあり。我國に於ても戊申詔書の御趣意を體して之が實行を努めざるべからずとて之に對する政府の所見を質し、之に對して農商務大臣及大藏大臣は同感を表せられたり。又阿片收入に關し其の取締制度に就き極めて詳細なる質疑ありしが、之に對し總理大臣內務大臣及政府委員より政府の阿片取締に關する制度內地及殖民地に於ける從來の方針實蹟等に就き統計を示し、殊に臺灣に於ては漸次其の數を減少しつつある實況を陳述せられたり。次に國防問題に就き種々の質問あり。或一員より陸軍の豫算は海軍に比し不徹底にして、單に特科隊の編成替又は新設に止まるが如きも、極東に於ける防備は戰前に比し更に大なるを要すべく、二十五師團の如きも近き將來に於て之が遂行の豫定なりや否との問に對し、總理大臣は政府は專ら現今歐洲戰爭の

實驗に鑑み、砲兵を增加して威力を增すことを當面の急務と認めたり。增師に關しては他日經濟の許す時に於て更に企畫せんとすと答辯せり。又海軍の軍備擴張に付種々の質問出でしが、就中豫定の八六艦隊完成の時期及他の艦船の補充計畫竝に列强に於ける海軍勢力の大擴張に鑑み帝國海軍に於ても既定以上の計畫をなすや否に關し、海軍大臣は極めて詳細なる說明を爲せり。又海軍補充計畫に關し財政上數回の問答あり。又陸軍に於ては軍用品卽兵器軍需品の製造を民業に移すの意なきやとの問に對し、陸軍大臣は大體は同感なるも、現在の狀況を以ては未だ遽に實行し難しと答辯せり。外交問題に關する質問の重なるものは、東淸鐵道に關し、露國政府との交涉內容、支那南北の紛爭に對する帝國政府の根本政策如何及帝國參戰の目的、出兵問題等にして、之に對しては多くは祕密會に於て答辯せられたり。其の他泰平組合が支那政府に兵器を賣却したる事實に關し大藏大臣の詳說あり。又製鐵所の鋼片拂下問題に付、一委員と農商務大臣との間に數回應答あり。又官紀振肅に關する質問に對し總理大臣より答辯ありたり。尙分科會に於ては左の如き二箇の希望決議あり、總會に於ても亦之を認めたり。

一、神社の合併は萬已むを得ざるものの外容易に之を許さざる方針を執られむことを望む。

二、炭坑の作業は其の深程の增加と共に爆發危險の隨進するは當然のことなりとす。然るに政府は此に對する處置宜しきを得ざりしが故に、本邦に於ける炭坑爆發の現況は酸鼻の極を呈す。殊に最近續發せる大爆發は何れも世界的統計に徵するも最大爆發と認むるものなり。然るに近時歐米諸國に於ては爆發豫防法嚴行の結果、著しく其の數を減じたるは統計の示す所なり。且つ其の豫防の不可能にあらざるを示すものなり。政府は其の點に付注意なきにあらざるも、炭坑に於ける現況は改善せられざるのみならず、益〻其の危險を增進せんとす。且つ爆發の都度責任の歸着する所不明にして、延いて社會問題たらんとする傾向を示せり。政府は急に相當の方法を講じ炭坑の改善に努力すべし。

以上の質問、希望又は意見交換の後總會は採決に入り、大正七年度總豫算案は衆議院議決案の通可決せられたり。』

斯くて採決の結果豫算案は總て委員長報告の通可決せられしを以て、茲に兩院の協贊を經たる大正七年度總豫算は、裁可を經て大正七年三月二十二日左の如く公布せられたり。

大正七年度歳入歳出總豫算表

科目	金額	科目	金額
歳入			
經常部			
租稅	三六八、三六七、七五八 円	酒稅	九四、六二一、五七八 円
地租	七三、二五五、七八九	醬油稅	五、二八三、四八〇
所得稅	六八、四五二、〇九五	砂糖消費稅	二六、五〇九、四七三
營業稅	二六、二〇七、二六八	織物消費稅	一七、九二三、五四一
相續稅	三、六〇三、八五一	石油消費稅	九四二、三九一
通行稅	五、二五四、一七五	賣藥營業稅	三七、六三二
鑛業稅	三、八六〇、二四六	取引所稅	七、四九一、六九八
兌換銀行券發行稅	八九六、三七	關稅	三五、三二八、四六〇
印紙收入		專賣局益金	五〇、七二四
		東京砲兵工廠益金	三七、七七七、九六六
		印紙收入	三七、七七七、九九六 円
		官業及官有財產收入	一九九、七二五、一六六
		郵便電信及電話收入	八七、七四七、六〇三
		森林收入	一三、七二九、四八七
		配當金收入	二、八三三、八六一
		囚徒工錢及製作收入	一、五二九、八六五
		官有物貸下料	三三〇、七二四
		印刷局益金	六七五、五五〇
		專賣局益金	七一、九九一、九八二
		東京砲兵工廠益金	五〇、〇〇〇

科目	金額
歳入歳出合計	七、三五六、〇〇〇円
歳入総額	七、三五六、〇〇〇円
歳出総額	七、三五六、〇〇〇円
歳入	
官有物売払代	三、〇〇〇円
船舶工場建物代	一、〇〇〇円
地所山林売払代	一、〇〇〇円
鉱業権譲渡代	一、〇〇〇円
特別会計繰入金	三、七〇〇、〇〇〇円
歳出	
皇室費	四、〇〇〇、〇〇〇円
国債費	四、〇〇〇、〇〇〇円
外務省所管	六四〇、〇〇〇円
内務省所管	一、一四〇、〇〇〇円
大蔵省所管	一、三五〇、〇〇〇円
陸軍省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
海軍省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
司法省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
文部省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
農商務省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
逓信省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
鉄道院所管	一、一〇〇、〇〇〇円
予備費	一、〇〇〇、〇〇〇円
歳入歳出合計	七、三五六、〇〇〇円
歳入総額	七、三五六、〇〇〇円
歳出総額	七、三五六、〇〇〇円

科目	金額
歳入	
官有物売払代	三、〇〇〇円
船舶工場建物代	一、〇〇〇円
地所山林売払代	一、〇〇〇円
鉱業権譲渡代	一、〇〇〇円
特別会計繰入金	三、七〇〇、〇〇〇円
歳出	
皇室費	四、〇〇〇、〇〇〇円
国債費	四、〇〇〇、〇〇〇円
外務省所管	六四〇、〇〇〇円
内務省所管	一、一四〇、〇〇〇円
大蔵省所管	一、三五〇、〇〇〇円
陸軍省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
海軍省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
司法省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
文部省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
農商務省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
逓信省所管	一、一〇〇、〇〇〇円
鉄道院所管	一、一〇〇、〇〇〇円
予備費	一、〇〇〇、〇〇〇円
歳入歳出合計	七、三五六、〇〇〇円
歳入総額	七、三五六、〇〇〇円
歳出総額	七、三五六、〇〇〇円

科目	金額
歳入	
皇室費	
御料収入	一、〇〇〇、〇〇〇円
雑収入	四、〇〇〇、〇〇〇円
外務省所管	
本省	
雑収入	一〇、〇〇〇円
諸収入	六四〇、〇〇〇円
内務省所管	
神宮	
雑収入	一三〇、〇〇〇円
諸収入	一三〇、〇〇〇円
大蔵省所管	
諸収入	一三五、〇〇〇円
雑収入	一三五、〇〇〇円
陸軍省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
海軍省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
司法省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
文部省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
農商務省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
逓信省所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
鉄道院所管	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
予備費	
雑収入	一一〇、〇〇〇円
諸収入	一一〇、〇〇〇円
特別会計繰入金	
臨時軍事費特別会計繰入金	三、七〇〇、〇〇〇円
歳出	
皇室費	
御料費	一〇、〇〇〇円
内閣所管	
恩給費	三、〇〇〇円
賞勲局所管	
賞勲費	三、〇〇〇円
内務省所管	
神宮費	三〇、〇〇〇円
北海道庁費	三〇、〇〇〇円
警察費	三五、〇〇〇円
道庁及地方費補助	三五、〇〇〇円
監獄費	三五、〇〇〇円
地方改良費	三五、〇〇〇円
大蔵省所管	
国債費	三、七〇〇、〇〇〇円
公債元金償還及利子	三、七〇〇、〇〇〇円
陸軍省所管	
陸軍費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍恩給費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍補充費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍建築費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍被服費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍糧秣費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍馬匹費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍兵器費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍運輸通信費	一、〇〇〇、〇〇〇円
陸軍諸費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍省所管	
海軍費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍恩給費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍補充費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍建築費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍艦艇費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍兵器費	一、〇〇〇、〇〇〇円
海軍諸費	一、〇〇〇、〇〇〇円
司法省所管	
司法費	一、〇〇〇、〇〇〇円
監獄費	一、〇〇〇、〇〇〇円
文部省所管	
文部費	一、〇〇〇、〇〇〇円
農商務省所管	
農商務費	一、〇〇〇、〇〇〇円
逓信省所管	
逓信費	一、〇〇〇、〇〇〇円
鉄道院所管	
鉄道費	一、〇〇〇、〇〇〇円
予備費	
予備費	一、〇〇〇、〇〇〇円
歳入歳出合計	七、三五六、〇〇〇円
歳入総額	七、三五六、〇〇〇円
歳出総額	七、三五六、〇〇〇円

科目	金額
海港檢疫費	一〇三、七一〇円
小笠原島地方費	二七、三〇三
伊豆七島警察費	一一、六七五
機密費	一四三、九六〇
徴兵費	五九二、八七九
徴兵費	五九二、八七九
軍事救護費	七六九、九一九
軍事救護費	七六九、九一九
國立感化院費	三六、五〇八
國立感化院費	三六、五〇八
警察講習所費	三一、九〇三
警察講習所費	三一、九〇三
補助費	八二四、六四七
傳染病豫防費補助	三八二、七三一
地方感化院費補助	五〇、〇〇〇
地方費補給	三九一、九一六
諸支出金	二三三、五八五
諸支出金	二三三、五八五
合計	一三、九九四、〇五八
大藏省所管	
大藏本省	一、〇二五、一一七円
俸給	一九八、一七〇
廳費及修繕費	四五、二三六
雜給及雜費	一一一、九三一
萬國協約分擔金	一、〇六二
國庫金取扱及金融事項調査監督費	五五一、二三四
貯蓄債券取扱手數料	一〇七、四八四
預金利子及手數料	二三、四九九、三四二
預金利子	二三、四三三、六七〇
利子拂手數料	六五、六七二
内閣	五三四、八八五
俸給	一二九、八七〇
事務費	一二四、三六五
褒賞費	一七四、三四三
文官試驗費	五、三七五
文官懲戒諸費	九三二
機密費	一〇〇、〇〇〇
樞密院	一五八、〇九〇
俸給	一四九、四三〇円
事務費	八、六七〇
貴族院	七五五、八六五
議員諸費	六五七、三三四
俸給	三九、七四〇
事務費	五八、七九一
衆議院	九一三、八四四
議員諸費	七九七、七六三
俸給	三九、八〇〇
事務費	七六、二八一
會計檢査院	二一三、一一〇
俸給	一六四、五八三
事務費	四八、五二七
行政裁判所	七三、〇八四
俸給	六五、二五三
事務費	七、八三一
税關	一、三八六、二一一
俸給	四八一、五五〇
廳費及修繕費	三一三、一六〇

科目	金額
雜給及雜費	三三八、三三〇
處分費	一七、〇五〇
配當金	一二四、八九一
特派官吏費	一二八、五八〇
機密費	二、六五〇
内國税徴收費	一〇、〇六八、九六四
俸給	二、五六七、四四〇
廳費及修繕費	三六二、〇一九
雜給及雜費	一、五九一、三八二
委員會費	一九七、〇九九
處分費	八四、九五九
印紙類諸費	一三二、六六四
市町村交付金	五、一三三、四〇一
釀造試驗費	七七、七一三
俸給	一六、三四〇
事業費	六一、三七三
橫濱港維持費	一六〇、二六七
俸給	四、四〇〇
事業費	一五五、八六七
諸拂戻及缺損補塡金	八、〇四六、一六三
諸拂戻及缺損補塡金	八、〇四六、一六三
國債整理基金繰入	一三九、六〇四、七二九
國債整理基金繰入	一三九、六〇四、七二九
臺灣關税諸收入繰入	一、三五〇、八六四
臺灣關税諸收入繰入	一、三五〇、八六四
煙草專賣益金樺太廳特別會計繰入	一四四、一一三
煙草專賣益金樺太廳特別會計繰入	一四四、一一三
諸支出金	六九、〇六六
諸支出金	六九、〇六六
國庫豫備金	六、〇〇〇、〇〇〇
第一豫備金	二、〇〇〇、〇〇〇
第二豫備金	四、〇〇〇、〇〇〇
合計	一九三、〇七一、四三七
陸軍省所管	
陸軍本省	四二九、八八六
俸給	二六二、〇六二
廳費及修繕費	五七、二五五
雜給及雜費	一一〇、五六九
軍事費	七八、一二七、九四九
俸給	二四、〇〇一、六八二
廳費	九三五、五九五
修繕費	一、三九九、二四八
旅費	二、五三三、九一四
雜給及雜費	一、五四二、九八七
諸手當	一、五八七、一四三
外國駐在員費	一二四、四二八
糧秣費	二三、五七四、九三六
被服費	七、〇五七、一九一
兵器彈藥費	七、七〇三、八九三
馬匹費	二、〇三〇、九三〇
演習費	二、六三六、六八九
患者費	四五六、六九一
軍隊需品費	一、七六七、七九六
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	五三六、四〇〇
在監人費	三二、四九五
供奉費	一一、六四七
輸送費	九五九、八三三
機密費	二五五、四七四
憲兵費	三、四三三、五一七
俸給	二、〇五一、三三七

科目	金額
廳費及修繕費	二九八、八五四円
雜給及雜費	六四二、〇二六
諸手當	八二、六五〇
糧秣費	一五八、一〇九
被服費	七九、三六八
兵器彈藥費	四八、七一七
馬匹費	二三、〇三六
在監人費	一、九一四
機密費	四八、五一六
癈兵院	三九、七九六
俸給	五、六一六
事務費	三、七四二
癈兵費	三〇、四三八
馬政局	一、九二八、二七七
俸給	一二七、九九八
廳費及修繕費	三二、一四〇
雜給及雜費	八二、五三三
獎勵費	四六二、五七三
事業費	一、〇五七、五一〇
去勢費	一六五、五二三円
靖國神社寄付金	七、五五〇
靖國神社寄付金	七、五五〇
諸支出金	四二八、三六一
諸支出金	四二八、三六一
合計	八四、三九四、三三六
海軍省所管	
海軍本省	三三三、一九九
俸給	二四二、一九四
廳費及修繕費	三三、四四一
雜給及雜費	四七、五六四
軍事費	五四、二七四、三六〇
俸給	一五、七五二、二八三
廳費	四一五、八九六
修繕費	二三七、一一八
雜給及雜費	九六二、〇八〇
諸手當	三六四、六三九
衣糧費	七、九五九、四〇八
造船造兵及修理費	一七、四八〇、九四四
演習費	三七〇、五七一円
患者費	二九五、三九一
軍港要港費	三三七、九五一
艦營費	九、三九八、四〇九
扶助金	四〇七、四六九
在監人費	六、五九三
水路費	一六五、二一六
傭外國人諸給	二〇、三九三
機密費	八〇、〇〇〇
艦船經費繰替金	三〇、〇〇〇
諸支出金	三二、九二一
諸支出金	三二、九二一
合計	五四、六二〇、四七〇
司法省所管	
司法本省	一二七、九〇一
俸給	七五、六〇〇
廳費及修繕費	一八、五三三
雜給及雜費	二六、二七三
判事檢事及辯護士試驗費	六、五〇五

科目	金額
萬國監獄常設委員會費分擔金	一、〇〇〇
裁判所	七、二八〇、七〇三
俸給	四、七三四、五三二
廳費及修繕費	六七九、六一四
雜給及雜費	一、三〇六、一一三
裁判及登記諸費	四九二、四三三
機密費	六八、〇〇〇
監獄	六、〇六〇、五六九
俸給	二九四、〇六六
廳費及修繕費	二一五、一四四
雜給及雜費	二、五七六、〇八九
在監人費	二、九七五、二七〇
諸支出金	五九、四五三
諸支出金	五九、四五三
合計	一三、五三八、六二四
文部省所管	
文部本省	六三〇、五三二
俸給	一三八、九一〇
廳費及修繕費	三四、八〇五
雜給及雜費	一三三、三七一
萬國協約分擔金	七、〇一五
學藝研究及獎勵費	五一、九一三
帝國學士院學術研究獎勵費支出金	二〇、〇〇〇
外國留學生費	二五四、五〇七
中央氣象臺	七六、七一七
俸給	二六、八六〇
事務費	四九、八五七
緯度觀測所	九、五一八
俸給	六、一九〇
事務費	三、三二八
醫師及藥劑師試驗費	六〇、二六九
俸給	一、七四〇
事務費	三一、〇〇九
齒科療院費	一四、五二〇
醫師試驗用患者費交付金	一三、〇〇〇
大學及學校圖書館支出金	六、七五九、八九三
東京帝國大學支出金	一、五六〇、〇〇〇
東京帝國大學航空研究費支出金	一一四、二六九
京都帝國大學支出金	九七〇、〇〇〇
東北帝國大學支出金	五〇三、〇五九
九州帝國大學支出金	四七八、四一九
北海道帝國大學支出金	二〇六、一八五
學校及圖書館支出金	二、九二七、九六一
普通教育費	一三、五〇〇、〇〇〇
小學校教員俸給分擔金	一〇、〇〇〇、〇〇〇
小學校教育費補助	三、〇〇〇、〇〇〇
普通教育諸費	五〇〇、〇〇〇
實業教育費	三一九、六二〇
實業教育費補助	二八〇、〇〇〇
實業教育獎勵費	九、九九五
實業教員養成費支出金	二九、六二五
獎勵費	一五〇、〇〇〇
科學研究獎勵費	一五〇、〇〇〇
古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇
古社寺保存補助及補給費	一五〇、〇〇〇
諸支出金	二、九三五
諸支出金	二、九三五
合計	三〇、六五九、四六三
農商務省所管	
農商務本省	五八七、七一三

科目	金額
俸給	二八〇、二一〇円
廳費及修繕費	四六、七四四
雜給及雜費	九一、二九一
萬國協約分擔金	二〇、九二三
度量衡費	五一、七五三
調査事業費	三一、一七九
商品陳列館諸費	一九、二五六
漁業取締費	二八、一四九
種牡牛檢査費	一〇、七〇七
重要技術員養成費	七、五〇〇
特許局	一九六、二八六
俸給	一〇六、五五〇
事務費	八九、七三六
森林費	四、八〇六、三三三
俸給	七五五、七四〇
事務費	三八三、三三六
事業費	三、六六七、二四七
鑛務署	三七八、三四五
俸給	二一五、〇四〇

科目	金額
事務費	一六三、三〇五円
農事試驗場	一七四、〇七六
俸給	七一、五〇〇
事業費	一〇三、五七六
水產講習所	一七〇、八三九
俸給	四〇、七三五
事業費	一三〇、一〇四
生絲檢査所	八九、一六一
俸給	二三、三九〇
事業費	六五、七七一
畜產改良費	一八八、七一三
俸給	二四、一一〇
事業費	一六四、六〇三
工業試驗所	二七六、七七〇
俸給	九九、九二〇
事業費	一七六、八五〇
花莚檢査所	五五、一五六
俸給	一三、二一〇
事業費	四一、九四六

科目	金額
蠶業試驗場	三七三、三九六円
俸給	七九、九八〇
事業費	二九三、四一六
植物檢査所	三八、七五六
俸給	一五、八六〇
事業費	二三、八九六
絹業試驗所	五〇、四一四
俸給	一〇、九九二
事業費	三九、四二三
補助費	五四八、八九七
農會補助	八五、八五三
產業試驗費講習費補助	二一四、五六九
蠶病豫防費補助	二三〇、〇〇〇
輸出絹織物檢査費補助	一八、四七六
諸支出金	七七、五三六
諸支出金	七七、五三六
合計	八、〇三三、三七〇
遞信省所管	
遞信本省	七一三、六二九

科目	金額
俸給	三〇五、六四〇
廳費及修繕費	一九四、一七六
雜給及雜費	二二一、八一三
萬國航海會議補助費	二、〇〇〇
遞信費	四〇、三五二、一三六
俸給	三、三二四、七三四
遞信事業費	二六、七八二、一三五
諸拂戾金	一〇、三三三、三七三
審判費	一、六九三
萬國郵便電信聯約費	五、二〇一
機密費	五、〇〇〇
航路標識費	四〇六、六四一
俸給	二一八、四七六
航路標識事業費	一八八、一六五
商船學校	二〇四、四六六
俸給	五六、六四〇
校費	一四七、八二六
年金及恩給	三八、二九〇、七六一
年金	九、七四二、六六二
恩給	二八、五四八、〇九九

科目	金額
諸支出金	四八、五四八
諸支出金	四八、五四八
合計	八〇、〇一六、一八一
經常部合計	四七八、五六三、六四二
臨時部	
外務省所管	
營繕費	二三八、八〇〇
在外公館修築費	一五三、六〇〇
外務本省廳舍其他增築費	二三五、二〇〇
外務本省廳舍其他修繕費	五〇、〇〇〇
在外公館移轉費	二五、〇六〇
在外公館移轉費	二五、〇六〇
在外公館創立費	一三七、五〇〇
在外公館創立費	一三七、五〇〇
合計	三九一、三六〇
內務省所管	
補助費	三、二九五、〇〇〇
水道費補助	一、四〇〇、〇〇〇
水道鐵管增費補助	四九〇、〇〇〇
河川改修費補助	六四五、〇〇〇

科目	金額
港灣修築費補助	七六〇、〇〇〇
治水事業費	一三、六五六、七七〇
事務費	八五五、五三〇
河川費	一三、二七〇、〇〇〇
砂防費	五三一、二五〇
河川改良費	一、〇九三、五〇〇
千曲川改修費	五五五、〇〇〇
多摩川改修費	四三五、〇〇〇
河川調査費	一〇三、五〇〇
港灣改良費	一、五二五、〇〇〇
關門海峽改良費	七七〇、〇〇〇
鹽釜港修築費	五五〇、〇〇〇
新潟港修築費	二〇五、〇〇〇
道路港灣調査費	四〇、〇〇〇
道路港灣調査費	四〇、〇〇〇
北海道拓殖費	五、六〇四、五五五
殖民費	四四一、〇八六
森林費	五九八、三六六
產業費	二四三、七九一
土地改良費	三六二、六四一

科目	金額
道路橋梁費	一、四三二、五八三円
河川費	一、〇三一、九五二
港灣費	一、四〇三、三八六
拓殖鐵道公債利子支出金	一〇一、七五〇
營繕費	三五六、三五七
新營費	一七四、〇〇〇
修繕費	一八二、三五七
造神宮使廳	一五、八二六
俸給	六、五四〇
事務費	八、六二三
萱地保存費	六六三
明治神宮御造營費	九〇五、八八七
御造營費	八〇五、八八七
境外道路補助費	一〇〇、〇〇〇
明治神宮外苑工事施行費	三〇、一五〇
明治神宮外苑工事施行費	三〇、一五〇
臨時神社費	二七五、七八一
橿原神宮修築及擴張費	三〇、〇〇〇
熱田神宮境域擴張費	二四五、七八一
神職養成及神社調査費	一〇、〇〇〇円
神職養成及神社調査費	一〇、〇〇〇
傳染病豫防費	二四五、〇九六
傳染病豫防費	二四五、〇九六
醫藥品製造奬勵費	三三一、四一五
醫藥品製造奬勵費	三三一、四一五
保健衛生調查及衛生事業奬勵費	三九、三八〇
保健衛生調查及衛生事業奬勵費	三九、三八〇
藥用植物試驗費	二三、五〇六
藥用植物試驗費	二三、五〇六
小笠原島殖產事業費	四九、六七六
森林經營費	四、八四四
水產經營費	四四、八三三
伊豆七島水產經營費	八一、二三一
伊豆七島水產經營費	八一、二三一
沖繩縣輕便鐵道建設費補給	一〇〇、〇〇〇
沖繩縣輕便鐵道建設費補給	一〇〇、〇〇〇
縣債利子補給	四八四、七二四
土木費借入金利子補給	四八四、七二四
橫濱市稅補給	八〇、〇〇〇円
橫濱市稅補給	八〇、〇〇〇
災害復舊貸付金	二六五、〇〇〇
山形縣災害復舊貸付金	二六五、〇〇〇
合計	二八、五〇六、八五四
大藏省所管	
羅災救助基金補助	三三、九六八
羅災救助基金補助	三三、九六八
營繕費	四、二四〇、一六三
神戶稅關海陸運輸聯絡設備費	五〇〇、〇〇〇
煙草製造專賣創業建設費	九〇〇、〇〇〇
神戶稅關防波堤築造費	五〇〇、〇〇〇
門司稅關設備費	三五三、〇〇〇
大阪稅關火災復舊其他新營費	三四二、四八九
煙草專賣用品貯藏倉庫建設費	一一一、五〇〇
議院建築費	三一〇、〇〇〇
函館稅關小樽支署廳舍其他改築費	二九、八七六
鹽專賣用倉庫新營費	五〇〇、〇〇〇
貴族院及衆議院委員室其他修築費	八三、三三三

科目	金額
印刷局設備擴張費	七七、〇六五
新營費	三五四、三三六
修繕費	一七八、六六五
海外駐剳財務官費	二三五、九一五
事務費	一八〇、九一五
機密費	四五、〇〇〇
臨時秩祿處分調查費	八、〇五〇
臨時秩祿處分調查費	八、〇五〇
臨時敎育會議諸費	二七、〇〇〇
臨時敎育會議諸費	二七、〇〇〇
特別會計事業公債金繰入	一六、二三五、八八八
朝鮮事業公債金繰入	一三、二三五、八八八
臺灣事業公債金繰入	三、〇〇〇、〇〇〇
特別會計經費補充金	五、〇〇七、〇〇〇
朝鮮總督府經費補充金	三、〇〇〇、〇〇〇
關東都督府經費補充金	二、〇〇七、〇〇〇
內閣圖書保存費	八、八九八
內閣圖書保存費	八、八九八
田畑地價調查費	三〇〇、〇〇〇
田畑地價調查費	三〇〇、〇〇〇
軍人恩給更正諸費	一七、九三一
軍人恩給更正諸費	一七、九三一
國勢調查費	九四、八二四
國勢調查費	九四、八二四
官有財產調查費	二七、七七一
官有財產調查費	二七、七七一
森林資金返償	二、一九三、八三〇
森林資金返償	二、一九三、八三〇
朝鮮總督府特別會計繰入	六五〇、〇〇〇
朝鮮總督府特別會計繰入	六五〇、〇〇〇
合計	二九、〇七一、三三八
陸軍省所管	
砲臺建築費	二七五、〇〇〇
東京灣砲臺建築費	二七五、〇〇〇
營繕費	一、九五〇、一三四
名古屋各部隊給水設備費	四五、四一五
舊營舍倉庫蟻害其他修築費	二〇〇、〇〇〇
火藥庫其他改增築費	一〇〇、〇〇〇
小銃射擊場移轉改增築費	一一八、〇〇〇
演習廠舍改修費	五〇、〇〇〇
兵器庫及工場整備費	六〇〇、〇〇〇
種馬所及種馬牧場廐舍改修費	三一、五〇〇
新營費	三五五、三一九
修繕費	四五〇、〇〇〇
土地建造物整理費	六六〇、〇〇〇
土地建造物整理費	六六〇、〇〇〇
整備費	七、七〇七、五三八
整備費	七、七〇七、五三八
軍備充實費	七、九八八、七三二
營繕及初度調辨費	七、九八八、七三二
朝鮮師團營繕及初度調辨費	三、〇八七、一〇三
朝鮮師團營繕及初度調辨費	三、〇八七、一〇三
航空隊設備費	二三八、三三三
營繕及初度調辨費	二三八、三三三
機關銃隊充備費	四〇九、四七二
營繕及初度調辨費	四〇九、四七二
山砲兵隊充備費	二三三、八五三
營繕及初度調辨費	二三三、八五三
臺灣營舍營繕及初度調辨費	三〇〇、〇〇〇
臺灣營舍營繕及初度調辨費	三〇〇、〇〇〇

科目	金額
陸軍費	
軍備費	
軍艦製造費	
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九七

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九六

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九五

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九四

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九三

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九二

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九一

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	九〇

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八九

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八八

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八七

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八六

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八五

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八四

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八三

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八二

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八一

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	八〇

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	七九

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇〇〇
富山分区裁判所建築費	三五、〇〇〇
新潟監獄修繕費	三五、〇〇〇
計	四〇、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
支部省所管	
修繕費	
新潟監獄修繕費	四五、〇〇〇
計	四五、〇〇〇
合計	三五、六〇〇
第十七節　大正七年度歳計	七八

科目	金額
兵器製造所新設費	二、〇〇〇、〇〇〇円
土地建造物利用費	一、五〇〇、〇〇〇
軍用気球研究費	一、五〇〇、〇〇〇
無線電信研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
自動車研究費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、〇〇〇、〇〇〇
航空隊火薬庫冷却装置費	三五〇、〇〇〇
軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	
一時恩給金	三五〇、〇〇〇
計	一、〇〇〇、〇〇〇
司法省所管	
法律調査費	七二、〇〇〇
計	七二、〇〇〇
内務省所管	
営繕費	
東京区裁判所建築費	一五〇、〇〇〇
名古屋区裁判所建築費	三五、六〇〇
松山区裁判所建築費	三五、六〇〇
宮城所属控訴院裁判所仙台建築地方裁判所建築費	三四、〇

科目	金額
藥學專門學校創立費	九六、〇〇〇円
大學及學校圖書館臨時支出金	六七七、〇四〇
東京帝國大學航空研究費支出金	二四〇、〇〇〇
東北帝國大學支出金	二一七、九七八
九州帝國大學支出金	一七七、一八四
北海道帝國大學支出金	五、〇〇〇
學校及圖書館支出金	三六、八七八
臨時調查費	二六、四二五
諸學校教科細目調查費	一、四二五
法隆寺壁畫保存調查費	五、〇〇〇
實業教育調查費	二〇、〇〇〇
臨時教員養成所費	一三、八八四
臨時教員養成所費	一三、八八四
臨時維新史料編纂事務局費	四三、七三九
俸給	一七、四〇〇
事務費	二六、三三九
縣債利子補給	八、三八七
教育費借入金利子補給	八、三八七
古社寺特別保護建造物及國寶臺帳調製費	一〇、〇〇〇
古社寺特別保護建造物及國寶臺帳調製費	一〇、〇〇〇円
臨時外國留學生費	三四、六〇〇
臨時外國留學生費	三四、六〇〇
合計	**三、五二四、六六四**
農商務省所管	
產業獎勵費	二、六六三、四七一
外國貿易擴張費	一七一、七二一
遠洋漁業獎勵費	二六九、〇三三
農事改良獎勵費	八八〇、四四五
糖業改良費	三六、二七三
蠶絲業改良獎勵費	一四一、八七四
工業獎勵費	二〇四、九七〇
輸出水產物檢查費補助	九、一四二
府縣聯合共進會費	二、七三四
理化學研究所補助	二五〇、〇〇〇
副業獎勵費	一一八、六〇一
發明獎勵費	七〇、〇〇〇
緬羊飼育獎勵費	二〇九、三七三
漁港修築獎勵費	二八八、〇〇〇
漁業組合事業改良獎勵費	一一、三三五円
製鐵所擴張費	一八、八三五、八四〇
事務費	二三一、八四〇
工場費	一八、五九四、〇〇〇
營繕費	一、五八一、〇一一
新營費	一、五四三、〇六七
修繕費	三八、九四四
國有林野經營費	三、九〇一、七四六
俸給	三九三、九六〇
事業費	三、四九七、二四六
諸支出金	一〇、五四〇
治水事業費	六九〇、六〇〇
調查及監督費	一七七、八四〇
營繕費	四七、一六〇
補助及補償費	四六五、六〇〇
獸疫及害蟲費	九〇、四〇〇
獸疫費	三〇、四〇〇
害蟲費	六〇、〇〇〇
臘肭獸保護費	四九、九五九

科目	金額
臘肭獸保護費	四九、九五九
漁業免許處分費	三、六八〇
漁業免許處分費	三、六八〇
臨時調查費	一七六、六四九
鑛物調查費	一六、二一三
鑛毒調查費	三、〇〇〇
炭坑爆發豫防調查費	二〇、三六七
海外漁業調查費	九、四二九
米穀貯藏研究費	二七、四五〇
油田調查費	三二、六二三
窒素研究費	三二、〇二〇
工場災害豫防並工場及鑛業衛生調查費	三五、五四七
特許局分類整理費	一三、五六〇
特許局分類整理費	一三、五六〇
合計	**二七、九九六、九一六**
遞信省所管	
補助費	一一、〇六三、七四三
海員養成補助	三〇、〇〇〇
水難救濟補助	二〇、〇〇〇
航路擴張費	六、三七六、〇一八
造船獎勵費	四、六三六、七二五
電信電話營繕費	一、六三二、九七七
東京京城間電信線路增設費	三三四、八六四
電信電話營繕費	一、二九八、一一三
航路標識營繕費	一三〇、〇四一
チキウ岬航路標識新設費	三一、一〇〇
新營費	七三、六三六
修繕費	一五、三〇五
營繕費	八一三、六五七
新營費	六三四、九八四
修繕費	一八八、六七三
電話交換擴張費	一〇、〇〇〇、〇〇〇
俸給	一五九、六三〇
事業費	九、八四〇、三八〇
電氣工業用發電水力調查費	一九五、五四四
俸給	三八、四六〇
事業費	一五七、〇八四
無線電信局設置費	一七一、一六〇
無線電信局設置費	一七一、一六〇
受託造修費	一四、二五〇
受託造修費	一四、二五〇
災害費	三三、六七五
米澤郵便局舍及官舍火災復舊費	三三、六七五
簡易生命保險特別會計繰入	二九三、三五三
簡易生命保險特別會計繰入	二九三、三五三
合計	**二四、三五七、四〇〇**
臨時部合計	**二四〇、三七三、九五四**
歲出總計	**七一八、九三七、五九六**

新規繼續費表

事項	總額	大正七年度	同八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	自同十二年度至同二十四年度
千曲川改修費	九、〇五〇、〇〇〇円	五五五、〇〇〇円	一、〇五五、〇〇〇円	一、〇五五、〇〇〇円	一、〇五五、〇〇〇円	九五五、〇〇〇円	四、三七五、〇〇〇円

事項	總額	大正七年度	同八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	自同十二年度至同二十四年度
	円	円	円	円	円	円	円
多摩川改修費	五、八六〇、〇〇〇	四三五、〇〇〇	四三五、〇〇〇	六三五、〇〇〇	八三五、〇〇〇	八三五、〇〇〇	三、七三五、〇〇〇
河川調査費	三九五、〇〇〇	一〇三、五〇〇	三三、五〇〇	三三、五〇〇	三三、五〇〇	三三、五〇〇	一六三、五〇〇
伊豆七島水產經營費	一七七、九四三	八一、三三一	二五、一六六	一八、四五三	一六、五三一	一六、五三一	〇
門司稅關設備費	六一三、〇〇〇	三五三、〇〇〇	二六一、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
議院建築費	七、五〇〇、〇〇〇	三一〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三、八九〇、〇〇〇
田畑地價調查費	九三五、四〇一	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三五、四〇一	〇	〇	〇
國勢調查費	二、一五三、三一〇	九四一、八一四	五四三、三八八	三〇三、一三三	二六六、三六七	三〇四、〇五三	六四一、六九二
軍備充實費	五五、二六三、八五八	七、九八八、七三三	七、八一九、三二一	八、三八一、四一七	六、〇二二、三四九	四、三五六、一一一	三〇、七二五、九三八
特種兵器製造及試驗費	一、五〇〇、〇〇〇	二九七、八六四	三〇二、一三六	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	〇
準備軍需品費	四、六四七、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	六四七、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
臺灣豫備油田試掘費	三九九、九八八	三六、六三八	七三、三二〇	〇	〇	〇	〇
火藥廠設備費	二、六七九、五〇〇	二、四七四、九四九	二〇五、四五一	〇	〇	〇	〇
無線電信所設備費	一、一九六、二九五	三九八、七六五	三九八、七六五	三九八、七六五	三九八、七六五	三九八、七六五	〇
宮城控訴院仙臺地方裁判所區裁判所建築費	四九〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	〇
富山分監建築費	七〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
中央氣象臺移轉改築費	三三六、三五八	八六、〇〇〇	九〇、〇〇〇	八六、三五八	〇	〇	〇
第十一高等工業學校創立費	七三〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	〇
第三高等農業學校創立費	六六〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一七三、五〇〇	一七三、五〇〇	一七三、五〇〇	一七三、五〇〇	〇
第六高等商業學校創立費	六四三、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一七九、〇〇〇	一八四、〇〇〇	一八四、〇〇〇	〇
東京貿易植民語學校創立費	五二三、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	三六、二五〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇
第九高等學校創立費	五五六、二〇〇	一一〇、〇〇〇	一五二、二〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇
第十高等學校創立費	五五六、二〇〇	一一〇、〇〇〇	一五二、二〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇
第十一高等學校創立費	五五六、二〇〇	一一〇、〇〇〇	一五二、二〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇
第十二高等學校創立費	五五六、二〇〇	一一〇、〇〇〇	一五二、二〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一四七、〇〇〇	〇
藥學專門學校創立費	四四二、〇〇〇	九六、〇〇〇	一七七、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一六九、〇〇〇	〇
東京京城間電信線路增設費	七二三、七九〇	三三四、八六四	三七七、九二六	〇	〇	〇	〇
チキウ岬航路標識新設費	七一、二〇〇	三一、一〇〇	四〇、五〇〇	〇	〇	〇	〇
電氣工業用發電水力調查費	八三〇、六七七	一九五、五四四	一八五、四〇三	一四三、一七九	一三二、一二八	〇	〇
無線電信局設置費	九六一、二八〇	一七一、一六〇	六一〇、一二〇	〇	〇	〇	〇
合計	一〇〇、七六五、六七〇	一九、六八〇、二六一	一五、三七一、五八六	一四、三九三、一六九	一〇、九二一、三三七	七、九一〇、三四四	三三、四四〇、一〇三

第二款　追加豫算

大正七年度總豫算に對する追加豫算は、第四十回帝國議會に於て四件、第四十一回帝國議會に於て二件提出せられたり。今其の內容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

第一　第四十回帝國議會提出追加豫算

(一)本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各八千四百萬圓にして、其の追加に要する事項金額左の如し。

歳入臨時部

山東鐵道收入	八、二一六、八一九円
青島事業收入	六二三、二〇八
臨時受託造修收入	六、〇五六、八〇五
戰時海上再保險收入	八、六八〇、五四五

右追加豫算は大正七年一月二十一日衆議院に提出せられしが、同院に於て戰時利得稅法案に修正を加へし結果、之に伴ひ二月九日政府は本追加豫算案に修正案を衆議院に提出したり。今之を原案に比較すれば左の如し。

款項	修正案	原案	比較增減（△）
歳入臨時部	三〇、三六九、四八八円	一九、八六七、八七四円	五一、六二四円
前年度繰入金	三〇、三六九、四八八	一九、八六七、八七四	五一、六二四
戰時利得稅	一八、〇五二、三五二円	一八、五五四、七四九円	△五二六、三九七円
戰時利得稅臨時部合計	一八、〇五二、三五二	一八、五五四、七四九	△五二六、三九七
戰時利得稅	八四、〇〇〇、〇〇〇	八四、〇〇〇、〇〇〇	〇

右追加豫算案は衆議院に於ては二月十二日、貴族院に於ては三月十二日何れも政府提出案の通可決せられしを以て、裁可を經て大正七年三月二十二日公布せられたり。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入六百七十七萬三千百二十四圓、歳出七百四十一萬二千五百四圓にして、其の追加を要する事項金額の重なるものを擧ぐれば左の如し。但し歳入歳出差引不足額六十三萬九千三百八十圓は、大正七年度歳入歳出總豫算に於ける歳入超過額を以て之を支辨するの計畫なり。

前年度繰入金	一九、八六七、八七四円
新に賦課すべき戰時利得稅收入	一八、五五四、七四九
借入金	二二、〇〇〇、〇〇〇

歳出臨時部

大正三年臨時事件豫備費	八四、〇〇〇、〇〇〇
樺太事業公債及借入金償却繰入	四一、五一九円

歳入臨時部

地所拂下代	六〇〇、〇〇〇
製藥用阿片拂下代	一、四〇〇、四〇〇
地方分擔納付金	四〇〇、〇〇〇
樺太事業費公債及繰替借入金	一、二〇三、一〇〇
前年度繰入金	三、一二八、一〇五

歳出經常部

內務省所管

製藥用阿片購買費	一、四〇〇、四〇〇

大藏省所管

貴衆兩院議員海外派遣費	四〇、〇〇〇
國債整理基金繰入	四一、五一九

歳出臨時部

外務省所管

東亞同文會事業費補助	三五一、三〇〇
同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇

內務省所管

淀川改修工事增補費	一、〇〇〇、〇〇〇
風水害復舊費	九八、七五〇円

大藏省所管

樺太事業公債金繰入	一、二〇三、〇〇〇

陸軍省所管

東京灣砲臺建築費	八五、〇〇〇
朝鮮師團營繕及初度調辨費	五二五、五四二
兵器製造所新設費	三〇〇、〇〇〇
在天津兵營其他水害復舊費	一四九、六七六
元屯田步兵救恤金	一三九、三二〇

海軍省所管

橫須賀鎭守府管內風水害復舊費	一九五、七二八
造兵廠工場火災復舊費	三九、八六五

司法省所管

大阪監獄建築費	四五〇、〇〇〇
京都地方裁判所區裁判所建築費	八〇、〇〇〇

文部省所管

高等工業學校擴張費	二五、四〇六
大學及學校圖書館臨時支出金	三六、七五一

遞信省所管

電信電話營繕費	一二二、一四〇

電信電話風水害其他復舊費	三九六、二八四円	電氣試驗所風水害及火災復舊費　四二、〇五五円
神戸郵便局火災復舊費	三一、九〇九	天津郵便局舍及官舍水害復舊費　七九、二八八

(三)本議會提出の第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各千二百八十八萬八千三百九十二圓にして、右は前年度繰入金を財源として之を臨時軍事費特別會計繰入の爲に支出せんとするものなり。

(四)本議會提出の第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各六萬六千九百八十八圓にして、右は前年度剰餘金繰入を財源と爲し、大藏省所管歳出經常部に於て貴族院令の改正に伴ひ議員增加に關する經費三萬七千七百四十五圓、內務省所管歳出臨時部に於て都市計畫調査會費二萬五千三百八圓、大藏省所管歳出臨時部に於て貴族院議員議席取擴費三千九百三十五圓を要求せるものなり。

右追加豫算三件の中第二號及第三號は大正七年三月十三日、第四號は同月十七日衆議院に提出せられしが、此等豫算案の內容に關し大藏大臣勝田主計は同月二十日貴族院に於て大要左の如く說明したり。

『大正七年度歳入歳出總豫算追加第二號に計上せる金額は、歳入六百七十餘萬圓、歳出七百四十餘萬圓にして、歳入歳出差引不足額六十餘萬圓は曩に協贊を經たる大正七年度總豫算に於ける歳入超過額を以て支辨するの計畫なり。玆に歳出の重なるものに就て說明すれば、製藥阿片として賣下ぐべき阿片購入の爲め阿片費に於て百四十餘萬圓を計上し、又昨年夏に於ける天津大洪水に依る被害の復舊費として外務省所管に於て七千餘圓、陸軍省所管に於て十四萬餘圓、遞信省所管に於て七萬餘圓を計上せり。尙昨年秋の暴風雨に依る被害復舊の爲め東京灣砲臺第三海堡復舊に關する經費總額三十三萬餘圓の中、大正七年度に於て八萬圓、橫須賀工廠建造物の復舊に關する經費十九萬餘圓、其の他電信電話線路、電氣試驗所及商船學校石垣等の復舊に要する經費四十餘萬圓を計上せり。東亞同文會に對して大正七年度以降四箇年度に亙りて總額五十八萬圓の補助を爲す計畫を立て、本年度に於て三十五萬餘圓を要求し、又同仁會に對して大正七年度以降三箇年度に亙りて總額三十萬圓を補助する計畫を立て、本年度に於て十萬圓を計上せり。澁川改修工事增補費に於て總額五百九十七萬圓を大正七年度以降六箇年度の繼續費とし、本年度に於て百萬圓を計上し、又朝鮮師團建築費に不足を生せしに依り之が追加額として五十二萬餘圓を計上せり。尙兵器製造所の新設費に不足を生せしを以て、總額百八十萬圓を大正七年度以降二箇年間に亙りて既定繼續費に追加するの計畫を立て、本年度に於て三十萬圓を計上したり。大阪監獄移轉建築費に於て總額百八十萬圓を大正七年度以降七箇年度の繼續費として、其の本年度分四十五萬圓を計上し、又京都地方裁判所區裁判所廳舍建築費に於て總額二十六萬圓を大正七年度以降三箇年度間の繼續費として、其の本年度分八萬圓を計上せり。此の外神戸郵便局其他火災復舊の爲め遞信省所管に於て三十七萬圓を計上せり。右歳出に對する財源としては官有物拂下代二百餘萬圓、澁川改修增補工事に伴ふ地方分擔納付金四十萬圓の外、前年度剰餘金繰入三百餘萬圓を計上せり。次に時局の進展に伴ひ臨時軍事費に於て二千五百餘萬圓の追加を必要とするに至りしが、其內譯は陸軍に於て約千九百九十萬圓、海軍に於て五百十六萬圓にして、之が財源としては前年度剰餘金を一般會計に繰入れ、之を臨時軍事費特別會計に繰入るの形式を採る必要上、一般會計追加豫算として歳入歳出を計上せるものにして、右總額二千五

百餘萬圓の追加の中、大正六年度追加豫算第二號に於て千二百十餘萬圓、大正七年度追加豫算第三號に於て千二百八十餘萬圓を要求せり。追加豫算第四號に計上する金額は歳入歳出各六萬六千餘圓にして、右は貴族院令改正の結果議員數を增加するに就き其の歳費竝に之に伴ふ經費として約四萬千六百圓、及都市計畫調査會を速に設置するの必要を認め其の經費として二萬五千餘圓を要求せるものにして、其の財源は全部前年度繰入金を以て之に充つるの計畫なり。』

右追加豫算案三件に關しては衆議院は同月十九日、貴族院は同月二十六日、何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十八日公布せられたり。

以上第四十回帝國議會の協贊を經たる總豫算追加四件を一括表揭すれば左の如し。

大正七年度歳入歳出總豫算追加表（一）

科目	金額	科目	金額	科目	金額
歳入		山東鐵道收入	八、二一六、八一九円	前年度繰入金	三六、四五二、九七三円
經常部		青島事業收入	六二三、二〇八	戰時利得稅	一八、〇五三、一三五
樺太廳特別會計ヨリ繰入	四一、五一九円	臨時受託造修收入	六、〇五六、八〇五	戰時利得稅	一八、〇五三、一三五
樺太事業公債及借入金償却繰入	四一、五一九	戰時海上再保險收入	八、六八〇、五四五	借入金	二二、〇〇〇、〇〇〇
臨時部		地方分擔納付金	四〇〇、〇〇〇	借入金	二二、〇〇〇、〇〇〇
官有物拂下代	二、〇〇〇、四〇〇	地方分擔納付金	四〇〇、〇〇〇	**臨時部合計**	一〇三、六八六、九八五
地所拂下代	六〇〇、〇〇〇	公債募集金	一、二〇三、一〇〇	**歳入總計**	一〇三、七二八、五〇四
製藥用阿片拂下代	一、四〇〇、四〇〇	樺太事業費公債及繰替借入金	一、二〇三、一〇〇	**歳出**	
雜收入	二三、五七七、三七七	前年度繰入金	三六、四五二、九七三	**經常部**	
內務省所管		同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇	大泊稅關支署廳舍其他風水害復舊費	二、五七二
衞生試驗所	一、四〇〇、四〇〇	**合計**	四五八、九六六	久慈稅務署廳舍新營及備品火災復舊費	一二、七七四
阿片費	一、四〇〇、四〇〇	**內務省所管**		大正三年臨時事件豫備費	八四、〇〇〇、〇〇〇
大藏省所管		河川改良費	一、〇〇〇、〇〇〇	大正三年臨時事件豫備費	八四、〇〇〇、〇〇〇
貴族院	五七、七四五	澱川改修工事增補費	一、〇〇〇、〇〇〇	臨時軍事費特別會計繰入	一二、八八八、三九二
議員諸費	五五、七五一	小笠原島殖產事業費	二〇、四一〇	臨時軍事費特別會計繰入	一二、八八八、三九二
事務費	一、九九四	水產經營費	二〇、四一〇	**合計**	九八、一一〇、七七三
衆議院	二〇、〇〇〇	災害費	九八、七五〇	**陸軍省所管**	
議員諸費	二〇、〇〇〇	府縣風水害旅費	二二、六〇五	砲臺建築費	八五、〇〇〇
國債整理基金繰入	四一、五一九	明治神宮御造營域內風損木復舊費	二五、九六一	東京灣砲臺建築費	八五、〇〇〇
國債整理基金繰入	四一、五一九	神奈川縣港務部建物其他風水害復舊費	五〇、一八四	朝鮮師團營繕及初度調辨費	五二五、五四二
合計	一一九、二六四	都市計畫調査會費	二五、三〇八	朝鮮師團營繕及初度調辨費	五二五、五四二
經常部合計	一、三一九、六六四	都市計畫調査會費	二五、三〇八	兵器製造所新設費	三〇〇、〇〇〇
臨時部		**合計**	一、一四四、四六八	兵器製造所新設費	三〇〇、〇〇〇
外務省所管		**大藏省所管**		災害費	二〇一、八七一
災害費	七、六六六	營繕費	三、九三五	防禦營造物風水害復舊費	一八、六四五
在天津總領事館水害復舊費	七、六六六	貴族院議員席取擴費	三、九三五	野砲兵第二十一聯隊火藥庫災害復舊費	三三、五五〇
東亞同文會事業費補助	三五一、三〇〇	特別會計事業公債金繰入	一、二〇三、一〇〇	在天津兵營其他水害復舊費	一四九、六七六
東亞同文會事業費補助	三五一、三〇〇	樺太事業公債金繰入	一、二〇三、一〇〇	元屯田步兵救恤金	一三九、三二〇
同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇	災害費	一五、三四六	元屯田步兵救恤金	一三九、三二〇

科目	金額
合計	一、三五一、七二三円
海軍省所管	
災害費	三三五、五九三
横須賀鎮守府管内風水害復舊費	一九五、七三八
造兵廠工場火災復舊費	三九、八六五
司法省所管	
營繕費	五三〇、〇〇〇
大阪監獄建築費	四五〇、〇〇〇
京都地方裁判所區裁判所建築費	八〇、〇〇〇
文部省所管	
營繕費	四五、四〇六
高等工業學校擴張費	
新營費	三〇、〇〇〇
大學及學校圖書館臨時支出金	
九州帝國大學支出金	
學校及圖書館支出金	
合計	
遞信省所管	
電信電話營繕費	三三〇、〇〇〇
電信電話營繕費	九〇、〇〇〇
營繕費	
新營費	三五、四〇六円
修繕費	二、四九九
災害費	八五三、三五二
電信電話風水害其他復舊費	三九九、三四四
電氣試驗所風水害及火災復舊費	四二、〇四五
商船學校風水害復舊費	三、九八五
天津郵便局舍及官舍水害復舊費	七九、三八六
神戸郵便局火災復舊費	三二、九〇九
合計	一、〇四四、三四〇
臨時部合計	一〇三、八八、三四〇
歳出總計	一〇四、三五七、八四四

新規繼續費表

第二　第四十一回帝國議會提出追加豫算

事項	總額	大正七年度	同八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度及同十三年度
淀川改修工事增補費	五、九七〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	九七〇、〇〇〇円
大阪監獄建築費	一、八〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
京都地方裁判所區裁判所建築費	三六〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	〇	〇	〇
合計	八、〇三〇、〇〇〇	一、五三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三三〇、〇〇〇	一、三六〇、〇〇〇	一、三六〇、〇〇〇	一、一八〇、〇〇〇

（一）本議會提出の第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各十萬圓にして、右は前年度繰入金を財源として大勳位李太王殿下國葬費の支出を必要とするに因るものなり。右追加豫算案は大正八年一月二十四日衆議院に提出せられしが、衆議院に於ては同月二十七日何れも異議なく之を可決せしを以て、貴族院に於ては同月二十七日公布せられたり。

（二）本議會提出の第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各七千八百九十六萬七千九百九十五圓にして、其の追加を要する事項金額の重なるものを擧ぐれば左の如し。

歳入臨時部

臨時受託造修收入	六五七、七一〇円
前年度繰入金	一二、九七一、九一〇
戰時利得稅收入	六五、三三八、三七五

歳出經常部

外務省所管

在外公館電信料	五〇、〇〇〇

内務省所管

警察費連帶支辨金	二、八一七、一六九

大藏省所管

貨幣交換差金	三一四、六六六
貴衆兩院議員旅費及議案類印刷費	五〇、五三二
稅關臨時勤勞手當及收容貨物處分費	五一、六六八
市町村交付金	一、一〇八、九一四円
諸拂戻及缺損補塡金	三、四八九、八八一

陸軍省所管

糧秣費	三、二八八、九一六
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	一四〇、〇四六

海軍省所管

共濟組合給與金	一八六、〇〇〇
下士兵卒家族扶助金	二〇、八九四

司法省所管

裁判及登記諸費	一〇一、九三五
在監人費	四九四、六五一

遞信省所管

諸拂戻金	七七二、三三八

歳出臨時部

大藏省所管

大正三年臨時事件豫備費	二一、〇〇〇、〇〇〇円
臨時軍事費特別會計繰入	一〇、五〇四、四八七
憲法發布三十年記念祝賀會補助	二〇、〇〇〇

陸軍省所管

軍隊官衙學校風水害復舊費	一四〇、一八〇円

海軍省所管

軍艦製造費	三〇、五三四、四五五
水陸設備費	一、九九九、五三〇
舊軍艦河内解船引揚費	五〇、〇〇〇
艦艇火藥庫改造費	一、七四〇、〇〇〇

右追加豫算案は大正八年一月二十九日衆議院に提出せられしが、衆議院は二月一日、貴族院は同月八日何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同月八日公布せられたり。

以上第四十一回帝國議會の協賛を經たる總豫算追加二件を一括表揭すれば左の如し。

大正七年度歳入歳出總豫算追加表（二）

科目	金額
歳入	
臨時部	
雜收入	六五七、七一〇円
臨時受託造修收入	六五七、七一〇
前年度繰入金	一三、〇七一、九一〇
前年度繰入金	一三、〇七一、九一〇
戰時利得税	六五、三三八、三七五
戰時利得税	六五、三三八、三七五
臨時部合計	七九、〇六七、九九五円
歳出	
經常部	
外務省所管	
在外公館	五〇、〇〇〇
電信料	五〇、〇〇〇
内務省所管	
地方廳	二、八一七、一六九
警察費連帶支辨金	二、八一七、一六九円
大藏省所管	
大藏本省	三二四、六六六
國庫金取扱及金融事項調査監督費	三二四、六六六
内閣	一三、七一三
俸給	三、〇三四
事務費	一〇、六七九
貴族院	七、五五三
議員諸費	二、五四三
事務費	五、〇〇九
衆議院	四二、九八〇
議員諸費	八、三八一
事務費	三四、五九九
税關	五一、六六八
雜給及雜費	三七、九三五
處分費	一三、七三三
内國税徴收費	一、一〇八、九一四
市町村交付金	一、一〇八、九一四
諸拂戻及缺損補塡金	三、四八九、八八一
諸拂戻及缺損補塡金	三、四八九、八八一
合計	五、〇二九、三七四
陸軍省所管	
軍事費	三、四二八、九六二
糧秣費	三、二八八、九一六
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	一四〇、〇四六
海軍省所管	
海軍本省	四、二九一
俸給	三、〇〇二
廳費及修繕費	三九〇
雜給及雜費	八九九
軍事費	二〇六、八九四
造船造兵及修理費	一八六、〇〇〇
扶助金	二〇、八九四
合計	三二一、一八五
司法省所管	
裁判所	一〇一、九三五
裁判及登記諸費	一〇一、九三五
監獄	四九四、六五一
在監人費	四九四、六五一
合計	五九六、五八六
遞信省所管	
遞信費	七七三、三三八
諸拂戻金	七七三、三三八
經常部合計	一三、九〇五、六一四
臨時部	
外務省所管	
營繕費	一九、〇〇〇
在外公館修築費	一九、〇〇〇
内務省所管	
災害費	三一、四九七
府縣風水害旅費	三一、四九七
大藏省所管	
大正三年臨時事件豫備費	二一、〇〇〇、〇〇〇
大正三年臨時事件豫備費	二一、〇〇〇、〇〇〇
臨時軍事費特別會計繰入	一〇、五〇四、四八七
臨時軍事費特別會計繰入	一〇、五〇四、四八七
國葬費	一〇〇、〇〇〇
國葬費	一〇〇、〇〇〇
貴族院及衆議院委員室備品其他設備費	八、三三三
貴族院及衆議院委員室備品其他設備費	八、三三三
憲法發布三十年記念祝賀會補助	二〇、〇〇〇
憲法發布三十年記念祝賀會補助	二〇、〇〇〇
合計	三一、六三三、七一九
陸軍省所管	
支那駐屯部隊費	二五、〇〇〇
支那駐屯部隊費	二五、〇〇〇
災害費	一四〇、一八〇
軍隊官衙學校風水害復舊費	一四〇、一八〇

科目	金額	科目	金額
合計	一二五、一八〇円	水陸設備費	一、九九九、五三〇円
海軍省所管		艦船救難及復舊費	五〇、〇〇〇
軍備補充費	三〇、三三四、四五五	舊軍艦河内解船引揚費	五〇、〇〇〇
軍艦製造費	三〇、三三四、四五五	艦艇火藥庫改造費	一、七四〇、〇〇〇
水陸設備費	一、九九九、五三〇	艦艇火藥庫改造費	一、七四〇、〇〇〇

以上第四十・四十一兩議會の協贊を經たる追加豫算を其の本豫算に加算して、大正七年度歳入歳出總豫算の總額を示せば左の如し。

大正七年度歳入歳出總豫算總計表

區分		本豫算額	第四十議會追加豫算額	第四十一議會追加豫算額	總計
歳入	經常部	六四二、六四一、五〇〇円	四一、五一九円	○円	六四二、六八三、〇一九円
	臨時部	七六、九三五、四七六	一〇三、六八六、九八五	七九、〇六七、九九五	二五九、六九〇、四五六
	合計	七一九、五七六、九七六	一〇三、七二八、五〇四	七九、〇六七、九九五	九〇二、三七三、四七五
歳出	經常部	四七八、五六三、六四二	一、五一九、六六四	一二、九〇五、六一四	四九二、九八八、九二〇
	臨時部	二四〇、三七三、九五四	一〇二、八四八、二二〇	六六、一六二、三八一	四〇九、三八四、五五五
	合計	七一八、九三七、五九六	一〇四、三六七、八八四	七九、〇六七、九九五	九〇二、三七三、四七五

第三款　豫備金及豫備金外支出

大正七年度第一豫備金の豫算額は二百萬圓にして、大正七年勅令第百四十三號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、衞生試驗所阿片費・海港檢疫費・傳染病豫防檢疫諸費・稅關臨時勤勞手當・陸軍精米精麥及馬糧費・受託造修費・海軍拂下圖誌製造費・船舶檢査審判臨檢旅費等なり。

大正七年度第二豫備金の豫算額は四百萬圓にして、豫算外に生じたる各費途に豫算全額を支出せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、臨時軍事費特別會計繰入補足・軍需局設置費・驅逐艦時津風救難及復舊費・軍艦河内遭難調査費・風水害復舊費・火災復舊費・羅州丸觸礁被害復舊費等なり。

大正七年度大正三年臨時事件豫備費の豫算額は一億五百萬圓にして、大正三年臨時事件に關する各費途に充用したる金額は一億二百八十萬二千四百五十一圓なり。

大正七年度第一豫備金及第二豫備金豫算拂切となりたるに付き、豫備金外に於て國庫剩餘金を以て豫算超過及豫算外の支出を爲したる金額は一億五千三百四十六萬二千二百五圓四十六錢にして內豫算超過支出額は千四百四十二萬九千六百五十圓四十六錢、豫算外支出額は九千二百三十四萬百十六圓なり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば豫算超過支出に屬するものは、檢丁及新兵旅費・貨幣交換差金・陸軍精米精麥及馬糧費・受託造修費・在監人費・遞信費諸拂戻金・遞信事業用證票及式紙類費等にして豫算外支出に屬するものは、山口縣災害土木費補助・警察官吏特別手當・臨時軍事費特別會計繰入補足・鹽粉碎洗滌工場其他新設費・舊軍艦河內解船引揚費・風水害復舊費・大正三年臨時事件に關

する經費等なり。

右大正七年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は大正九年二月十六日第四十二回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、之が總計算書を衆議院に提出せしが、同月二十六日衆議院の解散を命せられしを以て、更に大正九年七月十日第四十三回帝國議會に之を提出したり。之に對しては衆議院は同月十九日、貴族院は同月二十七日何れも全部承諾を與ふることに決定したり。

第四款　決　算

大正七年度の歳入歳出總決算に計上する所の經常部歳入額は九億千百五十七萬九千四百十二圓五十五錢一厘、臨時部歳入額は五億六千七百五十三萬六千四百九圓二十五錢六厘、歳入合計十四億七千九百十一萬五千八百二十一圓八十錢七厘にして、之に對する經常部歳出額は四億九千十六萬七千百三十九圓十四錢六厘、臨時部歳出額は五億二千六十億千七百三萬五千五百七、十四圓十八錢なり。故に歳入歳出差引四億六千二百八萬二百四十七圓六十二錢七厘の剩餘を生じたり。該剩餘金は會計法第二十條に依り之を大正八年度の歳入に繰入れたり。今右歳入歳出決算を豫算に比較して其の大要を說明すれば左の如し。

第一　歳　入

大正七年度歳入の決算額十四億七千九百十一萬五千八百二十一圓八十錢七厘を以て、其の豫算額九億二百三十七萬三千四百七十五圓に對比すれば、五億七千六百七十四萬二千三百四十六圓八十錢七厘を增加せり。今之を經常臨時に區分すれば經常部歳入の決算額は九億千百五十七萬九千四百十二圓五十五錢一厘にして、之を其の豫算額六億四千八百八十九萬六千三百九十三圓五十五錢一厘を增加し、臨時部歳入の決算額は五億六千七百五十三萬六千四百九圓二十五錢六厘にして、之を其の豫算額二億五千九百六十九萬四百五十六圓に對比すれば三億七百八十四萬五千九百五十三圓二十五錢六厘を增加せり。今歳入の增減を生じたる重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）　經常部

租稅は所得金額の多かりしが爲め所得稅の收入增加せしと、酒類造石高の多かりし等の爲め酒稅の收入增加せしと、有稅品の輸入多かりし等の爲め關稅の收入增加せしと、其の他砂糖消費稅、營業稅、鑛業稅、通行稅、取引所稅、兌換銀行券發行稅及相續稅等の收入增加せしとに依り、一億五千九十二萬五千百一圓六十五錢七厘を增加せり。

印紙收入は收入印紙等賣捌代の收入多かりしに依り、二千七百五十三萬四千百二圓二十二錢六厘を增加せり。

官業及官有財產收入は製鐵所に於ける製品販賣價格の昂騰せし等の爲め製鐵所益金の增加せしと、切手賣捌代、葉書類賣捌代、海外電報料及電話料の收入多かりし等の爲め郵便電信及電話收入の增加せしと、專賣品賣捌代金の收入多かりし等の爲め專賣局益金の增加せしと、其の他森林收入、大阪砲兵工廠益金、東京砲兵工廠益金、囚徒工錢及製作收入等の增加せしとに依り、八千八百九十一萬六千五十三圓三十二錢四厘を增加せりと雖も、海軍工廠資金益金及配當金收入の減少せしに依

り五十三萬千八百九十三圓三錢二厘を減少せしを以て、差引八千八百三十八萬四千百六十圓二十九錢二厘を增加せり。

雜收入は雜入・辨償及違約金等の收入增加せしに依り三百八十萬五千八百七十五圓七十六錢一厘を增加せり。

預金特別會計より繰入は郵便貯金に係る利子の仕拂に要する繰入少かりし等に依り百四十四萬八千四百十九圓五十二錢九厘を減少せり。

臺灣總督府特別會計より繰入は、事業公債及借入金利子の仕拂に要する繰入少かりしに依り二十六萬三千五百十九圓八十五錢六厘を減少せり。

樺太廳特別會計より繰入は、事業公債利子等の仕拂に要する繰入少かりしに依り四萬九百七圓を減少せり。

（二）臨時部

官有物拂下代は物品・家畜及船舶拂下代等の收入增加せしに依り百七十二萬八千四圓九十四錢を增加せりと雖も、地所拂下代及製藥用阿片拂下代の收入減少せしに依り百三十二萬四千二百七十三圓三十五錢を減少せしを以て、差引四十萬三千七百三十一圓五十九錢を增加せり。

雜收入は戰時海上再保險收入・利子收入・山東鐵道收入及海軍受託造修收入等の增加せしに依り三千五百三十七萬二千九百十四圓十一錢を增加せり。

地方分擔納付金は治水費に係る分擔納付金の收入多かりしに依り二萬七百五十圓を增加せり。

公債募集金は公債支辨に係る臺灣事業費の財源に充用すべき公債募集金多かりしが爲め、臺灣事業費公債及繰替借入金・朝鮮事業公債及繰替借入金竝樺太事業公債及繰替借入金の減少せしに依り七十二萬三千八百五十五圓九十七錢二厘を減少せしを以て、差引九十一萬六千百四十四圓二錢八厘を增加せり。

森林資金繰入は國有林野經營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること多かりしに依り五萬千二百三十二圓五錢八厘を增加せり。

陸軍營繕費補充資金繰入は營繕費及土地建造物利用費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりし等に依り二十二圓七十七錢を減少せり。

特別會計資金繰入は新營費の財源に充用すべき資金の繰入を要すること少かりしに依り一萬五千圓を減少せり。

帝國學士院學術研究奬勵金受入は寄付金の收入多かりしに依り五千圓を增加せり。

獻納金は學校建築費獻納金の收入少かりしに依り二十九萬七千圓を減少せり。

前年度繰入金は歳計剩餘金の繰入多かりしに依り二億七千三百十九萬三百六十九圓十三錢を增加せり。

戰時利得稅は利得金額少かりしに依り百八十萬二千百六十四圓八十九錢を減少せり。

第二　歳　出

大正七年度歳出の決算額十億千七百三萬五千五百七十四圓十八錢を以て其の豫算額九億二百三十七萬三千四百七十五圓に對比すれば、一億千四百六十六萬二千九十九圓十八錢を增加せり。今之を經常臨時に區分すれば經常部歳出の決算額は四億九千十六萬七千百三十九圓十四錢六厘にして

之を其の豫算額四億九千二百九十八萬八千九百二十圓に對比すれば二百八十二萬千七百八十圓八十五錢四厘を減少し、臨時部歲出の決算額は五億二千六百八十六萬八千四百三十五圓三錢四厘にして、之を其の豫算額四億九百三十八萬四千五百五十五圓に對比すれば一億千七百四十八萬三千八百八十圓三錢四厘を增加せり。

大正七年度歲出豫算額は九億二百三十七萬三千四百七十五圓なるも、豫算決定後に於て會計法第二十一條、第二十二條及明治四十四年法律第二號に依り、前年度の殘額を本年度に繰越したるが爲め四千九百五十萬千九百二十三圓六十七錢三厘、國庫豫備金外に臨時支出を爲したるものありしが爲め一億五千三百四十六萬二千二百五圓四十六錢を增加せり。依て右歲出豫算額及豫算決定後增加額を合計すれば十一億五百三十三萬七千六百四圓十三錢三厘にして、同年度支出濟額は十億千七百三萬五千五百七十四圓十八錢同年度に於て支出を終らすして翌年度に繰越したる金額は六千二百七十九萬七千三百六十三圓十三錢九厘なるを以て、差引二千五百五十萬四千六百六十六圓八十一錢四厘の不用額を生せり。今翌年度繰越及豫算不用に係る重要の事項を擧ぐれば左の如し。

（一）翌年度繰越

艦船及兵器の製造修理營繕土木の工事、航海の補助、陸海軍の演習其の他林野の經營等に關し、時局の影響に依り物品の供給意の如くならざりしと、天候不良其の他避くべからざる事故に依り事業を遲延し、又は豫定の計畫を遂行すること能はざるものありし等との爲め、年度內支出を終らざりし經費にして、會計法第二十一條に依り翌年度に繰越したる金額は千六百四十八萬六百三十一圓二十錢九厘なり。

製鐵所の擴張、軍艦及兵器の製造、河川及港灣の修築其の他營繕工事等の繼續事業にして、時局の影響に依り物品の供給意の如くならざりしと、天候不良其の他の事故に依り豫定の如く事業進行せざるものありしとの爲め、會計法第二十二條に依り翌年度に繰越したる金額は四千四百三萬千七百十圓六錢なり。

公共團體の經營に係る工事の經費に對する補助にして年度內支出を終らざりし爲め、明治四十四年法律第二號に依り翌年度に繰越したる金額は二百二十八萬五千二十一圓八十七錢なり。

以上翌年度繰越額の合計は六千二百七十九萬七千三百六十三圓十三錢九厘なり。

（二）豫算不用

俸給及地所家屋借料等の支出少かりしが爲め、在外公館の經費に於て不用に歸したる金額は七十三萬千八百八十圓四十八錢一厘、阿片費等の支出少かりしが爲め、衞生試驗所の經費に於て不用に歸したる金額は六十五萬五千二百六圓二十九錢、預金利子の支出少かりしが爲め、預金利子及手數料に於て不用に歸したる金額は百四十四萬八千四百十九圓五十二錢九厘、大藏省證券の發行を要せざりし等の爲め、國債整理基金繰入に於て不用に歸したる金額は三百六萬九千五百八十圓五十錢五厘、俸給及糧秣費等の支出少かりしが爲め、陸海軍軍事費及憲兵費に於て不用に歸したる金額は四百四十六萬五千三十七圓七十四錢二厘、年金及恩給の支出少かりしが爲め、年金及恩給に於て不用に歸したる金額は六十六萬三千九十九圓四十四錢、造船奬勵及航路擴張に關する補助金の支出少かりしが爲め、補助費に於て不用に歸したる金額は四百二十四萬二千三百八十四圓九十三錢、臨時事件費の支出を要すること少かりしが爲め、大正三年臨時事件豫備費に於て不用に歸した

る金額は二百十九萬七千五百四十九圓、其の他諸般の經費に於て不用に歸したる金額は八百三萬千五百八圓八十九錢七厘にして、以上豫算不用額の合計は二千五百五十萬四千六百六十六圓八十一錢四厘なりとす。

大正七年度に於て大藏省證券發行最高額は五千萬圓の豫定なりしも、實際之が發行を爲さず。

今大正七年度決算額を其の豫算額と對照すれば左の如し(圓位以下切捨)。

大正七年度歲入歲出決算額豫算額對照表

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
歲入			
經常部			
租税	五一九、二九二、八五九円	三六八、三六七、七五八円	一五〇、九三五、一〇一円
地租	七三、五三七、四九九	七三、二七五、七八九	二五一、七一〇
所得税	一二三、八一七、二五六	六六、四六二、〇九五	五六、三五五、一六一
營業税	三四、三七五、四六七	二六、二〇七、二六八	八、一六八、一九九
相續税	四、六二八、三〇六	三、六〇三、八五一	一、〇二四、四五五
通行税	七、三八七、四八〇	五、二五四、一七五	二、一三三、三〇五
鑛業税	八、八三八、九八七	三、八六〇、二四六	四、九七八、七四一
兌換銀行券發行税	二、二三一、六九五	八九六、二三七	一、三三五、四五八
酒税	一二〇、六三五、二〇七	九四、六二二、五七八	二六、〇一三、六二九
醬油税	五、三五〇、八四六	五、二八三、四八〇	六七、三六六
砂糖消費税	三六、三五三、六八三	二六、五〇九、四七三	九、八四四、二〇九
織物消費税	二三、三〇七、一三八	一七、九二三、五四一	五、三八四、五九七
石油消費税	九七九、三九一	九四二、三九一	三七、〇〇〇
賣藥營業税	二五八、六九六	二二七、七六二	三〇、九三四
取引所税	九、〇六五、〇一八	七、四九一、六九八	一、五七三、三二〇
關税	六八、九三七、七七九	三五、二三八、四六〇	三三、六九九、三一九
噸税	六〇八、四〇五	五七〇、七一四	三七、六九一
印紙收入	六五、三一三、〇九八	三七、七七七、九九六	二七、五三五、一〇二
印紙收入	六五、三一三、〇九八	三七、七七七、九九六	二七、五三五、一〇二
官業及官有財產收入	二八八、〇九九、三三六	一九九、七一五、一六六	八八、三八四、一七〇
郵便電信及電話收入	一〇六、六二六、二五七	八七、七四七、六〇三	一八、八七八、六五四
森林收入	二五、六一四、八〇三	一三、七三九、四八七	一一、八七五、三一六

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
配當金收入	二、六九〇、〇〇〇	二、八二三、八八一	△一三三、八八一
囚徒工錢及製作收入	二、八三九、五四五	一、五三九、八六五	一、二九九、六八〇
官有物貸下料	四五八、四一七	三二〇、七二四	一三七、六九三
印刷局益金	一、〇六一、〇五四	六七五、五五〇	三八五、五〇四
專賣局益金	八九、五一五、五五六	七一、九九一、九八二	一七、五二三、五七四
東京砲兵工廠益金	二、七五一、四八六	五〇、〇〇〇	二、七〇一、四八六
大阪砲兵工廠益金	六、〇六六、四八四	七、〇〇〇	六、〇五九、四八四
千住製絨所益金	三二、九六二	二、九四六	三〇、〇一六
海軍採炭所益金	一〇〇、二六八	八七、三〇三	一二、九六五
海軍工廠資金益金	六六五、一九二	一、〇二四、二〇五	△三五九、〇一三
製鐵所益金	四九、七三七、二九六	二〇、七〇五、六二〇	二九、〇三一、六七六
雜收入	七、四六一、六五一	三、六五五、七七六	三、八〇五、八七五
免許及手數料	三三九、一二七	二三〇、八〇四	一〇八、三二三
懲罰及沒收金	一、二四四、一二八	八五一、四〇一	三九二、七二七
辨償及違約金	一、七一三、二六九	五四一、四五六	一、一七一、八一三
税關雜收入	三五四、五八六	一八〇、二四四	一七四、三四二
雜入	二、六二三、四三六	七三四、七八九	一、八八七、六四七
官吏遺族扶助法納金	四一八、四九八	三八八、七四五	二九、七五三
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	二一二、六四三	一九八、九七一	一三、六七二
一年志願兵及幼年學校自費生納金	五六三、八五九	五三六、四〇〇	二七、四五九
小笠原島地方收入	三、一〇二	二、九六六	一三六
預金特別會計ヨリ繰入	二一、〇五〇、九二三	二二、四九九、三四三	△一、四四八、四二〇
預金利子繰入	二〇、九九三、五〇八	二二、四三三、六七〇	△一、四四〇、一六二
利子拂手數料繰入	五七、四一三	六五、六七二	△八、二五九
朝鮮總督府特別會計ヨリ繰入	七、六七四、六九一	七、六七四、六九一	〇
朝鮮事業公債及借入金償却繰入	七、六七四、六九一	七、六七四、六九一	〇
臺灣總督府特別會計ヨリ繰入	二、六八七、二五一	二、九五〇、七七一	△二六三、五二〇
臺灣事業公債及借入金償却繰入	二、六八七、二五一	二、九五〇、七七一	△二六三、五二〇
樺太廳特別會計ヨリ繰入	六一二	四一、五一九	△四〇、九〇七
樺太事業公債及借入金償却繰入	六一二	四一、五一九	△四〇、九〇七
經常部合計	**九二一、五七九、四一三**	**六四二、六八三、〇一九**	**二七八、八九六、三九三**
臨時部			
官有物拂下代	六、一二四、九三九	五、七二一、二〇八	四〇三、七三一
鑛山拂下代	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇
地所拂下代	一、七五〇、一九一	二、五〇三、八四四	△七五三、六五三
建物拂下代	一〇〇、一〇四	二九、二五〇	七〇、八五四
工場拂下代	一四、二〇〇	一四、二〇〇	〇
物品拂下代	二、六八七、七九三	一、五二八、七四〇	一、一五九、〇五三
船舶拂下代	二七四、八二四	三一、〇六五	二四三、七五九
家畜拂下代	四六三、〇四七	二〇七、七〇九	二五五、三三八

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
製藥用阿片拂下代	八二八、七七八円	一、四〇〇、四〇〇円	△五七一、六二二円
雜收入	六七、六二八、一一四	三二、二五五、二〇〇	三五、三七二、九一四
海軍受託造修收入	七七五、六九八	三七四、七一八	四〇〇、九八〇
航路標識管理所受託造修收入	五六、五九五	一四、二五〇	四二、三四五
返納金	八六四、一九九	四九二、九八三	三七一、二一六
利子收入	一七、一〇九、四五六	七、一三八、一六二	九、九七一、二九四
山東鐵道收入	一〇、五七〇、四四九	八、二一六、八一九	二、三五三、六三〇
青島事業收入	七八五、四七三	六二三、二〇八	一六二、二六五
臨時受託造修收入	八、五七五、〇六〇	六、七一四、五一五	一、八六〇、五四五
戰時海上再保險收入	二八、八九一、一七九	八、六八〇、五四五	二〇、二一〇、六三四
地方分擔納付金	四、三一四、〇〇〇	四、二九三、二五〇	二〇、七五〇
地方分擔納付金	四、三一四、〇〇〇	四、二九三、二五〇	二〇、七五〇
港灣修築費納付金	七五五、〇〇〇	七五五、〇〇〇	〇
港灣修築費納付金	七五五、〇〇〇	七五五、〇〇〇	〇
河川改修費納付金	九九〇、〇〇〇	九九〇、〇〇〇	〇
河川改修費納付金	九九〇、〇〇〇	九九〇、〇〇〇	〇
公債募集金	二八、三五五、一三二	二七、四三八、九八八	九一六、一四四
朝鮮事業費公債及繰替借入金	一三、〇九八、〇八五	一三、二三五、八八八	△一三七、八〇三
臺灣事業費公債及繰替借入金	四、六四〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、六四〇、〇〇〇

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
電話事業公債及繰替借入金	九、五二五、〇四六円	一〇、〇〇〇、〇〇〇円	△四七四、九五四円
樺太事業費公債及繰替借入金	一、〇九二、〇〇〇	一、二〇三、一〇〇	△一一一、一〇〇
森林資金繰入	三、九五二、九七八	三、九〇一、七四六	五一、二三二
森林資金繰入	三、九五二、九七八	三、九〇一、七四六	五一、二三二
陸軍營繕費補充資金繰入	五二四、九七七	五二五、〇〇〇	△二三
陸軍營繕費補充資金繰入	五二四、九七七	五二五、〇〇〇	△二三
特別會計資金繰入	三五五、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	△一五、〇〇〇
學校及圖書館資金繰入	三五五、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	△一五、〇〇〇
帝國學士院學術研究獎勵金受入	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇
賞典費下賜金	二、〇〇〇	二、〇〇〇	〇
寄付金	二三、〇〇〇	一八、〇〇〇	五、〇〇〇
獻納金	一、〇二〇、一〇〇	一、三一七、一〇〇	△二九七、〇〇〇
學校建築費獻納金	一、〇〇〇、六〇〇	一、二九七、六〇〇	△二九七、〇〇〇
裁判所建築費獻納金	一九、五〇〇	一九、五〇〇	〇
前年度繰入金	三四九、九〇一、八二三	七六、七一一、四五四	二七三、一九〇、三六九
前年度繰入金	三四九、九〇一、八二三	七六、七一一、四五四	二七三、一九〇、三六九
戰時利得稅	八一、五八九、三四五	八三、三九一、五一〇	△一、八〇二、一六五
戰時利得稅	八一、五八九、三四五	八三、三九一、五一〇	△一、八〇二、一六五
借入金	三二、〇〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇、〇〇〇	〇

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
借入金	三二、〇〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇、〇〇〇	〇
臨時部合計	五六七、五三六、四〇九	二五九、六九〇、四五六	三〇七、八四五、九五三
歳入總計	一、四七九、一一五、八二一	九〇二、三七三、四七五	五七六、七四二、三四六
歳出			
經常部			
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	〇
外務省所管			
外務本省	七一一、八一三	八五三、四八九	△一四一、六七六
在外公館	四、〇七七、二四九	四、九三一、〇七二	△八五三、八二三
諸支出金	三一、七九四	三二、一五二	△三五八
合計	四、八二〇、八五八	五、八一六、七一三	△九九五、八五五
內務省所管			
神宮費	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	三六四、八一七	三六五、〇四八	△二三一
內務本省	四三八、六八八	四四一、〇五七	△二、三六九
衛生試驗所	一、〇四九、四六四	一、五六九、一八二	△五一九、七一八
地方廳	一三、二六九、九〇七	一三、二二六、八九九	四三、〇〇八
徵兵費	八〇二、三一五	五九二、八七九	二〇九、四三六
軍事救護費	五四二、四五五	七六九、九一九	△二二七、四六四
國立感化院費	二六、三四七	三六、五〇八	△一〇、一六一

科目	決算額	豫算額	比較増減(△)
警察講習所費	三一、八八九	三一、九〇三	△一四
補助費	八八九、二九三	八二四、六四七	六四、六四六
諸支出金	三三二、三三五	三三三、五八五	△一、二五〇
（元大藏省所管）			
橫濱港維持費	一六〇、〇六三	一六〇、二六七	△二〇四
合計	一七、九二七、四七七	一八、三七一、八九四	△四四四、四一七
大藏省所管			
大藏本省	一、四七五、一八九	一、三二八、七八三	一四六、四〇六
預金利子及手數料	三一、〇五〇、九二三	三二、四九九、三四三	△一、四四八、四二〇
內閣	五四八、五一七	五四八、五九八	△八一
樞密院	一四六、六六一	一五八、〇九〇	△一一、四二九
貴族院	七八六、四八二	八二一、一六二	△三四、六八〇
衆議院	九六五、四四三	九七六、八二四	△一一、三八一
會計檢査院	二一三、一〇九	二一三、一一〇	△一
行政裁判所	七三、五三一	七三、〇八四	四四七
稅關	一、六六五、八八八	一、四三七、八七九	二二八、〇〇九
內國稅徵收費	一〇、七七九、〇二九	一一、一七七、八七八	△三九八、八四九
釀造試驗費	七七、六八〇	七七、七一三	△三三
諸拂戾及缺損補塡金	一一、五三三、八八四	一一、五三六、〇四四	△二、一六〇
國債整理基金繰入	一三六、五七六、六六七	一三九、六四六、二四八	△三、〇六九、五八一

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
臺灣關稅諸收入繰入	一、三五〇、八六四円	一、三五〇、八六四円	〇円
煙草專賣益金樺太廳特別會計繰入	一四四、一一三	一四四、一一三	〇
諸支出金	七一、七七五	六九、〇六六	二、七〇九
國庫豫備金	〇	六、〇〇〇、〇〇〇	△六、〇〇〇、〇〇〇
合計	一八七、四五九、七六〇	一九八、〇五九、七九八	△一〇、六〇〇、〇三八
陸軍省所管			
陸軍本省	四四九、六〇九	四二九、八八六	一九、七二三
軍事費	八八、五三一、二六四	八一、五五六、九一一	六、九七四、三五三
憲兵費	三、五〇五、九六六	三、四三二、五一七	七三、四四九
癈兵院	三九、七七八	三九、七九六	△一八
馬政局	一、八五二、七五〇	一、九二八、二七七	△七五、五二七
靖國神社寄付金	七、五五〇	七、五五〇	〇
諸支出金	五三一、四三四	四二八、三六一	一〇三、〇七三
合計	九四、九一八、三三三	八七、八二三、二九八	七、〇九五、〇三五
海軍省所管			
海軍本省	三三三、〇一五	三三七、四九〇	△四、四七五
軍事費	五四、二三一、四一四	五四、四八一、二五四	△二五九、八四〇
諸支出金	五八、〇三一	二三、九一一	三五、一二〇
合計	五四、六〇二、四六一	五四、八三一、六五五	△二三九、一九四

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
司法省所管			
司法本省	一二七、六六五円	一二七、九〇一円	△二三六円
裁判所	七、四二三、〇五五	七、三八二、六三七	四〇、四一八
監獄	八、二八六、九五三	六、五五五、三三〇	一、七三一、六二三
諸支出金	六一、二六八	五九、四五三	一、八一六
合計	一五、八九八、九四二	一四、一二五、三二〇	一、七七三、六二二
文部省所管			
文部本省	六三一、七五五	六四〇、五二一	△八、七六六
中央氣象臺	七六、六七九	七六、七一七	△三八
緯度觀測所	九、五一七	九、五一八	△一
醫師及藥劑師試驗費	六〇、〇一五	六〇、二六九	△二五四
大學及學校圖書館支出金	六、七六七、九二八	六、七五九、八九三	八、〇三五
普通教育費	一三、四九九、二二四	一三、五〇〇、〇〇〇	△七七六
實業教育費	三一九、一九八	三一九、六三〇	△四三二
獎勵費	一四九、九八六	一五〇、〇〇〇	△一四
古社寺保存補助及補給費	一四九、九八四	一五〇、〇〇〇	△一六
諸支出金	一、八七九	二、九二五	△一、〇四六
合計	二〇、六五六、一七〇	二〇、六五九、四六三	△三、二九三
農商務省所管			

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
農商務本省	五八〇、二〇九	五八七、七一二	△七、五〇三
特許局	一九三、一七五	一九六、二八六	△三、一一一
森林費	五、〇一五、九〇二	四、八〇六、三二三	二〇九、五七九
鑛務署	三七五、七三八	三七八、三四五	△二、六〇七
農事試驗場	一七三、四六八	一七四、〇七六	△六〇八
水産講習所	一七〇、三三九	一七〇、八三九	△五一〇
生絲檢査所	八八、〇八五	八九、一六一	△一、〇七六
畜産改良費	一八八、〇五〇	一八八、七一三	△六六三
工業試驗所	二五八、一六一	二七六、七七〇	△一八、六〇九
花莚檢査所	五四、六一一	五五、一五六	△五四五
蠶業試驗場	三七二、〇二八	三七三、三九六	△一、三六八
植物檢査所	三八、〇五三	三八、七五六	△七〇四
絹業試驗所	四八、一三九	五〇、四一四	△二、二七五
補助費	五四八、八七七	五四八、八九七	△二〇
諸支出金	七八、八八九	七七、五二六	一、三六三
合計	八、一八三、七二〇	八、〇一三、三七〇	一七一、三五〇
遞信省所管			
遞信本省	七〇九、〇三二	七一三、六二九	△四、五九七
遞信費	四二、一九二、六四〇	四一、一二四、四七四	一、〇六八、一六六
航路標識費	四〇五、八四四	四〇六、六四一	△七九七

科目	決算額	豫算額	比較增減（△）
商船學校	二〇四、二八〇	二〇四、四六六	△一八六
年金及恩給	三七、六二七、六六一	三八、二九〇、七六一	△六六三、一〇〇
諸支出金	五九、九三四	四八、五四八	一一、三八六
合計	八一、一九九、三九三	八〇、七八八、五一九	四一〇、八七四
經常部合計	四九〇、一六七、一三九	四九二、九八八、九二〇	△二、八二一、七八一
臨時部			
外務省所管			
營繕費	一九六、三八一	二四七、八〇〇	△五一、四一九
在外公館移轉費	一二、八四三	二五、〇八〇	△一二、二三七
在外公館創立費	一一〇、〇九五	一三七、五〇〇	△二七、四〇五
災害費	七、四一五	七、六六六	△二五一
東亞同文會事業費補助	三五一、三〇〇	三五一、三〇〇	〇
同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〇
大正三年臨時事件費	五、二六五、四〇三	〇	五、二六五、四〇三
臨時外國行諸費	二九、〇一三	〇	二九、〇一三
合計	六、〇七二、四五二	八六九、三三六	五、二〇三、一一六
內務省所管			
補助費	二、四四五、八七四	三、二九五、〇〇〇	△八四九、一二六
治水事業費	一三、九〇八、五五〇	一四、六五六、七七〇	△七四八、二二〇
河川改良費	四八二、二五五	二、〇九二、五〇〇	△一、六一〇、二四五

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
港灣改良費	一、一一五、八七四円	一、五二五、〇〇〇円	△四〇九、一二六円
道路港灣調査費	四〇、五六〇	四〇、〇〇〇	五六〇
北海道拓殖費	五、五七三、七六四	五、六〇四、五五五	△三〇、七九一
營繕費	五二九、三三九	三五六、三五七	一七二、九八二
造神宮使廳	一五、六八五	一五、八二六	△一四一
明治神宮御造營費	六〇〇、八二一	九〇五、八八七	△三〇五、〇六六
明治神宮外苑工事施行費	二九、三二一	三〇、一五〇	△八二九
臨時神社費	二七五、七八一	二七五、七八一	〇
神職養成及神社調査費	九、九四八	一〇、〇〇〇	△五二
傳染病豫防費	三六八、〇七一	二四五、〇九六	一二二、九七五
醫藥品製造奬勵費	三二一、一三〇	三三一、四一五	△一〇、二八五
保健衛生調査及衛生事業奬勵費	三八、六六一	三九、三八〇	△七一九
藥用植物試驗費	三、三三四	三、五〇六	△一七二
小笠原島殖産事業費	六九、七八二	七〇、〇八六	△三〇四
伊豆七島水產經營費	四、九五〇	八一、三三一	△七六、三八一
沖繩縣輕便鐵道建設費補給	九八、一一四	一〇〇、〇〇〇	△一、八八六
縣債利子補給	四五八、二〇三	四八四、七三四	△二六、五三一
橫濱市稅補給	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	〇
災害復舊貸付金	二六五、〇〇〇	二六五、〇〇〇	〇
災害費	九三〇、二八八円	一二〇、二四七円	八一〇、〇四一円
都市計畫調査會費	二五、二八八	二五、三〇八	△二〇
大正三年臨時事件費	三、三〇三、七一七	〇	三、三〇三、七一七
地方廳臨時諸費	一七、四三九	〇	一七、四三九
特別給與	二八二、七〇九	〇	二八二、七〇九
臨時事務費	三三、二四三	〇	三三、二四三
（元大藏省所管）			
營繕費	七六一、二一一	五八〇、三六七	一八〇、八四四
災害費	九、八一三	〇	九、八一三
大正三年臨時事件費	一、〇三六	〇	一、〇三六
合計	三一、一一七、七五三	三〇、二五三、一八六	八六四、五六七
大藏省所管			
罹災救助基金補助	三〇、八七九	三三、九六八	△三、〇八九
營繕費	三、八七四、二一六	三、六六三、七三一	二一〇、四八五
海外駐剳財務官費	二二八、四〇二	二三五、九一五	△七、五一三
臨時秩祿處分調査費	八、〇二五	八、〇五〇	△二五
臨時教育會議諸費	二七、〇〇〇	二七、〇〇〇	〇
特別會計事業公債金繰入	一八、八三〇、〇八五	一七、四三八、九八八	一、三九一、〇九七
特別會計經費補充金	五、〇〇七、〇〇〇	五、〇〇七、〇〇〇	〇

科目	決算額	豫算額	比較增減(△)
內閣圖書保存費	六、七〇三	八、八九八	△二、一九五
田畑地價調査費	二九一、八二四	三〇〇、〇〇〇	△八、一七六
軍人恩給更正諸費	一四、一九八	一七、九三一	△三、七三三
國勢調査費	二八、九七七	九四、八一四	△六五、八三七
官有財產調査費	二三、二七六	二七、七七一	△四、四九五
森林資金返償	二、一九三、八三〇	二、一九三、八三〇	〇
朝鮮總督府特別會計繰入	六五〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	〇
大正三年臨時事件豫備費	〇	一〇五、〇〇〇、〇〇〇	△一〇五、〇〇〇、〇〇〇
災害費	一〇〇、三八三	一五、三四六	八五、〇三七
臨時軍事費特別會計繰入	一一五、四二三、八五八	二三、三九二、八七九	九二、〇三〇、九七九
國葬費	九四、八五八	一〇〇、〇〇〇	△五、一四二
貴族院及衆議院委員室備品其他設備費	八、一二三	八、二三二	△一〇九
憲法發布三十年記念祝賀會補助	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	〇
大正三年臨時事件費	六、一九六、四三七	〇	六、一九六、四三七
米澤稅務署廳舍新營及土地臺帳其他火災復舊費	三、一六八	〇	三、一六八
大禮記錄編纂諸費	二八、六〇四	〇	二八、六〇四
軍需局	六二、四九二	〇	六二、四九二
公債端金	一七、二九三	〇	一七、二九三
鹽粉碎洗滌工場其他新設費	九四五、八四六	〇	九四五、八四六
合計	一五四、一二四、四八四	一五八、二三四、二五三	△四、一〇九、七六九
陸軍省所管			
砲臺建築費	三六〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇	〇
營繕費	一、八七一、九二三	一、九五〇、一三四	△七八、二一一
土地建造物整理費	四八五、一六一	六六〇、〇〇〇	△一七四、八三九
整備費	六、八六七、二六五	七、七〇七、五二八	△八四〇、七六四
軍備充實費	三、七六二、六七八	七、九八八、七三二	△四、二二六、〇五四
朝鮮師團營繕及初度調辨費	三、四三〇、一一四	三、六二二、六四四	△一九二、五三〇
航空隊設備費	七二三、二六〇	二三八、二一二	四八五、〇四八
機關銃隊充備費	四八八、三三六	四〇九、四七二	七八、八六四
山砲兵隊充備費	二九五、四三二	二三三、八五三	六一、五七九
臺灣營舍營繕及初度調辨費	二九八、七二二	三〇〇、〇〇〇	△一、二七八
兵器製造所新設費	二、二九六、七〇五	二、三〇〇、〇〇〇	△三、二九五
土地建造物利用費	七四、八六六	七五、〇〇〇	△一三四
軍用氣球研究費	八三一、一五三	九〇〇、〇〇〇	△六八、八四七
無線電信研究費	七一、一八六	七〇、〇〇〇	一、一八六
自動車研究費	二六五、五五六	三四八、〇五三	△八二、四九七
特種兵器製造及試驗費	二三五、一五六	二九七、八六四	△六二、七〇八
朝鮮及支那馬調査費	二九、八三〇	三〇、〇二四	△一九四
調量費	一八四、九九七	二九〇、六七二	△一〇五、六七五
拂下地圖製造費	九〇、九九九	九一、〇〇〇	△一

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
支那駐屯軍費	一、〇八六、六三九円	一、〇三〇、〇〇〇円	五六、六三九円
臨時軍事費特別会計繰入	六三、八三九	一、三五〇、〇〇〇	△一、二八六、一六一
繰越	一、一五〇、〇〇〇		一、一五〇、〇〇〇
一般会計ヨリ繰入	一、〇三五、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	△三一五、〇〇〇
雑収入	一、八〇〇		一、八〇〇
利子	一、三三九		一、三三九
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇		一、〇〇〇
支那駐屯軍費	一、〇八六、六三九	一、〇三〇、〇〇〇	五六、六三九
一般会計ヨリ繰入	一、〇三五、〇〇〇	一、三五〇、〇〇〇	△三一五、〇〇〇
繰越	五〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
雑収入	一、六三九		一、六三九
利子	一、〇〇〇		一、〇〇〇
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇		一、〇〇〇
臨時軍事費	一、一〇	一、一〇	
一般会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
臨時軍事費特別会計	一、一〇	一、一〇	
一般会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
大正三年臨時軍事費	一、一〇	一、一〇	
一般会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
第八高等工業学校創立費	一、一〇	一、一〇	
一般会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
大正三年臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	
第八高等工業学校創立費特別会計ヨリ繰入	一、一〇	一、一〇	

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
司法省所轄	三、六〇〇、六八六円	三、六〇〇、〇〇〇円	六八六円
合計	三、六〇〇、六八六	三、六〇〇、〇〇〇	六八六
裁判所	三、六〇〇、六八六	三、六〇〇、〇〇〇	六八六
監獄	六八六		六八六
雑収入	六八六		六八六
臨時軍事費	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
臨時軍事費特別会計	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
一般会計ヨリ繰入	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
大正三年臨時軍事費	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
一般会計ヨリ繰入	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
大正三年臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	三、四三〇、〇〇〇	三、四三〇、〇〇〇	0
第八高等工業学校創立費	一、一一〇	一、一一〇	0
一般会計ヨリ繰入	一、一一〇	一、一一〇	0
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、一一〇	一、一一〇	0
大正三年臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、一一〇	一、一一〇	0
第八高等工業学校創立費	一、一一〇	一、一一〇	0

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
官債	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	
臨時軍事費公債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
雑収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
大正三年臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
第八高等工業学校創立費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
雑収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
臨時軍事費	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
臨時軍事費公債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
大正三年臨時軍事費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
第八高等工業学校創立費特別会計ヨリ繰入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
雑収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
營繕費	九五三、三五三	八七三、五二六	七八、七二六
電話交換擴張費	一〇、〇一九、七六九	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一九、七六九
電氣工業用發電水力調査費	一五九、七二七	一九五、五四四	△三五、八一七
無線電信局設置費	一、三二四	一七一、一六〇	△一六九、八三六
受託造修費	五五、七〇六	一四、二五〇	四一、四五六
災害費	一、〇六六、二〇〇	八八六、一九六	一八〇、〇〇四

右大正七年度歳入歳出總決算は、同年度各特別會計決算及會計檢査院の檢査報告と共に、大正十年二月二十四日第四十四回帝國議會に提出せられたり。衆議院決算委員會に於ては審議の末、一般會計歳入に於て百四十一件、同歳出に於て九件、合計百五十件を不當なるものと議決し、一般會計歳出に於て四件を不法なるものと議決し、三月二十四日本會議に於て採決の結果異議なく右委員會議決の通可決確定したり。

貴族院決算委員會に於ては審議の末、一般會計歳入に於て八件、同歳出に於て二件、合計十件は政府の措置穩當を缺くものと認め、又一般會計歳入に於て二百七十九件、同歳出に於て七十件、合計三百四十九件は政府に對し將來の注意を促すべきものと認め、其の他は總て異議なきものと決議し、大正十年三月二十六日本會議に於て採決の結果、異議なく右委員會議決の通可決確定したり。

科目	決算額	豫算額	比較増減（△）
	円	円	円
簡易生命保險特別會計繰入	二六、〇七六、八六一	二九三、三五二	△二六六、〇七六、八六一
大正三年臨時事件費	三四、二八	〇	三四、二八
船用品檢査所設置費	四四、五七八、九四三	二三、三七一、九二〇	三一、二〇七、〇二三
合計	三五、六八六、四三五	二四、九八四、四三五	二一七、四〇二、〇〇〇
臨時部合計	四四、五七八、九四三	二三、三七一、九二〇	三一、二〇七、〇二三
歳出總計	一、一〇二、一四四、五二四	九〇九、三五二、四二四	二一八、七九二、一〇〇

第十八節　大正八年度歳計

第一款　豫　算

第一項　豫算案の大綱

大正七年十一月歐洲大戰の休戰條約成立し、世界の平和は茲に漸く恢復せられしが、右休戰條約の締結に伴ひ世界の形勢は將來一大變化を來し、從つて帝國の財政經濟も亦之が影響を蒙ること尠からざるべく、大正八年度豫算の編成は恰も此の變轉の時機に際せしを以て、政府は戰後必要なる諸般の經營に資すべき財政上の基礎を鞏固ならしむるの急務なるを思ひ、他方後年度に於ける歳入歳出の狀況に注意し、大體左記の如き方針に依り之が計畫を定めたり。

（一）永久的施設特に多大の經費を要すべき事項に就ては、姑く之を時局の推移に鑑み徐に其の計畫を定むるを相當と認め、緊急措き難きものの外は之が完成を後日に期することとせしこと。

（二）國防の充實、教育の振興、産業の奬勵及交通通信機關の整備等國運の發展上急施を要するものに就ては、財源の許す限り相當の計畫を定め、其の他の經費に就ては努めて其の膨脹を抑制せしこと。

（三）時勢の變遷に伴ひ官吏其の他の增俸增給竝に諸般經費の補足を要するものあるも、時局の推移に應じ經濟界の安定を俟ちて之が計畫を樹つることとし、姑く應急の施設に止むることとせしこと。

以上の方針に基き編成せられたる大正八年度歳入歳出総豫算の數額は、歳入八億九千六百八十一萬百六十四圓、歳出八億七千四百四十五萬七千六百二十二圓にして、内歳入經常部八億三千九百十四萬九百四十三圓、同臨時部五千七百六十六萬九千二百二十一圓、歳出經常部五億百三十六萬三千三百三十四圓、同臨時部三億七千三百九萬四千二百九十一圓なり。而して歳入歳出差引歳入超過額二千二百三十五萬二千五百三十九圓は、別に追加豫算として提出すべき臨時事件費豫算の財源に充當するの計畫なり。今本年度豫算を前年度豫算額に比較すれば左の如し。

區分		大正八年度豫算額	大正七年度豫算額	比較 増	比較 減
歳入	經常部	八三九、一四〇、九四三	六四四、〇九一、三九	一九五、〇四九、六〇四	
	臨時部	五七、六六九、二二一	一七九、二一四、一四一		一二一、五四四、九二〇
	合計	八九六、八一〇、一六四	八二三、三〇五、四八〇	七三、五〇四、六八四	
歳出	經常部	五〇一、三六三、三三四	四八〇、〇八三、三〇六	二一、二八〇、〇二八	
	臨時部	三七三、〇九四、二九一	三四三、二二二、一七四	二九、八七二、一一七	
	合計	八七四、四五七、六二五	八二三、三〇五、四八〇	五一、一五二、一四五	

（備考）一、前年度豫算額は本豫算額及第四十議會追加額との合計なり。

二、前年度豫算額中經常部と臨時部との間に組替掲記せるものあるを以て、該年度決定金額と符合せず。

大正八年度歳入豫算中前年度に比して増加したるものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

經常部

地租の増加	五三三、七三三円
所得税の増加	六四、五八三、六〇〇
營業税の増加	七、五三八、三三八
通行税の増加	一、七一〇、八六五
鑛業税の増加	一、二二五、〇六七
酒税の増加	一四、七一六、三八五
砂糖消費税の増加	四、六〇四、〇六五
織物消費税の増加	三、九七二、一〇五
取引所税の増加	一、〇一八、八〇五
關税の増加	二四、一五五、二八七
印紙收入の増加	一四、一七五、四五〇
郵便電信及電話收入の増加	三九、一一九、三八九
森林收入の増加	三、七九二、七九九
南滿洲鐵道株式會社配當金の増加	一、〇〇〇、〇〇〇円
囚徒工錢及製作收入の増加	七五八、九五九
專賣局益金の増加	八一五、七五九
海軍火藥廠益金	七〇〇、〇〇〇
製鐵所益金の増加	一四、二九六、四三九
預金利子及手數料繰入の増加	五、九三〇、五二一

臨時部

利子收入の増加	二、二九四、九六三
地方分擔納付金の増加	一、一六一、九七二
河川改修費納付金の増加	一、八三〇、〇〇〇
電話事業公債及繰替借入金の増加	一三、一〇〇、〇〇〇
森林資金繰入の増加	九四七、五〇五
造幣局資金繰入	二、〇二一、一六二
學校建築費獻納金の増加	一、二七七、三〇〇

大正八年度歳出豫算中新規要求に係るもの及前年度豫算に對し増加を要するものに就き、其の事項金額の主要なるものを擧ぐれば左の如し。

所管省	事項	金額 經常部	金額 臨時部	金額 計	備考
外務本省局課増設に關する經費		六、五九〇円	〇円	六、五九〇円	

所管省	事項	金額			備考
		経常部	臨時部	計	
		千円	千円	千円	
大蔵省	五厘利子及手数料の増加	五、〇〇〇	〇	五、〇〇〇	
	電信局に関する経費	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
	郵便局舎修繕費の増加	一、七〇〇、〇〇〇	〇	一、七〇〇、〇〇〇	
	市町村交付金の増加	九五、〇〇〇	〇	九五、〇〇〇	
	為替関係入歩の増加	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇	
	国庫補給金の増加	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
	神戸税関海陸連絡設備費の追加	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	
	大阪税関大阪貿易新庁舎新営費の追加	三〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	
	臨事費用倉庫新営費	三〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	
	印刷局設備費庫費	六七、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一六七、〇〇〇	
	鎌倉復旧工事其他繰費	一、三六七、〇〇〇	〇	一、三六七、〇〇〇	
	臨時国庫証券利子補充金の増加	九三、〇〇〇	〇	九三、〇〇〇	
	恩賜財団済生会補助金の増加	三〇〇、〇〇〇	〇	三〇〇、〇〇〇	
	国債償還費の追加	一、九四〇、〇〇〇	〇	一、九四〇、〇〇〇	
	森林事業費の増加	四五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一四五、〇〇〇	
	造幣局鋳造費資本補足	一、五〇〇、〇〇〇	〇	一、五〇〇、〇〇〇	
	造幣局設備費繰越	三五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇	
	朝鮮常設部隊に関する経費の増加	一、三七七、〇〇〇	〇	一、三七七、〇〇〇	
	軍需充足に関する経費の増加	一、三七七、〇〇〇	〇	一、三七七、〇〇〇	
	特殊事業及船舶の建造に依る経費の増加	五六、八〇〇、〇〇〇	〇	五六、八〇〇、〇〇〇	
第二章　一般会計　第十八師大正八年度繰越計		一三五、〇〇〇、〇〇〇	〇	一三五、〇〇〇、〇〇〇	八年度以降三箇年度間の繰越なりき。大正

所管省	事項	金額			備考
		経常部	臨時部	計	
		千円	千円	千円	
外務省	オスク領事館外十二領事館新設に関する経費	五六、八〇〇	一九、〇〇〇	七五、八〇〇	
	在外公館職員増加に関する経費	二八、〇〇〇	〇	二八、〇〇〇	
	在哈爾賓総領事館新築費	〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	
	在哈爾賓総領事館新築費	〇	四五、二〇〇	四五、二〇〇	繰越以降五九箇年〇・〇三六、〇〇〇、〇〇〇円ノ内一、〇〇〇、〇〇〇円ノ繰越ニシテ大正八年度以降五箇年度間ニ補助スルモノノ正ナリ。
	恵亜同文学会事業費補助の増加	〇	四五、二〇〇	四五、二〇〇	
大蔵省	貸付金の増加	五〇、〇〇〇	〇	五〇、〇〇〇	
内務省	太田川改修費補助	〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	繰越以降七箇年度一、八二五、〇〇〇、〇〇〇円ノ内一、〇〇〇、〇〇〇円ノ繰越ニシテ大正八年度以降九箇年度間ニ補助スルモノノ正ナリ。
	阿賀川及阿武隈川改修費補助	〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	
	警察官派遣帯広分署の増加	二、〇〇〇	〇	二、〇〇〇	
	地方官俸給平均額の増加	二三〇、〇〇〇	〇	二三〇、〇〇〇	
	警察機関の充実に関する経費	一五七、〇〇〇	〇	一五七、〇〇〇	
	地方監獄員増加に関する経費	四二、〇〇〇	〇	四二、〇〇〇	
	軍需工業動員法施行に関する経費	一三五、七〇〇	〇	一三五、七〇〇	
	道路改修費補助	〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	
	治水事業費の追加	〇	六三九、〇〇〇	六三九、〇〇〇	
	国内海港改良費の追加	〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	
	北海道拓殖費の増加	〇	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	
	明治神宮造営費の追加	〇	五二、〇〇〇	五二、〇〇〇	
府県令及郡令議員総選挙取締費		〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	
貸倒交換差金の増加		五八、〇〇〇	〇	五八、〇〇〇	

所管省	事項	金額 計	金額 臨時部	金額 経常部	備考
陸軍省	各部隊編制改正其他増員等に要する経費	一、八六九、九三四円	〇円	一、八六九、九三四円	
	局官衙及准士官俸給等級区分改正の為要する経費	六〇、四六〇	〇	六〇、四六〇	
	演習施設に手当支給の為要する経費	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
	共済組合制度実施の為要する経費	三七、九四三	〇	三七、九四三	
	物価騰貴に依る軍備充実費の増加	五、三七、五〇〇	五、三七、五〇〇	〇	
	費物の価騰貴に依る糧餌被服営繕及被服調弁	三、四六、一七一	三、四六、一七一	〇	
	物価騰貴に依る機関銃隊充備費の増加	三四、七三五	三四、七三五	〇	
	費物の価騰貴に依る営舎営繕及被服調弁	二一〇、七一〇	二一〇、七一〇	〇	
	砲兵工廠移転改築の増加	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	
	特種兵器製造及試験費	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇	
	部隊改編費	九、三三二、九九二	九、三三二、九九二	〇	
	自動車乗員教育費の増加	一〇五、一〇〇	一〇五、一〇〇	〇	
海軍省	艦船建造費の維持費	五、〇〇〇、〇〇〇	〇	五、〇〇〇、〇〇〇	
	艦船修理費の増加	三、〇〇〇、〇〇〇	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
	艦船燃料費の増加	三、〇〇〇、〇〇〇	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
	雑船製造費の増加	三四、七二九	〇	三四、七二九	
	学生生徒練習生増加に伴ふ経費の増加	三、〇〇〇、〇〇〇	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
	既定計画に基く新造艦船の維持費	五、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	
	物価騰貴に依る軍艦製造費の追加	〇	五、三〇〇、九五六	五、三〇〇、九五六	
	艦船行動用需品費の増加	〇	〇	〇	
	中央気象観測施設費	二、七九一	一〇〇、〇〇〇	一、三七、七九一	
	官帝国大学ふ並に府県立学校其他教育費補助金	三、三四、三四四	〇	三、三四、三四四	
	帝国大学官制改正に伴ふ経費	四八、九〇	〇	四八、九〇	
司法省	地方裁判所支部設置に関する経費	一一〇、八〇一	〇	一一〇、八〇一	
	地方裁判所支部権限拡張に関する経費	一三、八六〇	〇	一三、八六〇	
	区裁判所設置に関する経費	二四、八六三	六〇、〇〇〇	九八、八六三	
	耕地整理登記事務の為雇員に関する経費	一二、四二九	〇	一二、四二九	
	判事検事等俸給平均額増加に要する経費	五六、四〇〇	〇	五六、四〇〇	
	未決其他物価騰貴に依る在監人費の増加	一、〇〇〇、〇一六	〇	一、〇〇〇、〇一六	
	東京区裁判所建築費の追加	〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	
	名古屋控訴院地方裁判所区裁判所建築費	〇	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	
文部省	帝国大学ふ並に府県立学校其他教育費補助金	四八、九〇	〇	四八、九〇	
	帝国大学ふ並に府県立学校其他教育費補助金	五二、五二四	〇	五二、五二四	
	中央気象観測施設費	三、七九一	一〇〇、〇〇〇	一、三七、七九一	
	桜島高等農林学校農芸化学科新設費	〇	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	
	鹿児島高等農林学校養蚕科新設費	〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	

所管省	事項	金額 計	金額 臨時部	金額 経常部	備考
司法省	舊軍艦河内榛名引揚費	三七、〇〇〇	三七、〇〇〇	〇	
	教育物品増備費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〇	
	雑船製造費	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇	
	海軍火薬廠運転資本繰入	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	〇	
	海軍工廠資金補足	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	
	艦艇火薬車改造費	三、四五〇、〇〇〇	三、四五〇、〇〇〇	〇	
	帝国軍艦用品費の追加	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	〇	

所管省	事項	金額 経常部	金額 臨時部	金額 計	備考
		円	円	円	
文部省	高等農業學校擴張費	〇	一五六、三五六	一五六、三五六	
	第十二高等工業學校創立費	〇	六三、六〇〇	六三、六〇〇	
	第十三高等學校創立費	〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	
	第十四高等學校創立費	〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	
	第十五高等學校創立費	〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	
	工科大學擴張に伴ふ臨時政府支出金	〇	七三〇、〇〇〇	七三〇、〇〇〇	
	東京帝國大學航空研究所創設費の追加に伴ふ政府支出金	〇	一七三、〇〇〇	一七三、〇〇〇	
	京都帝國大學理科大學地質鑛物學科設置に伴ふ臨時政府支出金	〇	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	
農商務省	研伐作業費の增加	〇	六〇八、二〇三	六〇八、二〇三	
	水產講習所生徒增募に關する經費	七、三四二	一九、三四三	一九、三四三	
	堆肥の研究に關する經費	一三、一一六	三〇、一一六	三三、一一六	
	大阪工業試驗所完成に關する經費	一二六、五二六	一二六、五二六	二八九、四七五	
	陶磁器試驗所設置に關する經費	三〇、九五〇	〇	一〇五、六三	
	茶業試驗場設置に關する經費	五、六三	一〇〇、〇〇〇	一七七、五九五	
	主要食糧農產物改良增殖に關する經費	〇	一五七、五九五	三一〇、三八〇	
	染料及火藥爆藥原料製造奬勵金の增加	〇	三一〇、三八〇	四六一、四三三	
	緬羊飼育奬勵費の增加	〇	四六一、四三三	一四七、二五〇	
	林業奬勵に關する經費	〇	一四七、二五〇		

總額一、〇三三、〇〇〇圓にして、大正八年度以降三箇年度間の繼續費なり。
總額九〇〇、〇〇〇圓にして、大正八年度以降四箇年度間の繼續費なり。
總額六九五、〇〇〇圓にして、大正八年度以降四箇年度間の繼續費なり。
同　上

	製鐵所擴張費の追加	〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	
	東京工業試驗所移轉に關する經費	〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	
	國有林野經營費の增加	〇	九四七、五〇五	九四七、五〇五	
遞信省	郵便電信爲替及貯金業務增進に伴ふ經費	七九七、〇五四	〇	七九七、〇五四	
	爲替貯金支局設置に關する經費	一二、一〇〇	〇	一二、一〇〇	
	電信線路增設に伴ふ經費	五〇、九七一	二、二五三、六八九	二、二〇四、六六〇	
	通信方式變更に伴ふ經費	五三、六三〇	一八四、三〇七	一、八三〇、六七七	
	三等局長以下手當定率改定の爲要する經費	三〇一、七三〇	〇	三〇一、七三〇	
	海外信支拂金の增加	五、四五七、二一一	〇	五、四五七、二一一	
	恩給の增加	八一九、一六一	〇	八一九、一六一	
	二次電池設置に關する經費	〇	五三、三三七	五三、三三七	
	幌蓙無線電信局設置に伴ふ經費	〇	八七、八三〇	八七、八三〇	
	電話交換擴張費既定年割額繰上げに依る增加	〇	二、一〇〇、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇	
	電信電話裝置改良研究に關する經費	〇	七三、一七四	七三、一七四	

總額一、二〇〇、〇〇〇圓にして、大正九年度に亙る繼續費なり。

大正八年度に於て新に要求に係る繼續費は四千四百四十萬四千九百八圓、既定繼續費に對し新に追加を要するもの一億二百七十六萬四千五十圓、合計一億四千七百十六萬八千九百五十八圓にして之を大正八年度以降の既定繼續費總額九億二千六百十萬三千六百七十九圓に加ふるときは、大正八年度以降の繼續費の總額は十億七千三百二十七萬二千六百三十七圓となるの計算なり。

大正八年度に於て國庫豫備金は第一豫備金三百萬圓、第二豫備金五百萬圓なり。

大正八年度に於て會計法第九條に據り定むべき大藏省證券發行最高額は五千萬圓なり。

第二項　豫算の成立及公布

大正八年度歳入歳出總豫算案は大正八年一月二十一日第四十一回帝國議會の開會に當り、同年度各特別會計豫算案・臨時軍事費豫算追加案竝に大正八年度總豫算追加案と共に衆議院に提出せられ、同日大藏大臣高橋是清は右歳計豫算及財政計畫に關し、衆議院に於て左の演說を爲したり。

『茲に大正八年度歳計豫算に關し其の大要を說明するの光榮を有す。現內閣は昨年秋成立せしも、當時大正八年度概算は既に各省より要求ありたる後にして、新に諸般の方面に涉り調査攻究を遂ぐるの時日なかりしを以て、大正八年度豫算は大體右の概算を基礎と爲し、休戰條約の締結に伴ひ宇內の形勢に一大變化を來すべき事情に鑑み、將來の經營に資すべき財政上の根柢を鞏固にするを念として、以下の方針に依て是が編成を爲したり。卽ち永久に多大の經費を要すべき施設に就きては、時局の推移に伴ひ徐ろに其の計畫を定むることとし、唯、國防の充實・敎育の振興・產業の奬勵及交通通信機關の整備等の如き國運の發展上急施を要するものに限り、財源の許す範圍內に於て相當の計畫を定むることとし、其の他の經費に就ては努めて其の膨脹を抑制したり。又時勢の變遷に伴ひ官吏其の他の增俸增給竝諸般經費の補足を要するものあるも、時局の推移に應じ經濟界の安定を俟ちて是が計畫を樹つることとし、姑く應急の施設に止むることとせり。而して前古未曾有の大戰爭は既に休戰狀態に入りしと雖も臨時事件に關し尙相當の施設を要すべく、且西伯利の狀況は前途遼遠に逆睹し難き狀況なるが故に、臨時事件に關する經費は大正八年度に於ても亦之を見積るの必要あり。仍て大正三年臨時事件豫備費に就きては追加第一號を以て、又臨時軍事費に就きては同特別會計追加豫算として、別に之を要求したり。今大正八年度普通經費に屬する歳入歳出の大體に就て之を述ぶれば、歳入は經常部に於て八億三千九百餘萬圓、同臨時部に於て五千七百餘萬圓、合計八億九千六百餘萬圓にして、之に對し歳出は經常部に於て五億百餘萬圓、臨時部に於て三億七千三百萬圓、合計八億七千四百餘萬圓とし、歳入歳出差引歳入超過額二千二百餘萬圓は之を臨時事件豫備費の財源に充當するの計畫なり。今歳入歳出の主なるものを擧げて之を前年度豫算に比較すれば、歳入經常部に於ける租稅收入は四億九千二百餘萬圓にして、之を前年度に比するに一億二千四百餘萬圓を增加し、印紙收入は五千百餘萬圓にして、前年度に比し千四百餘萬圓を增加し、官業及官有財產收入は二億六千餘萬圓にして、前年度に比し六千餘萬圓を增加せり。是等は增收の主なるものなるが、他方朝鮮總督府・臺灣總督府及樺太廳各特別會計に於ける事業公債金及其の元利償還金に就ては、從來一般會計を經由して各特別會計に繰入るるの方法を採りたる所、今回別に共通の事業公債金特別會計を設置すると同時に、其の繰入金は一般會計を經由せざることと爲せしが故に、歳入經常部朝鮮總督府以下各特別會計繰入金に於て千餘萬圓の減少を見ることとなり、以上の增減を差引き結局歳入經常部に於ては前年度に比し一億九千五百餘萬圓の增加となれり。次に歳入臨時部に於て利子收入は九百餘萬圓にして、前年度に比して二百餘萬圓の增加を示し、獻納金は二百餘萬圓にして、前年度に比して百餘萬圓を增加し、公債募集金は一般會計に屬する電話事業公債金に於て二千三百餘萬圓を計上したるも、前述の如く朝鮮總督府以下各特別會計に屬する事業公債金

は、一般會計を經由せず直に各特別會計に繰入ること爲せしを以て、其の結果二千七百餘圓を減じ、結局四百餘萬圓の減少を來したり。以上述べたる所及其の他の增減を差引き計算すれば、歳入臨時部に於て前年度に比し二千四百餘萬圓の減少なるが、此外尙臨時事件に關する歳入を差引くが故に、合計一億二千百餘萬圓の減少となるものなり。更に歳入經常部臨時部合計を前年度に比較すれば一億七千餘萬圓の增加を見るも、臨時事件に關する歳入を差引くが故に七千三百餘萬圓の增加となるの計算なり。次に歳出に在りては前年度に比し經常部に於て二千百餘萬圓、臨時部に於て一億二千六百餘萬圓、合計約一億四千八百餘萬圓の增加なるが、前年度に於ける臨時事件に關する經費豫算九千六百餘萬圓を差引くときは臨時部に於て二千九百餘萬圓、歳出合計に於て五千百餘萬圓の增加となる。今歳出豫算中の主なる事項に就き略言せば國防充實に關するものに在りては陸軍各部隊の編制改正を計畫し以て陸軍機能の充備に資し海軍水陸設備費を追加して造艦能力其の他の完成を期し、教育の振興に關しては工科大學及實業專門學校の擴張、諸高等學校の增設を計畫して、高等教育の普及特に實業的專門家の養成を主眼とし、產業奬勵に關しては或は主要食糧たる農產物の改良增殖を圖り、或は畜產林業等に就て奬勵費を計上し、交通通信機關に關しては道路改良費の補助、電信線路の增設、電信電話裝置の改良に關し施設を爲し、又電話交換擴張費に就ては特に其の年割額を繰上げて功程の進捗を講じたり。更に國庫豫備金は每年不足を告ぐるの常態なるが故に、本年度より各二百萬圓を增加して第一豫備金を三百萬圓、第二豫備金を五百萬圓と爲し、又國債償還額に就ては大正八年度に於ては豫定の通り三千萬圓を計上したり。次に追加豫算を以て要求せる大正三年臨時事件豫備費は一億七千二百萬圓に達し、其の大部分は官吏以下臨時手當、物價騰貴に基く廳費其の他の補足等にして、此他各種の事項に就ては、休戰後と雖も尙相當期間必要ありと認めたるものに限りたり。而して右に對する財源としては戰時利得稅其の他臨時事件費支出に伴ふ收入一億千三百餘萬圓を算するが故に、歳入歳出差引歳入不足額五千八百餘萬圓の中、二千二百餘萬圓は普通經費豫算に於ける歳入超過額を以て之を支辨し、千四百餘萬圓は前年度剩餘金繰入に依り、尙不足額二千二百萬圓は借入金を以て之を補塡する計畫なり。臨時軍事費に就ては、既に歐洲に於ては休戰後講和會議の時期に入りたるも、西伯利の狀態は今尙帝國軍隊の全部を引揚ぐるの時機に達せず、其の他部隊の復員、艦隊の引揚等にも相當の日子を要すべきを以て、是が爲め一億五千七百餘萬圓を追加計上し、其の財源は主として公債及借入金に依ることとせり。大正六年度歳計剩餘金は總額三億四千九百餘萬圓に達せしも、其の中大正七年度に繰越したる歳出の財源共の他使途の豫定あるものを除くときは、殘額二億千百餘萬圓となる。大正七年度に於て既に西伯利出兵を始めとし、臨時軍事費の財源として八千九百餘萬圓を支出したるのみならず、普通經費にして豫算超過若くは豫算外の支出を要したる爲め、國庫剩餘金を其の財源に供したる金額千七百餘萬圓に達し、臨時事件費に於て豫備費外に支出を要したる金額又四千六百餘萬圓を算し、結局國庫剩餘金も剩す所多からざるの狀態にして、更に之を以て必要なる追加豫算の財源に充つるときは、大正八年度豫算の財源としては多額の繰入を爲すの餘地を存せず。是れ臨時事件に關する經費の財源として公債及借入金に俟つを要する所以なり。

財政計畫の大要は以上述べたる所の如し。更に此機會に於て帝國の經濟竝金融狀況に就き一

言を費さんとす。今や四年有半に渉りし世界大戰爭は將に終結を告げんとするに際し、我國に於ける經濟界の經過を回顧すれば、諸君の記憶に新なるが如く開戰の初に當りては經濟界は一時多大の打撃を蒙りしも、國民の努力の結果漸次其の狀勢を回復するに至り、殊に歐洲諸國よりの輸出の減少に伴ひ、時勢の必要に刺戟せられて、工業興り商業榮え、大體に於て我經濟界は内に於ても外に對しても多大の發達を遂ぐるに至れり。試に之を數字に徴するに、大正三年八月より大正七年末に至る約四箇年半の期間に於て事業計畫資本總額は約五十億圓を算し、實際拂込資本總額は約二十億圓に及び、銀行の預金は二十億六千餘萬圓より六十二億九千餘萬圓に增加し、又郵便貯金は二億餘萬圓より五億五千餘萬圓に增加したり。次に對外關係に就て之を見るに、開戰以來の輸出總額四十一億五千餘萬圓、差引輸出超過十四億六千餘萬圓にして、此の外同期間に於ける貿易外の收入超過十三億二千餘萬圓に達せしを以て、戰時中に於ける我國の國際貸借上に於ける受取勘定は實に二十七億八千餘萬圓に達せり。其の結果として政府竝民間の外債償還・外債買戻及對外放資は十二億七千餘萬圓に上りしに拘らず我國對外貸借關係は右の如き狀勢なるを以て國際爲替の關係も亦隨て變調を呈し、金融は緩慢の大勢を持續したり。而して此間政府は正貨の蓄積及國際金融の調和に力め正貨の買入を爲したるを以て、政府及日本銀行保有の正貨は戰前は三億五千餘萬圓なりしに今や十五億八千餘萬圓に上り、十二億三千餘萬圓の增加を示せり。此の比較的短き歲月の間に斯くの如く急激なる發展を遂げたるものなるを以て、今や戰雲收まり一般經濟界の戰時より平時狀態に移らんとする此の過渡期に於て、官民共に新たなる注意と努力とを必要とすべし。固より當に開かるべき講和會議は必ずや將來の貿易上經濟上に重要なる影響を及ぼすべく、其の結果は今より之を逆睹するを得ざるも、我國民としては戰後國運の進展に資すべき基礎的準備を怠るべからざるや言を俟たざる所なると同時に、今後來ることあるべき財界の變動を能ふ限り少からしめ、進んでは戰爭中に贏ち得たる資力と經驗とを利用して將來益〻健實なる發展を期せざるべからざるなり。而して之が爲には政府當局に於ても細心の注意を用ひ、各般の施設其の時機を誤らざらんことを期するは固より言を俟たざる所なるも、而も其の根本の解決は寧ろ國民一般の自發的努力に待つ所多し。而して曩に全國六大都市の銀行が相約して預金爭奪の弊を矯正せんとして既に預金利率の協定に關する實行的成案を得たるものにして、本邦經濟界の爲め慶賀措かざる所なり。終に臨み余は諸君が愼重審議の上速に本豫算案に協贊を與へられんことを望む。』

衆議院に於ては一月二十三日より豫算委員會を開きて審議を遂げたる結果、豫算案全部に對し原案の通可決すべきものと決定し、二月十三日豫算委員長齋藤珪次は、豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『委員會に於て政府と委員諸氏との間に行はれたる質問應答の二三に就て報告せんに、先づ第一に特に國民の記憶せざるべからざる要ある點は、大正八年度豫算の總てを通じて、時局の招來せし物價騰貴に因る經費增加額の驚くべき巨額に達する事實なりとす。卽ち今一般會計豫算中物價騰貴に因る政費總計表を見るに、普通經費に對する增加額は九千六十八萬九千八百餘圓にして、之に臨時事件豫備費中の物價騰貴に因る增加額一億二千二百九十八萬餘圓を加ふれば、政

費に對する增加額合計は二億千三百六十七萬二百九十餘圓となり、卽ち八年度の普通豫算及臨時事件費豫算の合計十億餘圓の約二割强は物價騰貴に伴ふ增加なりとす。更に臺灣及朝鮮總督府・關東都督府・樺太廳・東京・京都・九州の帝國大學・簡易保險・帝國鐵道等の特別會計に屬する經費にして、物價騰貴の爲めに要する額は合計一億千二百三十一萬二千六百餘圓にして、此外に尙造幣局・印刷局・專賣局・東京砲兵工廠・大阪砲兵工廠・千住製絨所・海軍採炭所・海軍火藥廠・製鐵所各特別會計に於て物價騰貴の爲めの增加額は九千四百四十八萬五千百餘圓に達す。固より上述造幣局以下は事業會計に屬するものなるが故に、一般行政廳の物價騰貴に依るものとは趣を異にしたるも、其の中には材料騰貴の部分を含めりと雖も、大體に於て物價騰貴に依る經費の增額と稱し得べし。故に此の三口の合計四億二千四十七萬七百十六圓の巨額は、實に時局の賚したる物價騰貴に因り增額を必要とするものと謂はざるべからず。次に委員會に於ける質問中歲入の見込過大なりとの說を爲したるものあり、之に對して政府は本年度歲入見込額は六・七兩年度の實況に徵して之を斟酌按排せしものにして、實際の收入額に近きものなることの十分なる自信を有する旨を答辯したり。次に六億數千萬圓の公債募集額は極めて巨額なるを以て其の募集は恐らく甚だ困難なるべく、隨て豫算も實行不能に終らざるかとの質問ありしが、之に對し政府は公債の募集に就きては相當成算あり、決して經濟界を壓迫するが如き處置を採ることなく、長期として不利益なるものは短期とし、時機宜しきを制して募債を行ふ豫定なりと說明したり。次に食糧問題に關して質問あり。卽ち現在米價は甚だ騰貴し、米量は甚だ不足せり。若し端境期に至らば國民は糧食を失ふ不安に驅られ、安き心地なかるべしとの說に對し、政府は米の問題に關しては永久的及應急的の兩處置を採らんとするものにして、其の永久的處置としては本議會に於て議了の開墾助成法案の如き其の一たるを失はざるべく、又應急策としては外米の輸入を斷行し、國民をして米の不足を感せしめざる決心を有すと斷言せり。而して其の輸入の方法及順序等を明示せんことを要求せる質問に對しては、政府は其の方法場所等を明示するに於ては、其の國に於て價格の釣上行はるべく、或は輸出禁止に至るやも圖り難く、又各個人の利害に多大の關係あるを以て、之を明示する能はずと說明せり。而して米價引下の方法如何との質問に對しては、政府は米價は單に價格其のものの問題に非ず、量と價格との二の問題にして、米量豐富なれば需要供給の原則に依り價格は下落すべく、今や米量不足なるが故に價格騰貴せるものなるが故に、政府は鋭意努力して米の輸入を圖り、以て漸次米價の低下を期するものなり。然れども價格は短日月の間に容易に變化を來すべきものに非ず、嘗て前々內閣に於て米價の下落を憂ひて之が引上策を實行せんとして、法律案迄も提出せしことありしも、米價は急激に上昇せざりしのみならず却て下落せんとするの狀ありて、遂に失敗に歸したる事蹟あり。如何に政府が努力するも價格を一朝一夕に變化せしむるの困難なることは、之に徵するも明かなり。然らば先づ量を豐富にして而して他に策の宜しきを得れば、米價は漸次下落するものなりと確信すと答辯したり。次に委員中我國の租稅負擔は中產階級以上の者に輕く、其の他の者に重き如き傾あり、換言すれば其の割合直接稅に於て小にして間接稅に於て大なり。直接稅は中等階級以上の負擔にして、間接稅は貧富共通の負擔なり。卽ち我國に於て貧者の負擔の大なることは、直接稅が全體の三割一分を占むるに反し間接稅が六割九分を占むるを見るも明かなり。斯かる割合は世界

に其の類例を見ざる所なりと述べたる者あり。右は實に國民の利害に大關係を有する問題なるが故に、當時政府の示せる資料を玆に報告して國民の注意を請はんとす。卽ち大藏大臣の明示する所に依れば大正三年度各國に於ける直接國稅と間接國稅との割合は、日本は直接國稅三割四分、間接國稅六割六分、英吉利は直接國稅三割五分、間接國稅六割五分、佛蘭西は直接國稅一割四分、間接國稅七割七分、白耳義は直接國稅三割三分、間接國稅六割七分、亞米利加合衆國は直接稅僅に四分、間接稅九割六分を示せり。固より戰爭開始後は此の割合に多少の變化を來せしならんも大體に於て文明國と稱せられ、貿易發達し國力發展せる國に於ては直接稅は少く間接稅は多きことを言明したり。此の表に依れば日本に比し直接稅を多く徵收せるは英吉利のみにして其の他は皆二割乃至一割の範圍に於て直接稅を徵收せるに過ぎず、米國の如きは僅に四分を徵收するに過ぎざる狀況なり。右は現今人心兎角過激に流れんとする時期に於て大に注意すべき問題なるを以て、特に報告する次第なり。以上の外、外交及內政に亙り幾多の質問ありし後討論に入り、政友會を代表する山本悌二郎君は、本豫算案は總て妥當にして且必要なりと認むとて贊成を表し、憲政會を代表する早速整爾君は財政計畫に就ては大に異見を有するも、右は本會議に於て之を述ぶべし、但し豫算の數額に就ては之を修正せずと述べ、更に國民黨代表の鈴木梅四郎新政會代表の小川鄕太郎、無所屬團代表の北井波治目等の諸君も何れも豫算案に就ては贊成なるも、其の意見は本會議に於て之を述ぶべき旨を表明せり。之を要するに本豫算案は大體に於て各派何れも贊成なりしを以て、委員會は一の希望條件を附して全會一致を以て之を可決したり。卽ち右は食料鹽に對する希望條件にして、其の全文は、食料鹽の不足及配給不良は國民生活の安定を脅かす甚し。又工業鹽の不廉と配給不足は一は工業の發達を阻害し、又延て食料鹽の不足を惹へしむるに至る。依て政府は速に之に對し最善の措置を採らんことを望む」と云ふに在り。以上は豫算委員會に於ける經過及結果の大要にして、此の厖大なる豫算に對し一錢の修正をも行ふことなくして可決せることは、帝國議會開設以來軍國議會を除けば他に其の類例を見ざる所なりとす。』

尋いで山本悌二郎・上田源兵衞・小川鄕太郎の贊成演說、武富時敏・鈴木梅四郎の豫算承認に關する演說あり、高橋大藏大臣の辯明ありて討論終結し、採決の結果大多數を以て豫算案全部總て委員長報告の通可決したり。

貴族院に於ては大正八年二月十三日衆議院より大正八年度歳計豫算案を受領し、同月十五日より豫算委員會を開きて審議を遂げたる末、豫算案全部衆議院議決の通可決すべきものと決定し、三月十八日豫算委員長淺田德則は、豫算委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『今年度新に施設せられたる所の費用は暫く別とするも、豫算中物價騰貴に因る增費は非常の額に達せり。卽ち一般會計豫算中に於て九千六十百九十八萬餘圓にして、此中官吏以下の特別手當等を含むも、其の合計は實に二億千三百六十七萬餘圓を算し、更に又各特別會計豫算中物價騰貴に因る金額は合計二億六百七十九萬餘圓に達せり。但し一面に於て歳入に於て時局の影響により相當增加したるものあるは言を俟たず。委員會に於ける質問應答中其の最も重なるものは目下巴里に開會中の講和會議に關する問題

にして、委員は彼の國際聯盟の條規其他諸種の問題に關して質問せり。然れども總理大臣は之に對し講和會議に於ては各國委員の申合に基き、其の時々の報告は之を一定の通信局を經て公表することと定められるが故に、目下進行中の會議の狀況を詳細公表する自由を有せずと答辯したり。其の他本問題に關して委員の發せる質問は對獨賠償金問題・南洋諸島統治問題・日支兩國間に締結せる祕密條約の提出問題等にして、人種的差別撤廢問題に關しても、各委員より屢〻質問あり、此の外外交問題に就ては西比利亞及東清鐵道管理問題に關する質問に對し、政府委員より米國其の他關係各國の協商の結果等に就き詳細なる說明ありたり。次に一般的政務方針に關する質問中の主なるものは先づ食糧問題にして、之が解決に關し政府は關稅の撤廢を行ひ、或は外國米の取引所に於ける價格を定め、又は我が殖民地若くは外國よりの輸入を圖りたるにも拘らず、未だ國民を安心せしむるの狀態に至らざるが、之に對する政府の方針如何との質問に對し、總理大臣は現政府は歐洲大戰に鑑み、米價のみならず食糧の全部に對し對策を講ずるの必要を認め、永久的方策としては不毛の土地を拓き以て食糧を潤澤ならしむべく卽ち開墾助成法を設け、又當面の策としては有ゆる手段方法を以て米の數量を多くすることに努めたり。卽ち陸軍馬糧を高粱に換へ、或は關稅を廢して是が輸入を容易ならしむるに努め居るが如き是にして尙政府は如何なる手段に依りても、糧食に缺乏を來さしめざることに對しては責任を有するものなることを明言せり。國防方針の變更に關する質問に對し陸軍大臣は、從來の國防方針は明治三十九年末より四十年に亙り定められしものにして、爾來歐洲大戰の經驗に鑑み時勢の變遷に應じ、昨年六月中之を修正あらせられ、元帥府の御諮問を經て漸次御變更の方針に從つて遂行

することに決したるものなり。卽ち從來は平時二十五師團、戰時五十師團の準備なりしを改めて、隨つて戰時の兵力及國軍の編成を改むるものなる旨說明せり。是と同時に海軍に於ても所謂八八艦隊、卽ち戰艦八隻を以て成る一隊と巡洋戰艦八隻を以て成る一隊とを編成を改め、今回更に八隻より成る一隊を是に加へて三艦隊編成に改むる計畫にして、其の艦種及補助艦艇に就きては未定なるも、是は自ら列國の方針を參酌し追て決定するものなりとの說明ありたり。此陸海軍國防方針の變更に關し、一員より斯くの如き大方針を遂行するに當りては、是を我國内の工業能力に依るものなるか或は外國に俟たんとするものなるか、其の他財政上に就て種々の問題を發したるが、之に對し海軍大臣は斯くの如く方針を定むるも、是が實行は財政其の他の事情を熟考し漸次に遂行せらるべきものにして、工業能力の如き内外何れに依るやの問題は他日に讓ると答へ、尙差向き現に著手しつつある艦艇の完成を急務とするものなることを答へたり。陸軍當局大臣は質問者に或る程度の同意を表し、將來陸軍に於て工廠の一部を民間に移し、民間工業の促進に努め、官民相俟つて之に進む方針なりと答辯せり。其の他國防上の見地より邦人の體力の不完全なるに對し、精密なる統計を擧げて當局の注意を喚起せる委員あり。之に對し當局大臣は官民協力是が發達を圖るに努めつつありと說明せり。次に財政上の方針に關する質問は頗る多端に亙りしも、之を大別して三點に歸することを得べし。卽ち(一)大正八年度に計上せられたる時局の趨勢と經濟界の狀態に鑑み、甚しく過大に失するものの如し。政府は果して豫定の歳

入を得る確信ありや否や(二)八年度に於ける公債募集の豫定額は事業公債及國庫證券等頗る巨額に上るものなるが、斯くの如く巨額の公債を一時に市場に募らんとせば經濟市場を壓迫するの不安なきや否や(三)現在既に內外國債の巨額なるに加へて今又多額の募債を以てす。彼此巨額の國債に對し相當なる減債基金を設けざるに於ては、豫定年期に至つて外國債務を償還すること困難なるに至らざるや否やの點是なり。之に對し當局大臣は左の如き意味の答辯をなせり。卽ち(一)大正八年度歲入に關しては、既に過去數年間民間に於て巨額の資本を生產的事業に投じたる結果、之に對し自ら相當の收益を見るべく隨つて政府は今回提出せる歲入豫算に計上する所のものを以て相當と信ず(二)八年度に於ける公債募集に關しては、政府は經濟界を壓迫せざる程度に於て適當に之を募集せんとするの方針にして、質問者の憂ふる如き不安を懷かしめざることに努むべし(三)今後豫定の年期內に償還すべき外國債務に對しては、一部は減債基金法に依つて相當に按排し、又一般會計より是が償還に充て、尙殘餘のものに對しては萬一海外の經濟狀況にして外債の轉換に便ならずとせば、內國に於ける民間に所有せる外國債券を以て之に轉換する餘地ありと信ず。故に何等之に對する不安を要せずと。次に稅制整理卽ち現行の營業稅法・印紙稅法其の他通行稅法等に就ては、政府は輓近經濟界の激變に伴ひ是が整理を必要と感じ居るや否やの質問に對しては、政府も其の必要を認め目下是が調査に著手し、成るべく速に成案を得んとするものなりと答へたり。更に又鐵道軌制卽ち廣軌狹軌の何れを採るやの問題は、明治四十二年以來議會に論議されたる問題にして、其の主張は屢〻變更され、今や殆んど一定の方針ありや否やを疑はしむるものなるが、今回一委員の質問に對し鐵道院總裁は、現在の軌幅は之を此儘維持し以て改良普及を圖り、車輛・機關車及橋梁等を强度に堪へ得る設備に改め、其の積載及輸送能力を增加せしむる方針に一定し、廣軌制を採用せざるに決せりと言明せり。卽ち之に依つて鐵道は狹軌に依つて改良せられ、線路の延長を圖るの方針に一定せられしものと認め得たり。終りに臨み二箇の希望ありしを報告せん。卽ち其の一は第一分科會の希望にして、其の成文を示せば「大正八年度の豫算を見るに歲入の見積過大なるの憾あり。又公債募集巨額に上り之が實行容易ならざるの虞あり。仍て政府は豫算の實行上玆に將來の財政計畫に付ては愼重の注意あらんことを望む」。次は第五分科會の希望にして、卽ち「吾國の如き天然資源の富饒ならざる邦土に於ては、之が保存利用に關し永遠の政策を定め、深甚の注意を加へざるべからず。然るに鑛山森林の經營の實際に徵するに、往々にして濫掘濫伐に流れ、從て國富を濫費するの憂なきを得ず。政府は此點に關し十分の考慮を爲し、進で之等の消費に關し合理的利用の方法を攻究せられんことを希望す」。右は何れも豫算總會に於ける希望とするに決したり。以上は審議の經過の大要なるが、豫算其のものに對しては異議なく衆議院送付の通之を可決せり。」

斯くて採決の結果豫算案は總て委員長報告の通卽ち原案の通可決せられしを以て、玆に兩院の協贊を經たる大正八年度總豫算は裁可を經て大正八年三月二十四日左の如く公布せられたり。

大正八年度歲入歲出總豫算表

科目	金額	科目	金額	科目	金額
歲入		租稅	四九二、八〇一、九九一円	所得稅	一三一、〇四五、六九五円
經常部		地租	七三、八〇九、五三三	營業稅	三三、七四五、六〇六

科目	金額
相續税	三、九四三、九九四円
通行税	六、九六五、〇四〇
鑛業税	五、〇八五、三一三
兌換銀行券發行税	八九六、二三七
酒税	一〇九、三三七、九六三
醬油税	五、二四九、七九〇
砂糖消費税	三一、一一三、五三八
織物消費税	二一、八九四、六四六
石油消費税	一、〇一二、九九一
賣藥營業税	二三八、三四四
取引所税	八、五一〇、五〇三
關税	五九、三九三、七四七
噸税	五五九、〇六二
印紙收入	五一、九五三、四四六
印紙收入	五一、九五三、四四六
官業及官有財産收入	二六〇、〇二五、九一五
郵便電信及電話收入	一二六、八六六、九九二
森林收入	一六、五三二、二八六
配當金收入	三、八六七、一八〇
囚徒工錢及製作收入	二、二九八、八二四円
官有物貸下料	三三一、九七九
印刷局益金	四七二、五九五
專賣局益金	七三、八〇七、七四一
東京砲兵工廠益金	五九、七〇〇
大阪砲兵工廠益金	六六、五五〇
千住製絨所益金	三、二〇五
海軍採炭所益金	一六、八〇四
海軍工廠資金益金	一、〇〇〇、〇〇〇
海軍火藥廠益金	七〇〇、〇〇〇
製鐵所益金	三五、〇〇三、〇五九
雜收入	五、九二九、七二八
免許及手數料	二四八、八四六
懲罰及沒收金	一、〇三七、八一四
辨償及違約金	七九一、四〇二
税關雜收入	三三三、四七四
雜入	二、三六六、九六〇
官吏遺族扶助法納金	四〇五、一九〇
學校圖書館職員退隱及遺族扶助料法納金	二一一、四六〇
一年志願兵及幼年學校自費生納金	五四一、四四〇円
小笠原島地方收入	三、一四三
預金特別會計ヨリ繰入	二八、四三九、八六三
預金利子繰入	二八、三四六、六一四
利子拂手數料繰入	八三、二四九
經常部合計	八三九、一四〇、九四三
臨時部	
官有物拂下代	三、九四二、九八七
鑛山拂下代	六、〇〇〇
地所拂下代	一、六七四、一九一
建物拂下代	四三、〇三九
物品拂下代	一、九一七、九八五
船舶拂下代	五二、九一八
家畜拂下代	二四九、八五四
雜收入	一〇、八三五、六九九
海軍受託造修收入	五五〇、八〇六
航路標識管理所受託造修收入	二〇、〇三九
返納金	八三一、七三九
利子收入	九、四三三、一三五

科目	金額
地方分擔納付金	五、四五五、三三三
地方分擔納付金	五、四五五、三三三
港灣設備費納付金	二一〇、〇〇〇
港灣設備費納付金	二一〇、〇〇〇
港灣修築費納付金	七四五、〇〇〇
港灣修築費納付金	七四五、〇〇〇
河川改修費納付金	二、八二〇、〇〇〇
河川改修費納付金	二、八二〇、〇〇〇
公債募集金	二三、一〇〇、〇〇〇
電話事業公債及繰替借入金	二三、一〇〇、〇〇〇
森林資金繰入	四、八四九、二五一
森林資金繰入	四、八四九、二五一
陸軍營繕費補充資金繰入	六二〇、〇〇〇
陸軍營繕費補充資金繰入	六二〇、〇〇〇
學校及圖書館資金繰入	三七五、〇〇〇
學校及圖書館資金繰入	三七五、〇〇〇
造幣局資金繰入	二、〇二一、一六二
造幣局資金繰入	二、〇二一、一六二
帝國學士院學術研究獎勵金受入	二〇、〇〇〇
賞典費下賜金	二、〇〇〇
寄付金	一八、〇〇〇
獻納金	二、六七四、九〇〇
學校建築費獻納金	二、五七四、九〇〇
茶業試驗場新營費獻納金	一〇〇、〇〇〇
臨時部合計	五七、六六九、三二一
歲入總計	八九六、八一〇、一六四
歲出	
經常部	
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
外務省所管	
外務本省	九三六、三八二
俸給	一五三、四〇〇
廳費及修繕費	七四、七六八
雜給及雜費	六一、四七二
傭外國人諸給	二〇、〇〇〇
電信料	一五〇、〇〇〇
宴會費	五、〇〇〇
常設仲裁裁判所費分擔金	三、七四二
外國留學生費	五八、〇〇〇
機密費	四一〇、〇〇〇
在外公館	五、五九八、九七五
俸給	二、八四九、二七三
館費	五八六、八九七
旅費	三九〇、八二一
傭外國人諸給	三四、〇四一
裁判及登記諸費	五、四七四
在外國居留民取締費	三六九、二八四
在監人費	二四、九九七
地所家屋借料	五六六、三五七
電信料	六〇〇、〇〇〇
宴會費	一七一、八四三
諸支出金	三二、七一九
諸支出金	三二、七一九
合計	六、五六八、〇七六
內務省所管	
神宮費	一三〇、〇〇〇
神宮費	一三〇、〇〇〇
神社費及國幣社例祭幣帛料	三六五、〇四八
官國幣社費	三五〇、〇〇〇

科目	金額
國幣社例祭幣帛料	三、四七〇円
招魂社諸費	一一、五七八
內務本省	四八〇、八四五
俸給	一九八、五一〇
廳費及修繕費	五一、五一三
雜給及雜費	一二七、九三九
萬國協約分擔金	二、八九四
感化救濟及地方改良事業奬勵諸費	五〇、〇〇〇
機密費	五〇、〇〇〇
衞生試驗所	一、五八一、四四一
俸給	三四、〇七〇
事業費	七三、八六八
阿片費	一、四七三、五〇三
地方廳	七、三八六、三七四
俸給	四、七七八、八九〇
廳費及修繕費	四五七、三一五
雜給及雜費	一、六八一、一二五
北海道舊土人保護費	一七、四八八
港務費	八八、五一六
海港檢疫費	一三七、〇二〇円
小笠原島地方費	二九、三二一
伊豆七島警察費	一三、〇三九
機密費	一八三、六六〇
徵兵費	七二一、四四六
徵兵費	七二一、四四六
軍事救護費	六四四、一八四
軍事救護費	六四四、一八四
國立感化院	三六、五〇八
俸給	一一、二九〇
事業費	二五、二一八
警察講習所	三一、九〇三
俸給	二〇、八二〇
事務費	一一、〇八三
橫濱港維持費	一六〇、二六七
俸給	四、四〇〇
事業費	一五五、八六七
連帶支辨金及補助金	七、一六九、七九九
警察費連帶支辨金	六、一二三、四四二
傳染病豫防費補助	五四〇、九〇一円
地方感化院費補助	五〇、〇〇〇
精神病院費補助	三〇、〇〇〇
地方費補給	四三六、四五六
諸支出金	三三三、三六二
諸支出金	三三三、三六二
合計	一八、九三二、一七七
大藏省所管	
大藏本省	一、五一七、八九五
俸給	一九八、〇三〇
廳費及修繕費	四四、五三六
雜給及雜費	一一一、九三一
萬國協約分擔金	一、〇六三
國庫金取扱及金融事項調査監督費	一、〇五九、三三四
貯蓄債券取扱手數料	一〇三、一一三
預金利子及手數料	三八、四三九、八六三
預金利子	三八、三四六、六一四
利子拂手數料	八三、二四九
內閣	七〇、五四八

科目	金額
俸給	一八五、五三〇
事務費	二三七、五五六
褒賞費	一七四、三四三
文官試驗費	九、四〇七
文官懲戒諸費	三、七一二
機密費	一〇〇、〇〇〇
樞密院	一五八、〇九〇
俸給	一四九、四三〇
事務費	八、六七〇
貴族院	八〇一、七一八
議員諸費	六九六、〇八六
俸給	四〇、八二〇
事務費	六四、八一二
衆議院	九三九、四五五
議員諸費	八一七、七六三
俸給	四〇、八二〇
事務費	八〇、八七二
會計檢査院	二三七、二一三
俸給	一八一、四九三
事務費	五五、七二〇
行政裁判所	
俸給	七三、五五六
事務費	八、三〇三
稅關	一、七九九、〇八三
俸給	五三三、三一〇
廳費及修繕費	三三八、四八六
雜給及雜費	四四五、七〇六
處分費	七三、〇〇九
配當金	二五一、三三三
特派官吏費	一六五、七〇〇
機密費	二、六五〇
內國稅徵收費	二、四三四、四七四
俸給	二、七七三、四五〇
廳費及修繕費	三七〇、三一三
雜給及雜費	一、七四六、三五三
委員會費	二〇二、二一四
處分費	八四、九五九
印紙類諸費	一六八、二八五
市町村交付金	六、〇八九、〇〇二
釀造試驗費	八五、六五一
俸給	一六、三四〇
事業費	六九、三二一
諸拂戻及缺損補塡金	八、〇三〇、六三四
諸拂戻及缺損補塡金	八、〇三〇、六三四
國債整理基金繰入	一二〇、五七一、七三四
國債整理基金繰入	一二〇、五七一、七三四
臺灣關稅諸收入繰入	二、〇四六、八八一
臺灣關稅諸收入繰入	二、〇四六、八八一
煙草專賣益金樺太廳特別會計繰入	一九七、九七八
煙草專賣益金樺太廳特別會計繰入	一九七、九七八
諸支出金	七五、四〇四
諸支出金	七五、四〇四
國庫豫備金	八、〇〇〇、〇〇〇
第一豫備金	三、〇〇〇、〇〇〇
第二豫備金	五、〇〇〇、〇〇〇
合計	一七五、一〇〇、一五七
陸軍省所管	
陸軍本省	四六六、〇〇三
俸給	二七四、三七六
廳費及修繕費	六三、八七七

科目	金額
雜給及雜費	一二七、七五〇円
軍事費	九〇、五七〇、九八六
俸給	二五、五〇四、六四六
廳費	一、〇九四、六三九
修繕費	一、四一三、三七四
旅費	二、七七九、八七一
雜給及雜費	一、九二〇、九三三
諸手當	二、六七一、一八七
外國駐在員費	一二四、四一八
糧秣費	二九、一一四、二六七
被服費	七、一六五、九八七
兵器彈藥費	九、一三七、九六〇
馬匹費	二、一三一、三九八
演習費	三、三一一、一一八
患者費	四六五、八三〇
軍隊需品費	一、八二一、三七〇
一年志願兵及幼年學校自費生諸費	五四一、四四〇
在監人費	三六、〇三七
供奉費	一三、六一五
輸送費	一、二〇八、四三三円
機密費	二五五、四七四
憲兵費	三、五四三、五七五
俸給	二、〇九二、八九一
廳費及修繕費	三〇四、二八五
雜給及雜費	六四八、一六八
諸手當	八九、一七三
糧秣費	二〇三、七七七
被服費	八〇、三三六
兵器彈藥費	五一、〇三四
馬匹費	二三、五七六
在監人費	一、八三〇
機密費	四八、五一六
廢兵院	三九、七九六
俸給	五、六一六
事務費	三、七四二
廢兵費	三〇、四三八
馬政局	一、九四四、六六七
俸給	一二七、九九八
廳費及修繕費	三一、七三四円
雜給及雜費	九〇、〇三一
奬勵費	四六二、五七三
事業費	一、〇六五、八〇八
去勢費	一六五、五三三
靖國神社寄付金	七、五五〇
靖國神社寄付金	七、五五〇
諸支出金	四七〇、八九八
諸支出金	四七〇、八九八
合計	九七、〇四三、四七五
海軍省所管	
海軍本省	三七四、五六八
俸給	二七七、〇三五
廳費及修繕費	三七、四〇一
雜給及雜費	六〇、一四三
軍事費	六〇、四八九、四五九
俸給	一七、三三五、六九三
廳費	二〇八、四九一
修繕費	二三七、一一八

科目	金額
雜給及雜費	一、〇二七、五二八
諸手當	五三四、五七三
衣糧費	八、七〇九、一一〇
造船造兵及修理費	一九、四九三、五八〇
演習費	三七九、五〇二
患者費	三一〇、五五六
軍港要港費	三六八、九〇八
艦營費	一〇、七七九、四五八
水路費	一七七、七〇二
教育諸費	四一九、一三五
扶助費	四八三、二一七
在監人費	六、五九三
傭外國人諸給	二八、二九六
機密費	八〇、〇〇〇
艦船經費繰替金	二〇、〇〇〇
諸支出金	二二、九一一
諸支出金	二二、九一一
合計	六〇、八八六、九三八
司法省所管	
司法本省	一九七、二五一
俸給	八八、五六〇
廳費及修繕費	一九、四二七
雜給及雜費	二八、二六九
判事檢事及辯護士試驗費	九、九九五
萬國監獄常設委員會費分擔金	一、〇〇〇
監獄官練習所補助費	二〇、〇〇〇
免囚保護事業奬勵費	三〇、〇〇〇
裁判所	八、七六三、〇三八
俸給	五、六七五、三五五
廳費及修繕費	七八六、八二三
雜給及雜費	一、六四八、八二一
裁判及登記諸費	五八四、〇五〇
機密費	六八、〇〇〇
監獄	七、四六三、五三六
俸給	三〇四、八一六
廳費及修繕費	二三一、〇五四
雜給及雜費	二、六〇三、九九八
在監人費	四、三三三、六五八
諸支出金	五八、五七五
諸支出金	五八、五七五
合計	一六、四八三、三六〇
文部省所管	
文部本省	七〇一、五九八
俸給	一六〇、六三〇
廳費及修繕費	四三、七八九
雜給及雜費	一四二、九一九
萬國協約分擔金	七、〇一五
學藝研究及奬勵費	七三、七三八
帝國學士院學術研究奬勵費支出金	二〇、〇〇〇
外國留學生費	二五四、五〇七
中央氣象臺	一〇三、〇〇八
俸給	三八、九〇〇
事務費	六三、一〇八
緯度觀測所	九、五二八
俸給	六、一九〇
事務費	三、三三八
醫師及藥劑師試驗費	六八、二〇九
俸給	一、七四〇
事務費	三八、九四九
齒科療院費	一四、五三〇

科目	金額
醫師試驗用患者費交付金	一三、〇〇〇円
大學及學校圖書館支出金	七、六三三、四一七
東京帝國大學支出金	一、六七七、三三〇
東京帝國大學航空研究費支出金	一一七、九六九
京都帝國大學支出金	一、〇三五、一〇〇
東北帝國大學支出金	六四〇、一一六
九州帝國大學支出金	五三五、四八二
北海道帝國大學支出金	二六五、九二八
學校及圖書館支出金	三、三六一、五〇三
普通教育費	一三、五〇〇、〇〇〇
小學校教員俸給分擔金	一〇、〇〇〇、〇〇〇
小學校教育費補助	二、〇〇〇、〇〇〇
普通教育諸費	五〇〇、〇〇〇
實業教育費	三一九、六三〇
實業教育費補助	二八〇、〇〇〇
實業教育獎勵費	九、九九五
實業教員養成費支出金	二九、六三五
獎勵費	一五〇、〇〇〇
科學研究獎勵費	一五〇、〇〇〇

科目	金額
古社寺保存補助及補給費	二〇〇、〇〇〇円
古社寺保存補助及補給費	二〇〇、〇〇〇
諸支出金	二、九三五
諸支出金	二、九三五
合計	**三二、六八七、二九五**
農商務省所管	
農商務本省	六五三、〇四二
俸給	二九七、五八〇
廳費及修繕費	五八、六八四
雜給及雜費	一〇三、〇三一
萬國協約分擔金	二〇、九三三
度量衡費	五一、七五三
調査事業費	三三、四六九
商品陳列館諸費	四一、二五六
漁業取締費	二八、一四九
種牡牛檢査費	一〇、七〇七
重要技術員養成費	七、五〇〇
特許局	一九九、五八六
俸給	一〇九、四五〇

科目	金額
事務費	九〇、一三六円
森林費	五、五〇九、八七三
俸給	七八九、五八〇
事務費	四四三、〇七六
事業費	四、二七七、二一七
鑛務署	三九一、七六五
俸給	三三三、〇六〇
事務費	一六九、七〇五
農事試驗場	一七九、四一九
俸給	七七、三三〇
事業費	一〇三、一九九
水産講習所	一九三、四七三
俸給	四六、五七〇
事業費	一四六、九〇三
生絲檢査所	二一〇、六七五
俸給	三五、一三〇
事業費	八五、五四五
畜產改良費	二一〇、六八七
俸給	三七、八五〇

科目	金額
事業費	一八二、八三七
工業試驗所	三九三、二九六
俸給	一三八、五〇〇
事業費	二六四、七九六
花莚檢査所	五五、四〇六
俸給	一三、四六〇
事業費	四一、九四六
蠶業試驗場	三九一、一一二
俸給	八四、六七〇
事業費	三〇六、四四一
植物檢査所	四九、四九〇
俸給	一七、〇三〇
事業費	三二、四七〇
絹業試驗所	六七、六七五
俸給	一四、七〇〇
事業費	五二、九七五
補助費	五五七、一六〇
農會補助	八五、八五二
産業試驗費講習費補助	一一八、五六九
蠶病豫防費補助	三三〇、〇〇〇

科目	金額
輸出絹織物檢査費補助	三二、七三九
諸支出金	七八、五四〇
諸支出金	七八、五四〇
陶磁器試驗所	三〇、九五〇
俸給	八、八三四
事業費	二二、一一六
茶業試驗場	一〇、〇〇九
俸給	四、九六九
事業費	五、〇四〇
合計	**九、〇七一、一五七**
遞信省所管	
遞信本省	五九九、八〇四
俸給	二七九、二〇〇
廳費及修繕費	一〇三、九五四
雜給及雜費	二一五、六五〇
萬國航海會議補助費	二、〇〇〇
遞信費	五〇、六四六、二九五
俸給	三、八三五、三三〇
遞信事業費	三〇、二五七、四七六
諸拂戾金	一六、五四一、七〇五

科目	金額
審判費	一、六九三
萬國郵便電信聯約費	五、二〇一
機密費	五、〇〇〇
電氣試驗所	一七一、三六〇
俸給	五九、五三〇
事業費	一一一、八三〇
航路標識費	四一五、三七五
俸給	二二一、四二八
航路標識事業費	一九三、九四七
商船學校	二一五、二九三
俸給	六二、三一〇
校費	一五三、九八三
年金及恩給	三九、〇〇六、〇〇四
年金	九、六三八、七四四
恩給	二九、三六七、二六〇
諸支出金	四八、五四八
諸支出金	四八、五四八
合計	**九一、一〇三、六七九**
經常部合計	**五〇一、三六三、三三四**
臨時部	

科目	金額
外務省所管	
營繕費	四九三、五〇〇円
在外公館修築費	二九三、五〇〇
在哈爾賓總領事館新築費	一三〇、〇〇〇
外務本省廳舍其他增築費	七〇、〇〇〇
在外公館移轉費	三三、五〇〇
在外公館移轉費	三三、五〇〇
在外公館創立費	一六九、〇〇〇
在外公館創立費	一六九、〇〇〇
東亞同文會事業費補助	四九二、〇七五
東亞同文會事業費補助	四九二、〇七五
同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇
同仁會事業費補助	一〇〇、〇〇〇
合計	一、二七七、〇七五
内務省所管	
補助費	四、三二八、〇〇〇
水道費補助	一、四〇〇、〇〇〇
水道鐵管增費補助	四六〇、〇〇〇
河川改修費補助	一、一三八、〇〇〇
港灣修築費補助	八二〇、〇〇〇円
道路改良費補助	五〇〇、〇〇〇
治水事業費	一九、九〇五、〇九一
事務費	八五五、五二〇
河川費	一八、五一六、四〇五
砂防費	五三三、一六六
河川改良費	三、八五二、五〇〇
河川調査費	三二、五〇〇
千曲川改修費	一、〇五五、〇〇〇
多摩川改修費	四三五、〇〇〇
澱川改修工事增補費	一、〇〇〇、〇〇〇
阿賀川及阿武隈川改修費	九〇〇、〇〇〇
太田川改修費	四三〇、〇〇〇
港灣改良費	二、五〇五、〇〇〇
關門海峽改良費	一、二六〇、〇〇〇
鹽釜港修築費	五五〇、〇〇〇
新潟港修築費	一九五、〇〇〇
神戸港防波堤築造費	五〇〇、〇〇〇
道路港灣調査費	四〇、〇〇〇
道路港灣調査費	四〇、〇〇〇円
北海道拓殖費	八、七四〇、四七九
殖民費	六三九、〇九八
森林費	一、一五八、八七五
産業費	三三七、〇三五
土地改良費	三〇〇、八二五
道路橋梁費	二、三〇一、八二四
河川費	三二六、七八〇
石狩川治水費	一、一〇三、九〇四
港灣費	二、三三三、七六五
鐵道及軌道助成費	三三、一五三
拓殖鐵道公債利子支出金	二〇六、三五〇
營繕費	八三〇、七三一
新營費	四六三、三四五
修繕費	三五八、四八六
造神宮使廳	二八、七九九
俸給	一〇、九四〇
事務費	一三、六四七
萱地保存費	四、三三三

科目	金額
明治神宮御造營費	一、〇九九、六九五
御造營費	一、〇九九、六九五
明治神宮外苑工事施行費	三〇、一五〇
明治神宮外苑工事施行費	三〇、一五〇
臨時神社費	六四、五〇〇
橿原神宮修築及擴張費	三〇、〇〇〇
日前國懸神宮修築竝境内整理費	三四、五〇〇
神職養成及神社調査費	二〇、五〇〇
神職養成及神社調査費	二〇、五〇〇
傳染病豫防費	二四九、三四六
傳染病豫防費	二四九、三四六
醫藥品製造奬勵費	三二八、三〇九
醫藥品製造奬勵費	三二八、三〇九
保健衛生調査及衛生事業奬勵費	六四、三八〇
保健衛生調査及衛生事業奬勵費	六四、三八〇
藥用植物試驗費	三三、五〇六
藥用植物試驗費	三三、五〇六
小笠原島殖産事業費	三三、〇八二
森林經營費	四、八四四
水産經營費	一七、二三八
伊豆七島水産經營費	二五、一九六
伊豆七島水産經營費	二五、一九六
沖繩縣輕便鐵道建設費補給	一〇〇、〇〇〇
沖繩縣輕便鐵道建設費補給	一〇〇、〇〇〇
縣債利子補給	四五〇、五三五
土木費借入金利子補給	四五〇、五三五
横濱市稅補給	八〇、〇〇〇
横濱市稅補給	八〇、〇〇〇
都市計畫調査費	二五、三〇八
都市計畫調査費	二五、三〇八
議員總選擧取締費	一五〇、〇〇〇
府縣會及郡會議員總選擧取締費	一五〇、〇〇〇
開墾監督費	一三、〇〇〇
開墾監督費	一三、〇〇〇
合計	四二、九五五、〇九七
大藏省所管	
羅災救助基金補助	二〇、〇〇〇
羅災救助基金補助	二〇、〇〇〇
營繕費	五、三二四、一四三
神戸税關海陸運輸連絡設備費	六〇〇、〇〇〇
煙草製造專賣創業建設費	九〇〇、〇〇〇
門司稅關設備費	二六一、〇〇〇
大阪稅關火災復舊其他新營費	二〇八、〇〇〇
議院建築費	三五〇、〇〇〇
内閣記錄課書庫新營費	五〇、〇〇〇
鹽專賣用倉庫新營費	三五〇、〇〇〇
函館稅關小樽支署用地買收費	八五、三〇三
印刷局設備擴張費	六三七、〇四五
煙草製造工場其他擴張費	一、三二八、七六六
長崎稅關監視部廳舍改築費	三〇、〇〇〇
新營費	三四四、九四三
修繕費	二六九、〇八七
海外駐劄財務官費	二三五、九一五
事務費	一八〇、九一五
機密費	四五、〇〇〇
臨時秩祿處分調査費	八、〇五〇
臨時秩祿處分調査費	八、〇五〇
特別會計經費補充金	三、三〇〇、〇〇〇
關東都督府經費補充金	三、〇〇〇、〇〇〇
樺太廳經費補充金	三〇〇、〇〇〇

科目	金額
内閣圖書保存費	八、八五六円
内閣圖書保存費	八、八五六
田畑地價調査費	四〇八、九〇三
田畑地價調査費	四〇八、九〇三
軍人恩給更正諸費	一七、八五〇
軍人恩給更正諸費	一七、八五〇
國勢調査費	七三八、八五八
國勢調査費	七三八、八五八
官有財產調査費	二六、四二一
官有財產調査費	二六、四二一
森林資金返償	二、六四九、三五一
森林資金返償	二、六四九、三五一
朝鮮總督府特別會計繰入	六五〇、〇〇〇
朝鮮總督府特別會計繰入	六五〇、〇〇〇
造幣局据置運轉資本補足	一、五〇〇、〇〇〇
造幣局据置運轉資本補足	一、五〇〇、〇〇〇
造幣局設備擴張費	五三一、一六二
造幣局設備擴張費	五三一、一六二
人口靜態統計定期編纂諸費	七、一二七
人口靜態統計定期編纂諸費	七、一二七円
臨時統計講習會諸費	二、六〇三
臨時統計講習會諸費	二、六〇三
合計	**一五、四〇九、一二九**
陸軍省所管	
砲臺建築費	三〇〇、〇〇〇
東京灣砲臺建築費	三〇〇、〇〇〇
營繕費	一、七七八、六四〇
舊營舍倉庫蟻害其他修築費	二〇〇、〇〇〇
火藥庫其他改造築費	一〇〇、〇〇〇
小銃射擊場移轉改造築費	一〇〇、〇〇〇
演習廠舍新築及改修費	五〇、〇〇〇
姬路城西丸櫓其他改修費	三三、三四五
久留米軍用水道新設費	一七五、〇〇〇
朝鮮國境守備隊營舍其他新營費	六七、七九五
錠劑製造所設備費	四一、五〇〇
種馬所及種馬牧場廐舍改修費	三〇、〇〇〇
新營費	四八二、〇〇〇
修繕費	五〇〇、〇〇〇
土地建造物整理費	二八七、一六三円
土地建造物整理費	二八七、一六三
整備費	八、七八七、九六九
整備費	八、七八七、九六九
軍備充實費	一三、一三七、六五三
營繕及初度調辦費	一三、一三七、六五三
朝鮮師團營繕及初度調辦費	四、五七四、一九五
朝鮮師團營繕及初度調辦費	四、五七四、一九五
航空隊設備費	三四六、四九九
營繕及初度調辦費	三四六、四九九
機關銃隊充備費	五六七、九〇七
營繕及初度調辦費	五六七、九〇七
山砲兵隊充備費	二六八、八九九
營繕及初度調辦費	二六八、八九九
部隊改編費	九、三三三、五九九
營繕及初度調辦費	九、三三三、五九九
臺灣營舍營繕及初度調辦費	五二〇、七三〇
臺灣營舍營繕及初度調辦費	五二〇、七三〇
兵器製造所新設費	一、五〇〇、〇〇〇

科目	金額
兵器製造所新設費	一、五〇〇、〇〇〇
土地建造物利用費	一三〇、〇〇〇
土地建造物利用費	一三〇、〇〇〇
無線電信研究費	一三〇、〇〇〇
無線電信研究費	一三〇、〇〇〇
自動車研究費	二九六、四九三
自動車研究費	二九六、四九三
特種兵器製造及試驗費	八〇三、一三六
特種兵器製造及試驗費	八〇三、一三六
朝鮮及支那馬調査費	四三、七九三
朝鮮及支那馬調査費	四三、七九三
測量費	二八五、三一八
俸給	八六、七五二
事務費	五、二七六
事業費	一九三、二九〇
拂下地圖製造費	九一、〇〇〇
拂下地圖製造費	九一、〇〇〇
支那駐屯部隊費	九六九、八六七
支那駐屯部隊費	九六九、八六七
匪徒鎭定費	三〇、〇〇〇
匪徒鎭定費	三〇、〇〇〇
一時賜金	二、四四五
一時賜金	二、四四五
軍人恩給調査事務費	三〇、五五〇
軍人恩給調査事務費	三〇、五五〇
豫備兵器改修費	二六〇、九九六
豫備兵器改修費	二六〇、九九六
架橋縱列器材改修費	一〇〇、〇〇〇
架橋縱列器材改修費	一〇〇、〇〇〇
馬政事業設備費	八四、一〇五
馬政事業設備費	八四、一〇五
砲兵工廠据置運轉資本補足	二、〇〇〇、〇〇〇
砲兵工廠据置運轉資本補足	二、〇〇〇、〇〇〇
軍需品臨時補塡費	八七三、八五三
軍需品臨時補塡費	八七三、八五三
自動車奬勵費	二四九、三五〇
自動車奬勵費	二四九、三五〇
移動式體操器械調辦費	一二、五八八
移動式體操器械調辦費	一二、五八八
合計	**四七、六四三、七三八**
海軍省所管	
營繕費	二八三、一三九
兵學校實驗室移築竝手術室新營費	一六、三四七
馬公要港部官舍改築費	三〇、〇〇〇
旅順要港部宿舍改築費	五五、〇〇〇
海軍技手養成所新營費	七三、三八八
新營費	五九、四九四
修繕費	五〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	四〇〇、〇〇〇
鎭海軍港第一期設備費	四〇〇、〇〇〇
受託造修費	五四〇、〇〇〇
受託造修費	五四〇、〇〇〇
臨時海軍建築部費	四四、九三〇
俸給	三〇、七八七
事務費	一四、一四三
拂下圖誌製造費	七六、〇〇〇
拂下圖誌製造費	七六、〇〇〇
軍備補充費	一五三、二七七、八〇三
軍艦製造費	一五三、二七七、八〇三
水陸設備費	三〇、〇三六、七一五

科目	金額
水陸設備費	二〇、〇三六、七二五円
準備軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
準備軍需品費	四、〇〇〇、〇〇〇
艦艇火藥庫改造費	三、七六〇、〇〇〇
艦艇火藥庫改造費	三、七六〇、〇〇〇
航空隊設備費	一、一四九、八二四
航空隊設備費	一、一四九、八二四
臨時兵器補充費	九八五、五四〇
臨時兵器補充費	九八五、五四〇
艦船特定修理費	一、五〇〇、〇〇〇
艦船特定修理費	一、五〇〇、〇〇〇
臺灣豫備油田試掘費	四二、八六三
臺灣豫備油田試掘費	四二、八六三
火藥廠設備費	二〇五、四五一
火藥廠設備費	二〇五、四五一
無線電信所設備費	四三三、三七八
無線電信所設備費	四三三、三七八
大演習觀艦式費	三〇、〇〇〇
大演習觀艦式費	三〇、〇〇〇
恩給事務取扱費	九、五五四円
恩給事務取扱費	九、五五四
一時賜金	一〇〇
一時賜金	一〇〇
海軍工廠資金補足	一、〇〇〇、〇〇〇
海軍工廠資金補足	一、〇〇〇、〇〇〇
海軍火藥廠運轉資本繰入	七〇〇、〇〇〇
海軍火藥廠運轉資本繰入	七〇〇、〇〇〇
雜船製造費	五〇〇、〇〇〇
雜船製造費	五〇〇、〇〇〇
教育物品增備費	二〇〇、〇〇〇
教育物品增備費	二〇〇、〇〇〇
艦船救難及復舊費	三七〇、〇〇〇
舊軍艦河內解船引揚費	三七〇、〇〇〇
合計	一八八、五四四、二九六
司法省所管	
法律調查費	三八、九〇〇
法律調查費	三八、九〇〇
營繕費	二、二三〇、六四一
東京區裁判所建築費	二〇〇、九五〇円
熊本監獄建築費	五三、〇〇〇
名古屋控訴院地方裁判所區裁判所建築費	二〇四、〇〇〇
松山監獄建築費	四〇、〇〇〇
宮城控訴院仙臺地方裁判所區裁判所建築費	一二〇、〇〇〇
富山分監建築費	四〇、〇〇〇
大阪監獄建築費	二三〇、〇〇〇
京都地方裁判所區裁判所建築費	九〇、〇〇〇
宮崎監獄建築費	五一、五〇〇
新潟監獄建築費	二〇、〇〇〇
尾道分監建築費	二六、〇〇〇
宮城監獄長期監建築費	三〇、〇〇〇
岩國分監幼年監建築費	一五、〇〇〇
小菅監獄監房建築費	二〇、〇〇〇
名古屋監獄幼年監建築費	一五、〇〇〇
松本分監幼年監建築費	二〇、〇〇〇
新營費	九八二、四三四
修繕費	七四、七五七
合計	二、二六九、五四一

科目	金額
文部省所管	
營繕費	二、二六八、七三〇
岡山醫學專門學校校舍改築費	一二〇、〇〇〇
大阪高等工業學校校舍新營費	三九〇、〇〇〇
鹿兒島高等農林學校養蠶科新設費	九〇、〇〇〇
桐生高等染織學校應用化學科新設費	一三三、〇〇〇
中央氣象臺移轉改築費	九〇、〇〇〇
東京外國語學校擴張費	二〇六、二五〇
高等工業學校擴張費	一九九、五四〇
高等農業學校擴張費	一五六、三五六
中央氣象臺擴張費	二〇〇、〇〇〇
直轄學校校舍改築費	二四一、五六〇
新營費	四〇〇、四三七
修繕費	五一、五八七
學校創立費	二、五五九、九〇〇
第九高等工業學校創立費	三四四、〇〇〇
第十高等工業學校創立費	三四九、〇〇〇
第十一高等工業學校創立費	一二五、〇〇〇
第十二高等工業學校創立費	六三、六〇〇
第三高等農業學校創立費	一七三、五〇〇
第六高等商業學校創立費	一六九、〇〇〇
第九高等學校創立費	一五三、二〇〇
第十高等學校創立費	一五三、二〇〇
第十一高等學校創立費	一五三、二〇〇
第十二高等學校創立費	一五三、二〇〇
第十三高等學校創立費	二五〇、〇〇〇
第十四高等學校創立費	一五〇、〇〇〇
第十五高等學校創立費	一五〇、〇〇〇
藥學專門學校創立費	一七七、〇〇〇
大學及學校圖書館臨時支出金	一、五八三、七八一
東京帝國大學支出金	四〇〇、〇〇〇
東京帝國大學航空研究費支出金	三三六、六二八
京都帝國大學支出金	二七〇、〇〇〇
東北帝國大學支出金	三六七、五七五
九州帝國大學支出金	二七三、七〇〇
北海道帝國大學支出金	二五、〇〇〇
學校及圖書館支出金	二、八七八
臨時調查費	二、四二五
諸學校教科細目調查費	一、四二五
實業教育調查費	二〇、〇〇〇
教育諮問委員會費	一五、〇〇〇
教育諮問委員會費	一五、〇〇〇
臨時教員養成費	二六、五〇四
臨時教員養成所費	一二、八八四
學生給費	一三、六三〇
臨時外國留學生費	六七、二〇〇
臨時外國留學生費	六七、二〇〇
臨時維新資料編纂事務局費	四五、五三九
俸給	一七、四〇〇
事務費	二八、一三九
縣債利子補給	五、五九三
教育費借入金利子補給	五、五九三
古社寺特別保護建造物及國寶臺帳調製費	一〇、〇〇〇
古社寺特別保護建造物及國寶臺帳調製費	一〇、〇〇〇
合計	六、六〇三、六七一
農商務省所管	
產業獎勵費	三、七三九、六九一
外國貿易擴張費	一五四、八一九
遠洋漁業獎勵費	二六九、〇三四
農事改良獎勵費	一、一一五、五三〇

科目	金額	科目	金額	科目	金額
糖業改良費	三六、二七三円	東京工業試驗所新營費	六〇〇、〇〇〇円	鑛物調査費	一六、二一三円
蠶絲業改良奬勵費	一六二、八七四	新營費	一、〇七五、九〇九	鑛毒調査費	三、〇〇〇
工業奬勵費	五一五、三五〇	修繕費	一三五、六六一	炭坑爆發豫防調査費	三〇、三六七
輸出水產物檢査費補助	九、一四二	國有林野經營費	四、八四九、二五一	海外漁業調査費	九、四二九
府縣聯合共進會費	二、四二三	俸給	四〇〇、九六〇	米穀貯藏研究費	二七、四五〇
理化學研究所補助	二五〇、〇〇〇	事業費	四、四三七、七五一	油田調査費	三三、六三三
副業奬勵費	一一八、六〇一	諸支出金	一〇、五四〇	窒素研究費	九五、四五三
發明奬勵費	七〇、〇〇〇	治水事業費	一、〇〇〇、〇〇〇	工場災害豫防竝工場及鑛業衞生調査費	三五、五四七
緬羊飼育奬勵費	四〇六、七〇五	調査及監督費	二六四、八四〇	有益鳥類調査費	一一、九八八
漁港修築奬勵費	三〇八、〇〇〇	營繕費	五〇、一六〇	度量衡及規格統一調査費	一一、二八八
漁業組合事業改良奬勵費	一一、三三五	補助及補償費	六八五、〇〇〇	工業用原料調査費	五一、五二〇
開墾奬勵費	六四、五八〇	獸疫及害蟲費	九三、五三〇	特許局分類整理費	一三、五六〇
畜產增殖奬勵費	八八、八〇六	獸疫費	三三、五三〇	特許局分類整理費	一三、五六〇
林業奬勵費	一四七、二五〇	害蟲費	六〇、〇〇〇	合計	三三、七四六、六三四
製鐵所擴張費	二〇、八七五、七八〇	膃肭獸保護費	五四、七一四	遞信省所管	
事務費	二三三、七八〇	膃肭獸保護費	五四、七一四	補助費	六、三八〇、六五三
工場費	一九、九四二、〇〇〇	漁業免許處分費	三、六八〇	海員養成補助	三〇、〇〇〇
原料鑛山費	七〇〇、〇〇〇	漁業免許處分費	三、六八〇	水難救濟補助	二〇、〇〇〇
營繕費	一、八二一、五七〇	臨時調査費	三一四、八六八	航路擴張費	六、三三〇、六五三

科目	金額	科目	金額	科目	金額
電信電話營繕費	三、五二一、二五三	修繕費	一五六、四七三	受託造修費	三〇、〇三九
東京京城間電信線路增設費	三七七、九二六	電話交換擴張費	二三、一〇〇、〇〇〇	電信電話裝置改良研究費	七三、一七四
電信電話營繕費	三、一三三、三二六	俸給	一九五、一五〇	電信電話裝置改良研究費	七三、一七四
航路標識營繕費	二一〇、九九四	事業費	三、九〇四、八五〇	器具機械設備費	八七、一九九
チキウ岬航路標識新設費	五一、四九四	電氣工業用發電水力調査費	一八五、四〇三	器具機械設備費	八七、一九九
猿山岬燈臺新設費	三三、一七四	俸給	五一、二八〇	合計	三五、六四五、一二〇
新營費	一〇〇、一三六	事業費	一三四、一三三	臨時部合計	三七三、〇九四、三九一
修繕費	二七、一九〇	無線電信局設置費	六二〇、一二〇	歳出總計	八七四、四五七、六二三
營繕費	一、四六七、二七七	無線電信局設置費	六二〇、一二〇		
新營費	一、三二〇、八〇四	受託造修費	三〇、〇三九		

新規繼續費表

事項	總額	大正八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	自同十三年度至同二十二年度
在哈爾賓總領事館新築費	二六〇、〇〇〇円	一三〇、〇〇〇円	一二六、〇〇〇円	四、〇〇〇円	〇円	〇円	〇円
阿賀川及阿武隈川改修費	一四、五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
太田川改修費	三、六五〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	五三〇、〇〇〇	五三〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
石狩川治水費	五、六六七、一九二	一、一〇三、九〇四	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	五七六、三五〇	七七〇、〇〇〇	二、〇一六、九三八
日前國懸神宮修築竝境內整理費	三四四、九四七	三四、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一一〇、四四七	〇	〇
內閣記錄課書庫新營費	九一、四三〇	五〇、〇〇〇	四一、四三〇	〇	〇	〇	〇

事項	總額	大正八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	自同十三年度至同二十二年度
造幣局設備擴張費	一、一一四、九五三円	五二、一六二円	三六八、九五四円	三一四、八三六円	〇円	〇円	〇円
部隊改編費	二、八六九、四九八	九、二三三、五九九	一、六五三、〇二一	九九三、八七八	〇	〇	〇
馬公要港部官舍改築費	一三四、〇五九	三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三四、〇五九	〇	〇	〇
旅順要港部宿舍改築費	二四八、〇〇〇	五五、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	八三、〇〇〇	〇	〇	〇
舊軍艦河内解船引揚費	六八三、一〇〇	二七〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	四三、一〇〇	〇	〇	〇
宮崎監獄建築費	二〇六、〇〇〇	五一、五〇〇	五一、五〇〇	五一、五〇〇	〇	〇	〇
新潟監獄建築費	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
尾道分監建築費	一〇四、〇〇〇	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	〇	〇	〇
宮城監獄長期監建築費	八〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	〇	〇	〇
岩國分監幼年監建築費	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇	〇	〇
小菅監獄監房建築費	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇	〇	〇
名古屋監獄幼年監建築費	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇	〇	〇
松本分監幼年監建築費	四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	〇	〇	〇
鹿兒島高等農林學校養蠶科新設費	二五〇、八〇〇	九〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	〇	〇	〇
桐生高等染織學校應用化學科新設費	三四、七五〇	一三、〇〇〇	一〇四、八〇〇	一〇六、九五〇	〇	〇	〇
第十二高等工業學校創立費	一、〇三三、〇〇〇	六三、六〇〇	二五五、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	二七四、四〇〇	〇	〇
第十三高等學校創立費	九〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	〇	〇	〇
第十四高等學校創立費	六九五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二一九、〇〇〇	二一九、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	〇	〇
第十五高等學校創立費	六九五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二一九、〇〇〇	二一九、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	〇	〇
東京工業試驗所新營費	一、一〇〇、〇〇〇	六三、八八〇	一四、五〇四、四二九	三一、七四一	六、九六六、四二一	五、〇一四、四二三	〇
猿山鰐燈臺新設費	六三、八八〇	三一、七四一	三一、七四一	三一、七四一	三一、七四一	二、八三二、六九七	〇
合計	四四、四〇四、九〇八	一四、五〇四、四二九	六、九六六、四二一	五、〇一四、四二三	二、八三二、六九七	二、三〇〇、〇〇〇	二三、九六、九八

第二款　追加豫算

大正八年度總豫算に對する追加豫算案は、第四十一回帝國議會に於て四件提出せられたり。今其の内容及之が審議の經過を說明すれば左の如し。

（一）第一號追加豫算案に計上する所の金額は歳入一億四千九百六十四萬七千四百六十一圓、歳出一億七千二百萬圓にして、歳入歳出差引歳入不足額二千二百三十五萬二千五百三十九圓は、本年度總豫算に於ける歳入超過額を以て之に充當するの計畫なり。今其の追加を要する事項金額を擧ぐれば左の如し。

歳入臨時部

山東鐵道收入	一二、四〇八、〇〇三円
青島事業收入	九九八、八七八
臨時受託造修收入	三、九九三、七一〇
戰時海上再保險收入	三、六〇〇、〇〇〇
戰時利得稅	九二、六二五、三四九

右追加豫算案は大正八年一月二十一日大正八年度總豫算案と共に衆議院に提出せられしが、衆議

借入金　二二、〇〇〇、〇〇〇円
前年度繰入金　一四、〇二二、五二一

歳出臨時部

大藏省所管

大正三年臨時事件豫備費　一七二、〇〇〇、〇〇〇

院に於ては二月十三日、貴族院に於ては三月十八日、何れも之を可決せしを以て、裁可を經て同月二十四日公布せられたり。

（二）第二號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各二百九十八萬六千四百三十圓にして、右は文部省所管歳出臨時部に於て高等諸學校創設及擴張費二百九十八萬六千四百三十圓を要求し、之が支辨財源として歳入臨時部に於て高等諸學校創設及擴張費公債金九十八萬六千四百三十圓及高等諸學校創設及擴張費下賜金二百萬圓を計上したるものなり。但し右高等諸學校創設及擴張費は總額四千四百五十三萬四百二十圓にして、大正八年度以降六箇年度間の繼續費なりとす。右追加豫算案は大正八年二月十日衆議院に提出せられ、衆議院は同月二十五日異議なく之を可決したり。貴族院は同日衆議院より追加豫算案を受領し、豫算委員會に於て審議の末之を可決すべきものと決定し三月二十五日委員長は之を本會議に報告せしが、之に對し若槻禮次郎より本追加豫算中乙號繼續費の總額四千四百五十三萬四百二十圓を千五百五十六萬六百二十圓に改め、大正八年度年割額中敎官養成費十七萬二千二百三十圓を削除せんとするの修正案を提出せしが、採決の結果右修正案は少數を以て否決せられ、本追加豫算案は全部委員長報告の通可決せられたり。右兩院の協贊を經たる第二號追加豫算は裁可を經て、同月二十八日公布せられたり。

（三）第三號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各千四百七十八萬六千三百五十九圓にして其の追加を要する事項金額の重なるものを擧ぐれば左の如し。

歳入臨時部

神戸及門司港灣設備費納付金　一、四四〇、〇〇〇圓

前年度繰入金　一三、三四六、三五九圓

歳出經常部

内務省所管

警察費連帶支辨金の增加　三一七、五四五

大藏省所管

織物組合交付金　一五八、八一八

國債整理基金特別會計繰入　二、五三四、〇二一

文部省所管

新潟松山兩高等學校授業費支出金　六一、三二四

遞信省所管

軍人恩給法附則の改正に伴ふ恩給の增加　一、四四九、八一四

歳出臨時部

内務省所管

神戸港修築費　一、〇四〇、〇〇〇
但し總額二七、一〇〇、〇〇〇圓にして、大正八年度以降十箇年度間の繼續費なり。

門司港修築費　四〇〇、〇〇〇
但し總額五、二五〇、〇〇〇圓にして、大正八年度以降八箇年度間の繼續費なり。

鳥取外四縣災害土木費借入金　三一九、二九六

利子補給　六、一三三、〇〇〇

京都府外八縣災害土木費補助　六四、三三五

大藏省所管

臨時秩祿處分調査費　一一、六八九

神戸稅務署廳舍其他火災復舊費　八三、五三五

陸軍省所管

軍人恩給調査事務費　三六、三四七

海軍省所管

橫須賀鎭守府電燈電話線雪害復舊費　七〇、八七五

大湊要港部所屬建造物風水害復舊費　三一、五二七

農商務省所管

帝國開墾株式會社補助　三〇〇、〇〇〇

大阪工業試驗所器具機械設備費　九一、〇四八

遞信省所管

電信電話線路移築費　七五、七七五

福岡縣若松郵便局新築費　一〇〇、〇〇〇

船用品檢查所設備費　一六九、〇四五

電信電話風水害其他復舊費　四五一、〇五四

仙臺郵便局舍其他火災復舊費　八二三、六二九

右追加豫算は大正八年三月十四日衆議院に提出せられしが、衆議院豫算委員會に於て之が審査を

遂げたる末、全部原案の通可決すべきものと決定し、三月二十一日豫算委員長齋藤珪次は委員會に於ける經過及結果を大要左の如く本會議に報告したり。

『委員會に於て問題の最も紛糾したるは帝國開墾會社に對する補助金にして、政府は曩に食糧問題解決の爲め開墾助成法案を提出し、既に兩院を通過したるに、今復た帝國開墾株式會社補助案を提出するが如きは矛盾せざるやとの論多く、又帝國開墾株式會社の設立は世上目して富豪と爲す人々の發起に係るものなるが故に、之が補助案は、同案が富豪を援助するものなるが如き疑惑を生せし感ありて、爲に發起人の姓名を明示し其の定款の内容を說明すべしとの質問頻に發せられたり。而して開墾助成法案の既に通過を見たる今日更に本案を提出せる眞意如何との質問に對しては、政府は食糧問題は各方面より之を攻究せざるべからざる問題にして、政府は未開墾地を開拓して米穀の産額を豐富ならしむるは刻下緊急の方策の一なりと信ずる所、偶、東北振興會及國産奬勵會より同樣の建議あり、政府の所見と同一なるを以て政府は相互の利益を慮り玆に本案を提出せしものなり。而して右開墾會社の内容と開墾助成法とを比較すれば、開墾助成法の趣旨は未開の土地を有する者にして開墾を爲さんとする者に資金の利子を補給するものなるも、帝國開墾會社は開墾事業を以て目的とし、耕作を目的とせず。故に收利も亦目的に非す。卽ち大面積の開墾を爲し、其の開墾を了せし土地は總て之を自作農たらんとする者又は緣故者・公共團體等に廉價を以て賣却することを目的とするものなり。而して前者に對する政府の補助は六朱にして、後者に對する補助は資本金額の八朱なり。但し開墾會社の請求する補助期限は十五箇年間となり居れるも、事實會社の要求する補助額は四箇年間に於て合計六百萬圓に過ぎず。其の四箇年間と爲す理由は右四箇年間に於て漸次資本金額三千萬圓の全部の拂込を完了し、之に對する八朱の利子額合計六百萬圓を以て更に第二の開墾に著手するものなるが故に、五箇年目より此の開墾地を賣却し、其の得たる金員の補助に依り會社は一部の開墾を終了して、五箇年後に於ては事實上政府の補助を要せざることとなるものなり。而も十五箇年間八朱の補助と稱して之を公表する所以は、之に依りて株式應募者の安心を得て以て會社の創立の圓滑を期せんとするに外ならず。而して其の株式募集の方法は資本金三千萬圓を六十萬株に分ち、發起人は其の中僅に十萬株を所有するに過ぎずして、殘部五十萬株は總て之を公募するものなりと說明せり。次に此の八朱の補助を得る開墾會社の事業が、開墾助成法に依り六朱の補助を得る自作農たらんとする開墾希望者の事業を壓迫し、或は土地の競爭を惹起するが如きことなきやとの質問に對し、政府は土地利用調査會を設け此等の弊害を防止する豫定なりと說明せり。最後に井上角五郎君は帝國開墾會社に對する政府の命令事項として次の五項を追加し、必ず之を實行すべきことの希望を提出せり。（一）配當は如何なる場合に於ても八分を超ゆることを得ざること（二）前項の配當を爲して尙餘裕あるときは、既往に於ける資本の缺損に對する補給を返還せしめ、尙餘裕あるときは之に應じて開墾地賣拂代金を減額すること。其の減ずべき金額は各年度に於て政府の承認を經べきこと（三）開墾地は自作農たらんとする者・緣故者・公共團體の順位を以て優先賣渡を爲すこと（四）前項の場合に於ける開墾地の賣却價格は開墾成功費の五割增に當る金額の範圍内に於て之を定むること。但し其の他の場合は政府の承認を得て此の標準に依らざることを得（五）北海道は除外する

こと。但し北海道長官の要求あるときは此の限に在らず。尋いで討論に入り憲政會を代表する町田忠治君より、本追加豫算中より帝國開墾株式會社に關する經費を削除する動議を提出せり。其の趣旨は帝國開墾株式會社に關しては種々の疑惑を存し、且政府の食糧問題に關する方策の根本に於て疑點あるを以て贊成し難しと云ふに在り。採決の結果は町田君提出の修正意見は少數を以て否決となり、委員會は追加豫算案全部原案の通可決したり。』

尋いで町田忠治は第三號追加豫算案中帝國開墾株式會社補助費を削除するの修正動議を提出せしが、採決の結果少數にて否決せられ、追加豫算案は總て原案の通可決せられたり。

貴族院に於ては三月二十一日衆議院より追加豫算案を受理し、豫算委員會に於て審議の結果、會期切迫の際斯かる重大問題を充分に審議することは不可能なりとの理由を以て、第三號追加豫算案中帝國開墾株式會社補助契約を否決し、其の他は原案の通可決すべきものと決定し、同月二十六日豫算委員長は之を本會議に報告せしが、採決の結果異議なく總て委員會議決の通可決確定したり。貴族院の修正に對しては衆議院も之に同意を表せしを以て、茲に兩院の協贊を經たる第三號追加豫算は、裁可を經て大正八年四月四日公布せられたり。

（四）第四號追加豫算案に計上する所の金額は歳入歳出各二十五萬九千九百二十六圓にして、其の追加を要する事項金額左の如し。

歳入臨時部

前年度繰入金	二五九、九二六円

歳出經常部

内務省所管

吏蹟名勝天然紀念物保存法の制定に伴ふ經費	二三、一九二円
度量衡法の改正に伴ふ準備費	一五、五三一
度量衡檢定所新營及修繕費	二〇八、〇九〇

農商務省所管

度量衡法の改正に伴ふ準備費	一三、一一三

歳出臨時部

右追加豫算案は大正八年三月二十三日衆議院に提出せられしが、衆議院は同月二十四日、貴族院は同月二十六日、何れも異議なく之を可決せしを以て、裁可を經て同年四月四日公布せられたり。

以上第四十一回帝國議會の協贊を經たる大正八年度追加豫算四件を一括表揭すれば左の如し。

大正八年度歳入歳出總豫算追加表

科目	金額	科目	金額
歳入		戰時利得稅	九三、六三五、三四九円
臨時部		戰時利得稅	九三、六三五、三四九
雜收入	三、〇〇〇、五九一円	借入金	三、〇〇〇、〇〇〇
山東鐵道收入	二三、四〇八、〇〇三	借入金	三、〇〇〇、〇〇〇
青島事業收入	九九八、八七八	前年度繰入金	三七、三七七、八〇六
臨時受託造修收入	三、九九三、七一〇	前年度繰入金	三七、三七七、八〇六
臨時海上再保險收入	三、六〇〇、〇〇〇	高等諸學校創設及擴張費下賜金	二、〇〇〇、〇〇〇
港灣設備費納付金	一、四四〇、〇〇〇	高等諸學校創設及擴張費下賜金	二、〇〇〇、〇〇〇
港灣設備費納付金	一、四四〇、〇〇〇	**臨時部合計**	二六七、三六〇、一七六
公債募集金	九六六、四三〇	**歳入總計**	二六七、三六〇、一七六
高等諸學校創設及擴張費公債金	九六六、四三〇		
		歳出	
		經常部	
		内務省所管	
		内務本省	三三、九三一円
		俸給	一、七四〇
		臨費及修繕費	一、二四〇
		雜給及雜費	三〇、四一三
		地方廳俸給	〇五、五二一
		俸給	七、五二〇
		臨費及修繕費	二、〇九六
		雜給及雜費	五、九二五
		連帶支辨金及補助金	三七、五四五

科目	金額
警察費	
軍人恩給費	
国債整理基金繰入	
合計	
大蔵省所管	
内国税徴収費	一、二〇〇
印紙及酒精税収入金交付金	三五、〇〇〇
国債整理基金繰入	三五、〇〇〇
合計	三五、一〇〇
内務省所管	
港湾改良費	一、三五八
神戸港修築費	一、三五八
国債整理基金繰入	三五、〇〇〇
合計	三五、〇〇〇
経常部合計	三五、三五八
臨時部	
内務省所管	
港湾改良費	一、三五八
神戸港修築費	一、三五八
国債整理基金繰入	三五、〇〇〇
合計	三五、〇〇〇
大蔵省所管	
内国税徴収費	一、二〇〇
印紙及酒精税収入金交付金	三五、〇〇〇
国債整理基金繰入	三五、〇〇〇
合計	三五、一〇〇
文部省所管	
大学及学校図書館支出金	六、一三四
合計	六、一三四
逓信省所管	
年金及恩給	一、四六八
合計	一、四六八
農商務省所管	
水産業奨励費	一、二三一
木材検査所設備費	六六〇
合計	一、八九一
鉄道院所管	
鉄道及運輸営業費	七、〇〇〇
鉄道建設及改良費	三、〇〇〇
合計	一〇、〇〇〇
陸軍省所管	
軍人恩給費	四、〇〇〇
合計	四、〇〇〇
海軍省所管	
軍人恩給費	一、〇〇〇
合計	一、〇〇〇
経常部合計	三七、八五九
臨時部	
陸軍省所管	
臨時軍事費	一〇〇、〇〇〇
合計	一〇〇、〇〇〇
海軍省所管	
臨時軍事費	一〇〇、〇〇〇
合計	一〇〇、〇〇〇
臨時部合計	二〇〇、〇〇〇
総計	二三七、八五九

新規繰越費表

事項	神戸港修築費	高等諸学校創設費	合計
総額	七一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	二一六、〇〇〇円
大正八年度	一〇、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一五五、〇〇〇円
同九年度	三一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一七六、〇〇〇円
同十年度	三一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一七六、〇〇〇円
同十一年度	三一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一七六、〇〇〇円
同十二年度	三一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一七六、〇〇〇円
自同十三年至同十七年度	三一、〇〇〇円	一四五、〇〇〇円	一七六、〇〇〇円

以上第四十一議会の協賛を経たる追加予算を其の本予算額に加算して大正八年度歳入歳出総

第三章　一般会計　第十八節　大正八年度歳計

科目	金額
警察費	
軍人恩給費	
国債整理基金繰入	
合計	
大蔵省所管	
煙草専売費	一、二〇〇
合計	一、二〇〇
逓信省所管	
電信電話費	三五、七〇〇
合計	三五、七〇〇
農商務省所管	
鉱業費	六〇〇
合計	六〇〇
経常部合計	三七、五〇〇
臨時部	
逓信省所管	
新規電信電話費	一、〇〇〇
電信電話拡張費	一、〇〇〇
合計	二、〇〇〇
農商務省所管	
新規鉱業費	一、〇〇〇
合計	一、〇〇〇
臨時部合計	三、〇〇〇
総計	四〇、五〇〇

新規繰越費表

事項	軍人恩給費	国債整理基金繰入	合計
総額	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
大正八年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
同九年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
同十年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
同十一年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
同十二年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円
自同十三年至同十七年度	一、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	三六、〇〇〇円

豫算の總額を示せば左の如し。

大正八年度歳入歳出總豫算總計表

區分		本豫算額	追加豫算額	總計
		円	円	円
歳入	經常部	八三九、一四〇、九四三	一六七、三六〇、一七六	八三九、一四〇、九四三
	臨時部	七七、六六九、三三一		三三五、〇四九、三九七
	合計	八九六、八一〇、一六四	一六七、三六〇、一七六	一、〇六四、一九〇、三四〇
歳出	經常部	五〇一、三六三、三三四	四、五七三、三五八	五〇五、九三六、六九二
	臨時部	三七三、〇九四、二九一	一八五、二九、三五七	五五八、二五三、六四八
	合計	八七四、四五七、六二五	一八九、七三、七一五	一、〇六四、一九〇、三四〇

第三款　豫備金及豫備金外支出

大正八年度第一豫備金の豫算額は三百萬圓にして、大正八年勅令第百七十二號に依り豫算全額を各費途に補充せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、在外公館電信料・海港檢疫費・褒賞恩賜及救助費・傳染病豫防檢疫諸費・貴衆兩院議案類印刷費・稅關臨時勤勞手當・收容貨物處分費・稅關特派官吏費・諸拂戻金・陸軍一年志願兵及幼年學校自費生諸費等なり。

大正八年度第二豫備金の豫算額は五百萬圓にして、豫算外に生じたる各費途に豫算全額を支出せり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、輸入獸類檢疫所設置及應急設備費・風水害復舊費・火災復舊費・航空勤務遭難者保護賜金・米穀管理費等なり。

大正八年度大正三年臨時事件豫備費の豫算額は一億七千二百萬圓にして、大正三年臨時事件に關する各費途に豫算全額を支出せり。

大正八年度第一豫備金及第二豫備金豫算拂切となりたるに付、豫備金外に於て國庫剩餘金を以て豫算超過及豫算外の支出を爲したる金額は一億七千四百三十九萬七千五百九十八圓三十一錢にして、內豫算超過支出額は千六百八十三萬千九百四十七圓三十一錢、豫算外支出額は三千六十四萬四千二百八十一圓なり。今其の支出の重要なる事項を擧ぐれば、豫算超過支出に屬するものは在外公館電信料・檢丁及新兵旅費・警察費・連帶支辨金・傳染病豫防費補助・褒賞費・諸拂戻金・陸軍精米精麥及馬糧費・陸軍一年志願兵及幼年學校自費生諸費・裁判及登記諸費・在監人費・染料及火藥・爆藥原料製造奬勵金等にして、豫算外支出に屬するものは衆議院議員臨時總選擧取締費・風水害復舊費・流行性感冒治療諸費・朝鮮師團營繕及初度調辨費補足・軍艦製造費補足・水陸設備費補足・大正三年臨時事件に關する經費等なり。

右大正八年度豫備金及豫備金外支出の件に關しては、政府は大正十年二月二十四日第四十四回帝國議會の事後承諾を求むる爲め、之が總計算書を衆議院に提出せしが、衆議院は三月十日異議なく全部承諾を與ふることに決定し、貴族院は三月二十六日左の如き希望條件を附して全部承諾を與ふることに決定したり。

近年剩餘金支出激增し、大正八年度に於て特に巨額に達せり。而して此の如きことの當否に付ては憲法上疑あるのみならず、米穀管理に關しては其買入時機方法宜しきを得ず、國庫に巨額の損失を被らしめ、而も米價調節に貢獻せし所幾何なるかを疑はしむるに至りしことは遺憾に堪へず。將來政府は剩餘金支出に關して特に愼重なる注意を拂ひ、濫費を防ぎ、且つ機宜の策を過らざらんことを望む。